

取扱説明書

多機能電話アプリケーション2 for Android

(ET-MFTAPA2)

Ver.03-04~

このたびは、本アプリケーションをご利用頂きまことにありがとうございます。
この「取扱説明書」は、多機能電話アプリケーション2（以降本アプリケーションまたはアプリケーションと記載）をご利用する場合に使用します。
よくお読みのうえ、内容を理解してからお使いください。
●この「取扱説明書」に記載されていない機能については、主装置の取扱説明書をご覧ください。
●主装置のデータ設定については、販売店にご依頼ください。

■本取扱説明書全体の注意点について

- 本取扱説明書及び本アプリケーションの一部または全部を無断で複製・転載することは、固くお断りします。
- 本取扱説明書及び本アプリケーションの内容について、改良・仕様変更のため予告なしに変更することがあります。
- 本取扱説明書中のイラスト及び画像は、説明用のため実際とは多少異なる場合があります。
また、説明に関係のない部分を一部省略している場合があります。
- 本取扱説明書中における端末（OS）側の設定に関する記載の表現や手順等は一例であり、ご利用の機種によっては、一部の表現や手順等が異なる場合があります。

■本取扱説明書に記載の各社商標について

- AndroidはGoogle LLCの商標または登録商標です。
- その他、各会社名、各製品名は、各社の商標または登録商標です。

目次

1. 概要	3
アプリケーション導入上のご注意	3
動作確認済み機種一覧	9
2. アプリケーションの起動	10
アプリケーションの起動	10
3. アプリケーションの設定	14
社外利用ON/OFF	14
モバイル回線固定ON/OFF	15
基本情報の設定	16
保守情報の設定	25
プライバシーポリシー	36
Q&A	37
著作権情報表示	38
ログアウト	39
アプリの終了	41
4. アプリケーションの操作方法（基本的な使い方）	43
外線に電話をかける	43
外線からの電話を受ける	45
外線通話を保留する	46
保留した外線に応答する	47
内線に電話をかける	49
内線からの電話を受ける	50
内線通話を保留する	51
保留した内線に応答する	52
5. アプリケーションの操作方法（便利な使い方）	53
ハンズフリー通話をする	53
主装置の電話帳を利用して電話をかける	58
主装置の各種履歴を利用して電話をかける	63
クリック・ツー・コールを利用して外線に電話をかける	72
カメラを使う（拠点内で画像サーバを使用する場合）	73
カメラを使う（拠点間で画像サーバを使用する場合）	78
カメラを使う（拠点内で画像サーバを使用せずにIPカメラドアホンを利用する）	82
カメラを使う（拠点間で画像サーバを使用せずにIPカメラドアホンを利用する）	86
カメラを使う（拠点内で画像サーバを使用せずに端末の内蔵カメラを利用する）	89

目次

カメラを使う（拠点間で画像サーバを使用せずに端末の内蔵カメラを利用する）	92
カメラを使う（主装置指示設定で拠点内の画像関連機能を利用する場合）	96
カメラを使う（主装置指示設定で拠点間の画像関連機能を利用する場合）	106
拠点内の簡易ビデオ会議を行う	113
拠点間の簡易ビデオ会議を行う	117
プッシュ通知機能を利用する	126
ASPサーバ着信機能を利用する	128
インカムモード着信に自動応答する	133
外出先で利用する（どこでもでんわ）	135
二次元コードで設定を行う	136

1. 概要

本アプリケーションは、スマートフォンをSiシリーズ、Xシリーズ主装置の内線電話機として、主装置の各種機能を利用させていただくためのアプリケーションです。

※本アプリケーション（ET-MFTAPA2）は、着信時等におけるプッシュ通知機能（インターネットを経由し、アプリケーションが未起動（停止中）の場合においてもお知らせ（通知）を受信する機能）に対応しています。Siシステムの場合は主装置ソフトウェアを必ず「2-1版以上」へ更新してください（「1-X版」では本アプリケーションを利用できません）。詳細は、販売店にご確認ください。

※Xシリーズ主装置をご利用の場合は、本アプリケーションバージョン：02-07~をご利用ください。

※どこでもでんわ機能をご利用の場合は、「本アプリケーションバージョン：03-01~」および「Xi主装置ソフトウェア2-1版~」をご利用ください。

※3G、LTE、4G、5Gなどの通信規格表記は携帯キャリア通信・通話のことを指しています。また、本取扱説明書では4G、5Gなども含めて3G/LTEと表記する場合があります。

アプリケーション導入上のご注意

- 本アプリケーションをSiシリーズ、Xシリーズの内線電話機として利用するにあたっては以下の用品が必要となりますので、利用前にご確認ください。
 - Siシリーズ主装置（ソフトウェア：2-1版~）、Xシリーズ主装置（ソフトウェア：1-1版~）
 - Siシリーズ用、Xシリーズ用の各VoIP内線ユニット（VOIPU/VOIPUD）
 - ※スマートフォンの接続台数に応じた枚数が必要
 - 多機能電話アプリケーション接続用ライセンスキー（スマートフォンの接続台数に応じた数が必要）
 - ※ライセンスキーの追加方法は、販売店にご確認いただくか、主装置の工事・保守マニュアル「データ設定マニュアル編-ライセンス管理」に関する記載をご参照ください。
 - 無線LANアクセスポイント
 - ※動作確認済みの無線LANアクセスポイントについては、販売店にお問い合わせください。動作確認済みの無線LANアクセスポイント以外の機種をご利用の場合、品質の保証はできません。また、無線LANアクセスポイントの設定は販売店へご依頼ください。
 - Siシリーズ用、Xシリーズ用の各画像サーバユニット：画像関連の機能を利用する場合のオプション品として必要
 - ※画像サーバユニットに関する詳細は、画像サーバユニット側のマニュアルをご参照ください。
 - IPカメラドアホン（IPCAMDH）：画像関連の機能を利用する場合のオプション品として必要
 - ※IPカメラドアホンに関する詳細は、IPカメラドアホンのマニュアルをご参照ください。
- 本アプリケーションを動作確認済み機種以外の機種へインストールして利用した場合の動作保証はいたしません。
- Wi-Fiのネットワーク設定の「IP設定」は「固定(静的)」に設定し、必ずシステム環境に適したIPアドレスを設定してください。
 - ※DHCP機能は利用しないようご注意ください。画像関連の機能が利用できない可能性があります。
- 端末側のWi-Fi詳細設定の中にある「スリープ時のWi-Fi接続」または「スリープ中にWi-Fi接続を維持」の設定は「接続を維持する」または「常にON」としてください。
- 本アプリケーションは、通話音声や画像をWi-Fi及びIPネットワーク経由で通信します。一般の電話機に比べて通話品質が異なる、通話ができない、エコーや通話音声・画像の遅延、一時的な途切れ、操作が有効にならないなどの事象が発生することがあります。
特に以下のような状況の場合は、ご注意ください。
 - 電波の弱いエリアで本アプリケーションを使用している場合や周囲の環境変化によって一時的に電波状況が弱くなっている場合
 - ※無線LANアクセスポイントの設置場所を移動及び周辺に電波を利用する機器を設置する場合は、販売店へご相談ください。
 - スマートフォンが高負荷の状況にある場合
 - 無線LANアクセスポイントを接続しているHUBに大量のデータ通信が発生した場合

1. 概要

アプリケーション導入上のご注意

- 1台の無線LANアクセスポイントに多数のスマートフォンを接続すると、端末1台あたりの通信速度が低下しますので、全てのスマートフォンで通話や画像の品質が悪化するおそれがあります。1台の無線LANアクセスポイントに同時接続するスマートフォンの目安は以下のようになっています。
 - ・画像関連の機能を利用する場合：4台
 - ・画像関連の機能を利用しない場合：8台
- 本アプリケーションは事業所用PHSと異なり、「ハンドオーバー」の動作はできません。移動しながら通話している際に接続している無線LANアクセスポイントの電波が届かない場所に行くと、近くに別の電波状況が良好な無線LANアクセスポイントがあっても「ハンドオーバー」の動作はせずに通話が切断されますので、ご注意ください。
また、最初に設定した無線LANアクセスポイントとは別の無線LANアクセスポイントへ接続されてしまった場合は主装置への接続が切断されますので、再度主装置への接続操作を行ってください。
※本アプリケーションを利用している環境や動作時の条件によっては、通話が継続することがあります。
環境や動作時の条件の詳細については、販売店にご確認ください。
- 主装置へ正常に接続できない場合は、無線LANアクセスポイントの設定及びスマートフォンのWi-Fi設定をご確認のうえ、必要に応じて設定を見直してください。また、設定を変更した場合は、本アプリケーションを必ず再起動してください。
- 本アプリケーションはスマートフォンの画面解像度やフォントサイズによっては、正常に表示できないことがあります。本アプリケーションを起動中に端末側で「フォント」や「テーマ」の設定を変更した場合は画面が正常に表示されませんので、必ず本アプリケーションを再起動してください。
- スマートフォンのOS内部の処理競合によって、正常に画面を表示できないことがあります。その場合、タブのタップやスワイプ操作等による画面切替を行ってください。
- Google Playストアの設定の中にある「アプリの自動更新」は「自動更新は一切しない」または「アプリを自動更新しない」に設定してください。他の設定としている場合、利用しているスマートフォンによっては他のアプリケーションの自動更新中に本アプリケーションが動作した際に正常な通信ができないことがあります。
- 本アプリケーションが正常に動作していない場合は、アプリケーションの再起動を行ってください。それでも動作が安定しない場合は、スマートフォン本体の再起動後に本アプリケーションを再度起動してください。
- 本アプリケーションでの発着信中や通話中に他のアプリケーションを使用しないでください。使用した場合、着信音が鳴らない、通話ができないといった事象が発生することがあります。
- 本アプリケーションでの通話中に3G/LTE回線からの着信が入った場合、本アプリケーション側の通話は設定により、「着信時に保留/応答時に切断/応答時に保留」のいずれかの動作となります。設定の詳細については、「3. アプリケーションの設定-基本情報の設定」に関するページの「着信設定-3G着信応答時の動作」の記載をご参照ください。
- 着信音設定の「ユーザメロディ」設定を利用する場合、使用する音楽ファイルについては、事前にPCとUSB接続し、スマートフォン内の「/Android/data/jp.co.nyc.mftap2/files/ringtones/」フォルダ（本アプリケーションバージョン：02-05～）へ保存することで選択可能な状態となります。
※Ver.02-04以下のバージョンからVer.02-05以上のバージョンに更新した際は、音楽ファイルを「/media/audio/ringtones/」フォルダから上記フォルダへ手動で移動しておく必要があります。
選択可能なユーザメロディは、「ファイル名が半角英数字のwaveファイル(拡張子が.wav)」の音楽ファイルのみとなります。
選択可能なユーザメロディがスマートフォン内に無い場合は「grande_valse_brillante_op18」のみ選択可能な状態となります。
また、有線ヘッドセットの接続中や本アプリケーションの着信中は、「ユーザメロディ」の設定変更を行わないでください。

1. 概要

アプリケーション導入上のご注意

- スマートフォンのOSバージョンや性能により、ガイダンス等の冒頭部分が途切れることがあります。
- 本アプリケーションでBluetooth機器を使用する場合、利用しているスマートフォンとBluetooth機器の組み合わせによっては、操作音や着信音などが鳴動しないことがあります。
- 本アプリケーションでBluetooth機器の使用中は、他のアプリケーションを利用しないでください。利用した場合、他のアプリケーションでBluetooth機能が正常に動作しないことがあります。標準電話アプリケーションなどで3G/LTE回線を利用した発信や通話を行った場合、利用後に本アプリケーションが主装置との再接続を自動で行います。
- 本アプリケーションでBluetooth機器の使用中は、他のBluetooth機器への切替操作を行わないでください。Bluetooth機器を使用した通話が行えなくなることがあります。
- PCとUSB接続し、本アプリケーションで取得した各種ログやエクスポートした設定ファイル等のデータを移動する場合、スマートフォンのファイル転送形式は「MTP(メディア転送モード)」を選択・設定してください。
既にPCとUSB接続している状態且つ既に各種ログのファイルや同じファイル名である設定ファイルのデータがスマートフォンへ保存されている状態で取得やエクスポートを行った場合、PCと再接続してからデータの移動を行ってください。
- 既にスマートフォンへ本アプリケーションがインストールされている状態でGoogle Playストアからアプリケーションの更新を行う場合、本アプリケーションを起動中の状態で更新を行うと、利用しているスマートフォンによっては「強制終了」のダイアログを表示することがあります。この場合、「OK」ボタンをタップしてから再度本アプリケーションのアイコンをタップすると、更新後のバージョンで本アプリケーションが起動します。
- 本アプリケーションで利用可能なSiシリーズ、Xシリーズのサービス機能や主装置側で必要な設定については、主装置の工事・保守マニュアル「データ設定マニュアル編」の「データ設定早見表」・「コマンド一覧表」・「コマンド説明」に記載されていますので、詳細は販売店にご確認ください。
利用するサービス機能によっては、本アプリケーションの画面に十字キー及び[戻る]ボタンが表示されますが、[戻る]ボタンが有効にならないことがあります。
- 回線画面で表示するプログラマブルキーについては、本アプリケーションの初回起動時（主装置への接続完了時）のみ名称を取得します。初回起動後に主装置側でプログラマブルキーの登録内容を変更した場合は、本アプリケーション側の「基本情報の設定-表示設定-プログラマブルキーの表示更新」の設定項目にて最新の情報へ更新してください。
- 本アプリケーションをご利用の前に、主装置側の設定で本アプリケーションを接続する収容位置のプログラマブルキー36に「マイク」を必ず登録してください。登録方法は主装置へ添付の取扱説明書をご参照ください。
※プログラマブルキー36に「マイク」以外の機能のプログラマブルキーは登録しないようにご注意ください。
- 主装置側のプログラマブルキー36へ登録が必要となる「マイク」について、主装置側へ登録済みであっても通話状態且つ「HF切替ボタンON」の状態となるまでは「マイクON」の状態とならないため、主装置側の内線ハンズフリー応答機能が利用できません。
※プログラマブルキー36へ登録した「マイク」が回線画面では「ミュート」と表示されるため、本アプリケーションが待機状態では「マイクON」の状態にすることができません。
- 端末側で「データのバックアップ」及び「自動復元」の設定が有効になっている状態で本アプリケーションの再インストールを行った場合、設定データが復元される（再インストール後のアプリケーション起動時に以前のデータが設定されている）ことがあります。
設定データが復元された場合は、端末の設定アプリからデータを削除し、再度本アプリケーションの設定を行ってください。
- 本アプリケーションを利用する場合、端末独自の省電力に関する設定は無効としてください。
※本アプリケーションが主装置から切断され、着信を受けられないことがあります。

1. 概要

アプリケーション導入上のご注意

- プッシュ通知機能を利用する場合は、事前に主装置をインターネットへ接続する必要があります（主装置がインターネットへ接続されていない場合はプッシュ通知機能が利用できません）。インターネットの接続方法については、販売店にご確認いただくか主装置の工事・保守マニュアル「工事マニュアル編-LANケーブルの接続」及び「データ設定マニュアル編-インターネットWeb設定■主装置のインターネット接続」の記載（Web設定専用コマンドの設定は不要）をご参照ください。
- プッシュ通知機能を利用する際、Wi-Fiのネットワーク設定の「IP設定」は「固定(静的)」に設定し、「ゲートウェイ」の項目にはシステム環境に接続しているルータ等のIPアドレスを、「DNS1」の項目には「8.8.8.8」のIPアドレスを設定してください。
主装置がインターネット未接続のシステム環境でプッシュ通知機能を利用しない場合、「ゲートウェイ」の項目には無線LANアクセスポイントのIPアドレスを設定してください（「DNS1」の項目は「8.8.8.8」の設定で問題ありません）。
- 「アプリケーション導入上のご注意」へ記載している端末側の「アプリの権限」の設定について、「アプリの権限」の設定と併せて「他のアプリの上に重ねて表示」の設定も「許可」の状態（一部名称が異なることがあります）とする必要があります（本アプリケーションバージョン：02-05～）。
「許可しない」の状態とした場合は本アプリケーションを正しく起動及び利用することができません。
- Android10.0でジェスチャーナビゲーションが機能追加になりました（OS機能）。
一部機種では、初期設定でジェスチャーナビゲーションになっているため「戻る」、「ホーム」、「アプリ履歴」ボタンが表示されません（ボタン名称は機種によって異なります）。
従来の表示で利用したい場合には、「3ボタンナビゲーション」に設定してご利用ください。
設定方法は、各機種の説明書をご確認ください。
- Googleの自動入力サービスを利用して本アプリケーションの設定値を入力すると、正常に利用できない場合があります。
端末の「Google自動入力を使用する」を無効にしてご利用ください。

1. 概要

アプリケーション導入上のご注意

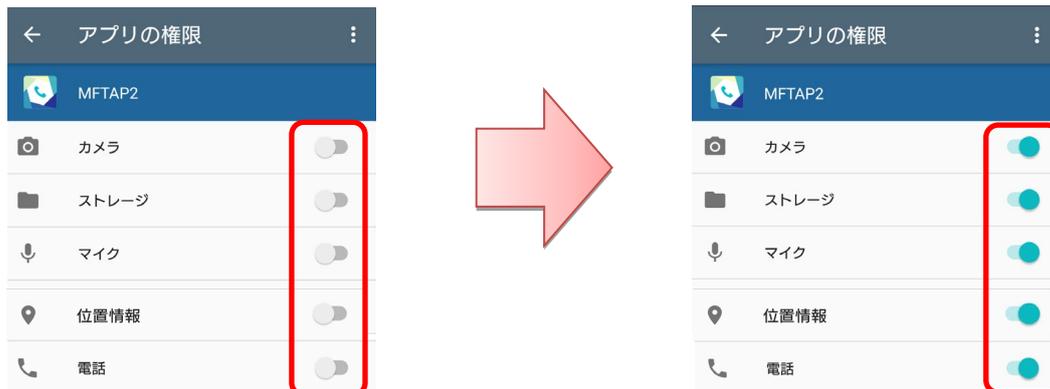
- 端末側の「アプリの権限」の設定で本アプリケーションが利用する各権限を「許可（一部名称が異なる場合があります）」とする必要があります。各権限の状態を「許可しない」とした場合は本アプリケーションを正しく起動及び利用することができません。

本アプリケーションを新規でインストールする場合、各権限の状態は初期で「許可しない」となっていますので、必ず「許可」に変更のうえ（下記設定例は一例）、ご利用ください。権限の詳細については動作確認済み機種一覧をご覧ください。

- ※1.既に本アプリケーションがインストールされている状態から新しいバージョンのアプリケーションに更新を行った際も、上記設定の状態を必ず確認してからご利用ください。特にVer.02-02以下のバージョンからVer.02-03以上のバージョンに更新した際は、【位置情報】の状態を必ずご確認ください。
- ※2.本アプリケーションの起動中に上記設定の状態を変更した場合は各機能が正常に動作しない可能性がありますので、変更はしないでください。万が一変更した場合、必ず本アプリケーションの再起動を行った後にご利用ください。
- ※3.各権限の状態を「許可」とせずに本アプリケーションを起動した場合は変更が必要な旨のダイアログが表示されます。下記の設定例は端末の設定アプリを起動して設定する場合の記載ですが、ダイアログの「OK」をタップ後に自動で表示される設定画面から設定することも可能です。

○各権限の状態の設定例（画面は機種やOSによって異なります）：

- ・ 端末の設定アプリを起動し、「アプリ」→「MFTAP2」の順でタップします。
- ・ 「権限」（機種によっては、「許可」と表示されます）をタップします。
- ・ 各権限の状態を全てタップして「許可」に変更します。



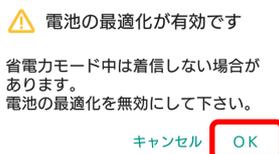
1. 概要

アプリケーション導入上のご注意

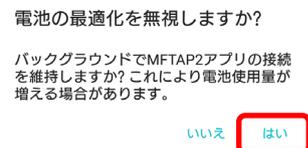
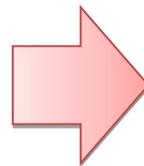
- 端末側の「電池の最適化」の設定を無効にする必要があります。有効にした場合、スマートフォンがスリープ状態で一定時間放置すると、主装置との接続が切断されて本アプリケーションで着信を受けることができませんので、ご注意ください。
- 「電池の最適化」の設定例（画面は機種やOSによって異なります）：
 - ・ 端末の設定アプリを起動し、「バッテリー」をタップします。
 - ・ 画面右上の「メニューアイコン」→「電池の最適化」の順でタップします。
 - ・ 「アプリ」の一覧から「MFTAP2」をタップしてチェックを入れます。



※「電池の最適化」の設定が有効の状態では本アプリケーションを起動した場合は、設定の変更が必要な旨のダイアログが表示されます（機種によって文言は異なります）ので、下記手順に従った操作を行った後に再度本アプリケーションを起動してください。



「OK」をタップ



「はい」をタップ

- どこでもでんわ機能【本アプリケーションバージョン：03-01～】を利用時はIPカメラドホンやテレビ電話などの画像を表示させることができません。音声通話のみとなりますので、画像表示する機能の設定や操作は行わないでください。
- どこでもでんわ機能は携帯キャリアのモバイルデータ通信でのみご利用になれます。Wi-Fi接続でのご利用はできません。【本アプリケーションバージョン：03-04～】はスマートフォンがWi-Fi接続中であっても「モバイル回線固定ON/OFF」設定を「ON」にすることで、どこでもでんわ機能をご利用になれます。

1. 概要

動作確認済み機種一覧

- 本アプリケーションの動作確認済み機種は、サポートページをご参照ください。
多機能電話アプリケーション2 サポートページ
<https://www.hoshunet.jp/fsc/qa/MFT/mftap2.html>
- 本アプリケーションの動作確認済み機種に関する注意事項は、以下記載の通り。
 - ※1：スマートフォンのOS自動バージョンアップは行わないでください。
 - ※2：本アプリケーションをOSのマルチウィンドウ機能で利用することはできません（マルチウィンドウ機能の画面にて本アプリケーションを選択した場合、サポートしていない旨のメッセージが表示された後にフォアグラウンド状態で本アプリケーションのみが起動します）。
 - ※3：一部機種においては、ミュージックアプリで音楽を再生中に本アプリケーションへ着信があった際、ミュージックアプリの音楽が停止せずに音楽の再生と本アプリケーションの着信音鳴動が同時に行われることがあります。このような場合は、ミュージックアプリの音楽を停止後に本アプリケーションの着信へ応答してください。
 - ※4：Android10.0以上の機種において、OS側の画面表示に関する設定で「ダークテーマ」の設定を有効にしている場合でも、本アプリケーションは無効の場合と同様の画面表示及び動作となります。ただし、OS側で表示する画面等については、OS側の画面表示及び動作に依存します。
 - ※5：接続しているWi-Fiネットワークが閉域網（インターネット未接続）の場合は、端末の「インターネット接続確認」の機能をオフに設定してご利用ください。

2. アプリケーションの起動

アプリケーションの起動

アプリケーションを起動します。

※1：アプリケーションの起動前に主装置側のデータ設定（オフフック中の外線着信鳴動）で本アプリケーションを接続する収容位置の設定を「なし」にしておく必要があります。

主装置側のデータ設定の詳細については、販売店へご確認ください。

※2：手順4～6については、アプリケーションの初回起動時のみ操作が必要となります。

1

アプリケーションを起動する前に端末側のWi-Fi設定で、システム環境の無線LANアクセスポイントへ接続します。

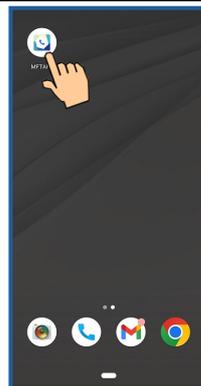


【補足説明】

- Wi-Fi設定後、扇マークの「Wi-Fiアイコン」が表示されていることを必ずご確認ください。
- どこでもでんわ機能を利用する場合、本操作は不要です。

2

アプリケーションアイコン「MFTAP2」をタップします。



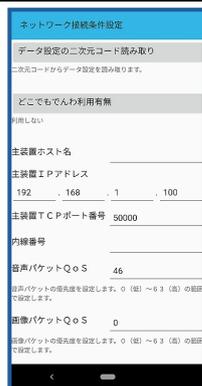
3

アプリケーションの起動画面が表示されます。



4

アプリケーションのネットワーク接続条件設定画面が表示されますので、必要な項目を設定します。



【主な設定項目】

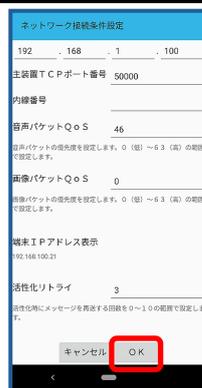
どこでもんわ利用有無【本アプリケーションバージョン：03-01～】	初期値は「利用しない」となっていますので、必要に応じて設定してください。
主装置ホスト名【本アプリケーションバージョン：03-01～】	どこでもんわ利用時および外出先からのログアウト操作を行う場合に設定を行います。初期値は空欄となっていますので、主装置のMACアドレス・容量に従ってホスト名を入力してください。
主装置 IP アドレス	初期値は「192.168.1.100」が入力されていますが、主装置側のデータ設定（主装置のIPアドレス）の値に従うため、必要に応じて変更してください。
主装置 TCP ポート番号	初期値は「50000」が入力されていますが、主装置側のデータ設定（IP端未制御用ポート番号）の値に従うため、必要に応じて変更してください。
内線番号	初期値は空欄となっていますので、主装置側のデータ設定（内線番号）の値に従って接続する収容位置の内線番号を入力してください。
端末 IP アドレス表示	手順1で正常に無線LANアクセスポイントへ接続できている場合、取得したIPアドレスが表示されますので、ご確認ください。 「取得失敗」と表示された場合は、Wi-Fiの接続状況をご確認ください。 どこでもんわを利用する場合は携帯キャリアから割り当てられたIPアドレスが表示されます。

※主装置側のデータ設定の詳細については、販売店へご確認ください。

※Xシリーズ主装置のデータ設定アプリケーション（バージョン：2.1.0.1～）で作成した二次元コードを使用してネットワーク接続条件設定などを設定することができます。【本アプリケーションバージョン：03-01～】

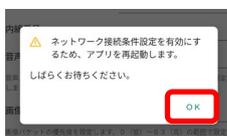
5

必要な項目の設定後、「OK」ボタンをタップします。
※アプリケーションを終了する場合は、「キャンセル」ボタンをタップします。



6

右記のダイアログが表示されるので、「OK」ボタンをタップすると、アプリケーションが自動で再起動します。



アプリケーションが再起動してから数秒後、右記のようにダイヤル画面が表示されます。主装置への接続完了となり、本アプリケーションの利用が可能となります。

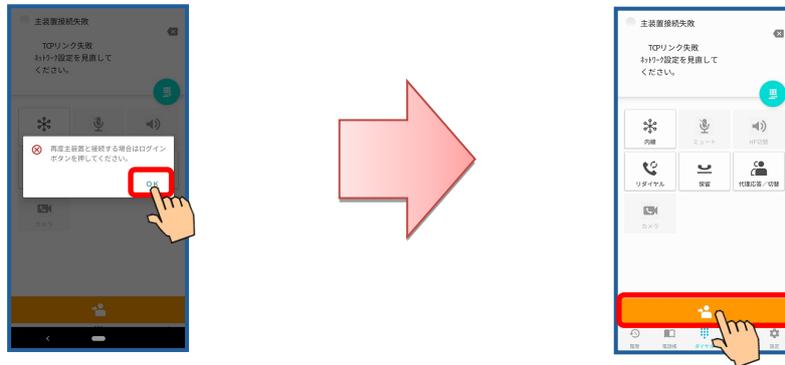


【補足説明】

- 本アプリケーションを初回起動以降に起動した場合、正常に主装置へ接続できる環境であれば、手順3の起動画面表示から数秒後に左記の画面を表示します。
- 本アプリケーションの主装置接続完了後、一部機種において各画面（設定画面を除く）で端末の戻るボタン（例：）やホームボタンなどのナビゲーションバーを表示する場合、画面の一番下側から上方向へスワイプしてください。
- 主装置への接続が完了し、本アプリケーションが利用可能な場合、画面左上（ステータスバー）に「」のアイコンが表示されます。

補足説明

- 主装置への接続に失敗した場合、以下のような画面が表示されます（画面左上（ステータスバー）に「❌」のアイコンが表示されます）。ダイアログの「OK」ボタンをタップし、無線LANアクセスポイントの設定及びスマートフォンのWi-Fi設定やネットワーク環境を必ずご確認ください・見直しのうえ、画面下の「ログインボタン」をタップしてください。正常に主装置へ接続できる環境であれば、数秒後に主装置への接続完了となります。



以下のようなエラー画面（エラー情報 00800000）が表示された場合、スマートフォンの接続台数に応じた数の本アプリケーション接続用ライセンスキーが主装置へ追加されていない可能性があります。販売店にご確認いただき、必ずライセンスキーを主装置へ追加後に再度本アプリケーションを起動してください。
また、他のエラー情報が画面に表示された場合は、販売店にご確認いただき、主装置の工事・保守マニュアル「工事マニュアル編-IPSD電話機・IPLD電話機の設置-障害探索手順」へ記載の「■エラー情報対応表」をご参照のうえでネットワーク環境・設定などを見直してください。



- 本アプリケーションの起動後、主装置への接続状況が通知メッセージとして、通知ドロワーに表示されます。他のアプリケーションをフォアグラウンド状態で起動している場合などにおいて、通知メッセージをタップすることで本アプリケーションを起動することができます。通知メッセージの内容は、以下の通りです（以下の図は一例）。
※マルチタスクボタン（例：）のタップで本アプリケーションを消去すると、通知ドロワーに表示されている通知メッセージが非表示の状態となります（本アプリケーションバージョン：02-03～）。
本アプリケーションを再度起動する場合は、ホーム画面からアプリケーションアイコンをタップしてください。

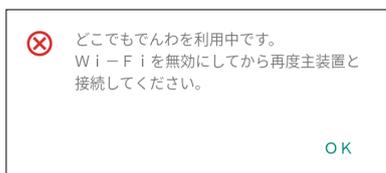
・主装置への接続が正常に完了している場合：



・主装置への接続が失敗している場合：



- どこでもんわ機能を利用する設定で本アプリケーション起動時に以下のエラー画面が表示される場合は、スマートフォンのWi-Fi機能をOFFにしてください。



3. アプリケーションの設定

社外利用ON/OFF

社外利用（どこでもでんわ）のON/OFF 設定を行います。【本アプリケーションバージョン：03-03～】ONの時はどこでもでんわ機能が有効になります。

1 タバーの「設定」を
タップします。



2 社外利用のON/OFFはトグル
スイッチをタップすること
で切り替えができます。



【補足説明】

- 初期値は「OFF」になっています。
- 「OFF」の場合はWi-Fi接続の設定が必要です。
- 「ON」の場合はどこでもでんわの設定が必要です。
スマートフォンのWi-Fi機能はOFFにしてご利用ください。

3 再起動確認のダイアログが
表示されるので、「OK」を
タップします。



3. アプリケーションの設定

モバイル回線固定ON/OFF

スマートフォンがWi-Fi接続時でも、どこでもんわをモバイル回線で利用することができます。【本アプリケーションバージョン：03-04～】

※本アプリケーションの「社外利用ON/OFF」が「ON」に設定されている場合のみ設定変更することができます。「社外利用ON/OFF」が「OFF」に設定されている場合は本設定に関係なくWi-Fiでの通信となります。

1 タバーの「設定」を
タップします。



2 モバイル回線固定のON/
OFFはトグルスイッチを
タップすることで切り替え
ができます。



【補足説明】

- 初期値は「ON」になっています。
※どこでもんわを利用する時は「ON」にしてください。

3 再起動確認のダイアログが
表示されるので、「OK」を
タップします。



3. アプリケーションの設定

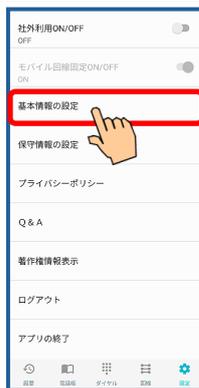
基本情報の設定

アプリケーションを利用するために必要な基本情報の設定を行います。

1 タバーの「設定」を
タップします。



2 「基本情報の設定」を
タップします。



3 必要に応じて各種設定を
行います。
※各種設定の詳細は
次ページ以降へ記載



【補足説明】

- 「表示設定」における各画面のカスタマイズの設定において、同一画面上に同じボタンを複数登録する設定は行わないでください。
同じボタンを複数登録した場合、登録したボタンが使用できないことがあります。

設定区分	設定名称	設定内容	補足説明
表示設定	プログラマブルキーの表示内容	回線画面で各プログラマブルキーに表示する文字を登録します。	プログラマブルキー1～36について、それぞれ表示する文字を登録することが可能です。 ※初期値は全て「なし」です。
	プログラマブルキーの表示更新	回線画面の各プログラマブルキーの表示内容について、主装置側でプログラマブルキーの登録内容を変更した場合に最新の情報へ更新します。	-
	プログラマブルキーの表示数	回線画面で表示するプログラマブルキーの数を選択します。	「12・24・36」の中から選択が可能です。 ※初期値は「24」です。
	対象ボタンハンズフリー機能有無 ※「プログラマブルキーの自動オフフック設定」の設定名称を変更【本アプリケーションバージョン：03-04～】	対象のボタンをタップした時にハンズフリーとするかしないかの設定が可能です。	「ハンズフリー機能なし」に設定した場合、対象のボタン「外線」「DILIN」「パーク」「着信」「発信」「内線」「内線ワンタッチ」「再生」「ボックス」をタップ時に受話口（レシーバー）での通話になります。 ※初期値は「ハンズフリー機能あり」です。
	電話機LCD表示部の時刻表示有無	ダイヤル画面で電話機LCD表示部の時刻について、「表示しない/表示する」を選択します。	「表示する」に設定した場合、ダイヤル画面で電話機LCD表示部の日時の横に主装置から取得した時刻が表示されます。 ※初期値は「表示しない」です。
	ダイヤル画面のカスタマイズ	ダイヤル画面のボタンレイアウトを変更することが可能です。	配置1-1～配置12-3まで設定することが可能です。 ※配置1-1～配置3-1までは初期値が設定されています。
	通話画面のカスタマイズ	通話画面のボタンレイアウトを変更することが可能です。	配置1-1～配置12-3まで設定することが可能です。 ※配置1-1～配置3-2までは初期値が設定されています。
	テレビ電話画面のカスタマイズ	テレビ電話画面のボタンレイアウトを変更することが可能です。	配置1-1～配置12-3まで設定することが可能です。 ※配置1-1～配置4-1までは初期値が設定されています。

設定区分	設定名称	設定内容	補足説明
表示設定	カメラ連動画面の カスタマイズ	カメラ連動画面のボタンレイアウトを 変更することが可能です。	<ul style="list-style-type: none"> 画像サーバ使用時： 配置1-1～配置12-3まで設定 することが可能です。 ※配置1-1～配置5-3までは初 期値が設定されています。 IPCAMDH2使用時： 配置1-1～配置12-3まで設定 することが可能です。 ※配置1-1～配置4-3までは初 期値が設定されています。
	カメラモニタ画面の カスタマイズ	カメラモニタ画面のボタンレイアウト を変更することが可能です。	画像サーバ使用時、IPCAMDH2 使用時共に配置1-1～配置12-3 まで設定することが可能です。 ※配置1-1～配置4-1までは初期 値が設定されています。
	発信画面の カスタマイズ	発信画面のボタンレイアウトを変更す ることが可能です。	配置1-1～配置12-3まで設定す ることが可能です。 ※配置1-1～配置3-2までは初期 値が設定されています。
	着信画面の カスタマイズ	着信画面のボタンレイアウトを変更す ることが可能です。	配置1-1～配置12-3まで設定す ることが可能です。 ※配置1-1～配置3-2までは初期 値が設定されています。
	カスタムエリア 優先表示 【本アプリケーションバージョン： 02-04～】	ダイヤル画面を表示する際、カスタム ボタン（「内線ボタン」や「カメラボタ ン」等）を表示するか、ダイヤルパッ ド（ダイヤルボタン）を表示するかの 設定が可能です。	初期値は「カスタムボタン」が設 定されていますので、必要に応じ て「ダイヤルパッド」へ設定を変 更してください。
	着信時フォントサイズ 拡大 【本アプリケーションバージョン： 02-06～】	着信時のフォントサイズを拡大表示す ることができます。 通常の着信画面では6行目まで表示す ることができますが、文字拡大時は4 行目までの表示となります。 ※着信画面のカスタムボタンのフォ ントサイズも拡大表示することがで きます（本アプリケーションバージ ョン：03-01～）。	初期値は「拡大しない」が設定さ れていますので、必要に応じて「拡 大する」へ設定を変更してくださ い。 ※拡大表示をする場合、アプリケ ーションの各種アイコン（「入力 操作切替ボタン」等）と表示が 重なる場合があります。 ※拡大表示を設定すると一部の表 示が省略される場合があります。

設定区分	設定名称	設定内容	補足説明
表示設定	フォントサイズ拡大 【本アプリケーションバージョン： 03-01～】	LCD、カスタムボタン、プログラマブルキーのフォントサイズを拡大表示することができます。	初期値は「拡大しない」が設定されていますので、必要に応じて「拡大する」へ設定を変更してください。 ※拡大表示を設定すると一部の表示が省略される場合があります。
着信設定	外線着信音	主装置側に設定した外線着信音に対応させる端末側の着信音を設定することが可能です。	主装置側着信音01～07・主装置側着信音メロディの着信音を、「外線着信音A～H、ユーザメロディ」の中から選択可能です。
	内線着信音	内線着信音を設定することが可能です。	「内線着信音A～H、ユーザメロディ」の中から選択可能です。
	内線一般着信音	主装置側に設定した内線一般着信の着信音に対応させる端末側の着信音を設定することが可能です。	主装置側着信音01～07・主装置側着信音メロディの着信音を、「内線着信音A～H、ユーザメロディ」の中から選択可能です。
	ドアホン着信音	主装置側に設定したドアホン着信音に対応させる端末側の着信音を設定することが可能です。	主装置側ドアホン着信音A～Dの着信音を、「ドアホン着信音A～D、ユーザメロディ」の中から選択可能です。

設定区分	設定名称	設定内容	補足説明
着信設定	3G着信応答時の動作	本アプリケーションでの通話中、端末側に3G/LTE着信があった場合または端末側の3G/LTE着信に応答した場合における通話の動作を設定することが可能です。	<p>「着信時に保留」・「応答時に切断」・「応答時に保留」の中から動作が選択可能です。</p> <p>※初期値は「着信時に保留」です。</p> <p>「着信時に保留」または「応答時に保留」のいずれかの動作に設定した場合、端末側の3G/LTE通話終了後に保留中の本アプリケーション側の通話へ再度応答する際は、以下の操作を行ってください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・内線通話中の場合：端末側の3G/LTE通話終了後、主装置側のデータ設定で登録してある保留応答番号をダイヤルして応答します。 ※主装置側のデータ設定や保留応答番号の詳細については、販売店へご確認ください。 ・外線通話中の場合：端末側の3G/LTE通話終了後、内線通話中の場合と同様に保留応答番号をダイヤルして応答するか、回線画面で「保留中の外線ボタン」→「発話ボタン」の順にタップして応答します。
	インカムモード 自動応答	主装置側の「インカムモード機能」を利用時、ボタン電話機等と同様に本アプリケーションで受けた着信に自動応答するかしないかの設定が可能です。	初期値は「自動応答しない」が設定されていますので、「5. アプリケーションの操作方法（便利な使い方）-インカムモード着信に自動応答する」へ記載の操作を行う場合は、必ず「自動応答する」へ設定を変更してください。「自動応答しない」の設定の場合、インカムモード着信時に手動での応答操作が必要となります。
	外線着信時 回線画面表示 【本アプリケーションバージョン： 02-04～】	外線着信時に回線画面を表示するかしないかの設定が可能です。	初期値は「なし」が設定されていますので、必要に応じて「あり」へ設定を変更してください。主装置側の着信機能において、ダイヤルインなど着信時に内線ランプが点滅する着信の場合は、回線画面表示の対象外となります。

設定区分	設定名称	設定内容	補足説明
テレビ電話/ カメラ連動 設定	自画像自動送信	テレビ電話開始時またはカメラ連動画面開始時の自画像の自動送信有無を設定することが可能です。	初期値は「なし」が設定されていますので、必要に応じて「あり」へ設定を変更してください。
	テレビ電話画面自動切替	テレビ電話機能の利用が可能な際に「テレビ電話画面」への自動切替を設定することが可能です。	初期値は「なし」が設定されていますので、必要に応じて「あり」へ設定を変更してください。
	自画像表示	自端末への自画像表示を設定することが可能です。	初期値は「あり」が設定されていますので、必要に応じて「なし」へ設定を変更してください。 本設定はテレビ電話機能利用時のみ有効となります。
	画像表示開始時の文字表示	画像表示画面開始時の文字表示有無を設定することが可能です。	初期値は「表示する」が設定されていますので、必要に応じて「表示しない」へ設定を変更してください。
	コーデック	画像の圧縮方式を設定することが可能です。	初期値は「H.264」が設定されています。 画像関連機能で画像サーバや端末間のテレビ電話を利用する場合、「H.264」へ設定してください。 画像サーバを使用せずにIPカメラドアホンを利用する場合のみ、「MPEG4」へ設定してください。
	解像度	画像の画素数を設定することが可能です。	初期値は「QVGA」が設定されていますので、必要に応じて「VGA」へ設定を変更してください。 ただし、画像関連機能で画像サーバを利用する場合は「QVGA」へ設定してください。
	メイン/フロントカメラの切替	テレビ電話機能の利用時に使用する、端末のカメラを設定することが可能です。	初期値は「フロントカメラ」が設定されていますので、必要に応じて「メインカメラ」へ設定を変更してください。
	映像文字強調表示 【本アプリケーションバージョン：02-02～】	映像画面全体を薄暗く表示し、日付や内線番号・内線名称の文字表示を見やすくすることが可能です。	初期値は「強調表示しない」が設定されていますので、必要に応じて「強調表示する」へ設定を変更してください。

設定区分	設定名称	設定内容	補足説明
主装置電話帳/ 履歴設定	主装置電話帳／履歴ポ ート番号 【本アプリケーションバージョン： 03-01～】	主装置側のデータ設定に従って、接続 する主装置の電話帳／履歴ポート番号 を設定します。	初期値は「50010」が設定されて いますので、必要に応じて設定を 変更してください。 本設定はどこでもでんわ機能利用 時のみ有効となります。
	ID	本アプリケーションから主装置の電話 帳を利用する場合や主装置側の履歴を 確認する場合に、主装置接続用のIDを 設定することが可能です。	本項目へ設定するID・パスワード は、主装置側の「携帯ブラウザ連 携ユーザー登録」で設定されてい る値と必ず同一値にする必要があ ります。
	パスワード ※パスワードはデータ設定のクス ポート及びインポート時に対象外 となります。	本アプリケーションから主装置の電話 帳を利用する場合や主装置側の履歴を 確認する場合に、主装置接続用のパス ワードを設定することが可能です。	詳細は、販売店にご確認いただ か、主装置の工事・保守マニユア ル「データ設定マニュアル編-Web 設定の設定内容」の「■携帯ブラ ウザ連携」に関する記載をご参照 ください。
ログ機能	ログ取得 ※ログに関する詳細は、販売店に ご確認ください。	本アプリケーションの各種ログ（シス テムログ/メディアログ/例外ログ）を 取得することが可能です。 ※取得したログのデータをPCとUSB 接続して移動する際、既にPCと USB接続している状態且つ既に各 種ログのファイルが端末へ保存され ている状態で取得を行った場合は、 PCと再接続してからデータの移動 を行ってください。	取得したログは端末内の 「/Android/data/jp.co.nyc. mftap2/files/log/」フォルダ （本アプリケーションバージョ ン:02-05～）へ保存されます（各 ファイル最大7ファイルまで）。

設定区分	設定名称	設定内容	補足説明
その他	Bluetoothヘッドセット使用有無	本アプリケーションでBluetooth機器やハンドセット付クレードルを使用する場合に設定します。	初期値は「使用しない」に設定されていますので、必要に応じて「使用する」へ設定を変更してください。 ただし、本設定を「使用する」とする場合は端末側のBluetoothの設定も必ず有効としてください。端末側のBluetoothの設定を無効とする場合は本設定も必ず「使用しない」としてください。 ※ハンドセット付クレードルの詳細は、ハンドセット付クレードルの取扱説明書をご参照ください。
	アプリ自動起動	端末のマルチタスクボタン（例：  ）のタップで誤って本アプリケーションを消去した際、直後にアプリケーションを自動起動するかしないかを設定することが可能です。	初期値は「自動起動しない」に設定されていますので、必要に応じて「自動起動する」へ設定を変更してください。 本アプリケーションの設定項目「アプリの終了」または端末の設定アプリで「強制終了」ボタンからアプリケーションを終了した場合は、自動起動しません。
	アクセスポイント優先接続 ※1：本アプリケーションのバージョンが02-03以上で本設定を「有効」とする場合、事前に端末側で「位置情報（現在地）」の設定を有効にしておく必要があります。 ※2：Android10.0以上の機種においては、本設定が初期値の「無効」から変更不可となり、グレーアウトの状態となります（本アプリケーションバージョン：02-05～）。	本アプリケーションを接続している主装置配下のアクセスポイントの圏外から圏内に戻った際、以下のような動作にするか設定することが可能です。 ①アプリケーションが未起動の状態では、圏内に戻った際、バックグラウンドの状態では自動起動させる ※本アプリケーションのバージョンが02-03以上では、OS内部の仕様変更により、アプリケーションを自動起動させることができません。 ②アプリケーションを起動中に圏内に戻って主装置配下外のアクセスポイントに接続した際、接続を切断して主装置配下のアクセスポイントへ再接続を促す	初期値は「無効」に設定されていますので、左記①または②の動作とする場合は「有効」へ設定を変更してください。 左記①について、「有効」に設定している場合においても、端末の設定アプリで「強制終了」ボタンからアプリケーションを終了した場合は、圏内に戻っても未起動のアプリケーションは自動起動しません。

設定区分	設定名称	設定内容	補足説明
その他	フック/スピーカ動作	本アプリケーションの発信操作や通話中（ハンズフリー通話を含む）における操作を「外部アプリ連携モード」または「スマホモード」の設定の中から選択することが可能です。 ※「外部アプリ連携モード」の設定とする場合は、販売店へ詳細をご確認ください。	初期値は「スマホモード」に設定されていますので、通常は「スマホモード」の設定で本アプリケーションをご利用ください（発信や通話中における操作方法の詳細については、各操作方法のページをご参照ください）。
	クレードル連動 【本アプリケーションバージョン：02-06～】	ハンドセット付クレードルのフック操作と連動するかしないかの設定が可能です。	ハンドセット付クレードルのフック操作と連動して利用する場合は、本設定が必要です。 ※ハンドセット付クレードルの詳細は、ハンドセット付クレードルの取扱説明書をご参照ください。
	設定画面パスワード表示 【本アプリケーションバージョン：03-01～】	設定画面に入る前にパスワード入力画面を表示するかしないかの設定が可能です。	初期値は「表示しない」が設定されていますので、必要に応じて設定を変更してください。
	設定画面パスワード設定 【本アプリケーションバージョン：03-01～】	設定画面に入る前に入力するパスワードの設定が可能です。	初期値は「0000」が設定されていますので、必要に応じて設定を変更してください。
基本情報の設定内容初期化	初期化しない	誤って本設定をタップした場合や設定内容の初期化を中止する場合は「初期化しない」をタップしてください。	-
	初期化する	基本情報の設定内容を全て初期化する場合は、「初期化する」をタップしてください。	初期化後にアプリケーションは自動で再起動します。

3. アプリケーションの設定

保守情報の設定

アプリケーションを利用するために必要な保守情報の設定を行います。
※保守情報の設定については、詳細を販売店にご確認のうえで行ってください。

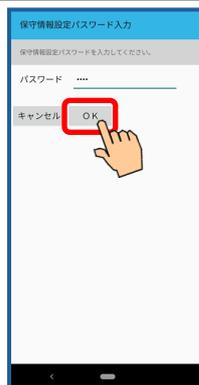
1 タバーの「設定」を
タップします。



2 「保守情報の設定」を
タップします。



3 保守情報設定パスワード
入力画面となりますので、
パスワード(初期値は
「0000」)を入力して
「OK」ボタンをタップ
します。
※設定を中止する場合は、「キャン
セル」ボタンをタップします。



必要に応じて各種設定を行います。
※各種設定の詳細は
次ページ以降へ記載



【補足説明】

- 「音量設定（本アプリケーションバージョン：02-02～）」では、本アプリケーションで通話時の音量設定を変更することが可能です。

ただし、「動作確認済み機種一覧」に記載されている機種等の一部機種については、既に推奨値が設定されていますので、音量設定は変更せずそのまま本アプリケーションをご利用いただくことを推奨します。

推奨値が設定されていない機種（音量設定が初期値のままの機種）をご利用の場合は、必要に応じて詳細を販売店にご確認のうえ設定の変更を行い、必ず事前の通話試験等を実施後に本アプリケーションをご利用ください。

設定区分	設定名称	設定内容	補足説明
ネットワーク 接続条件設定	データ設定の二次元コード読み取り 【本アプリケーションバージョン：03-01～】	Xシリーズ主装置のデータ設定アプリケーションで作成した二次元コードを読み込むことで「ネットワーク接続条件設定」などを設定することができます。	二次元コードの作成については「データ設定アプリケーション」の取扱説明書をご覧ください。【データ設定アプリケーションXiバージョン：2.1.0.1～】
	どこでもでんわ利用有無 【本アプリケーションバージョン：03-01～】	「利用する」に設定することで携帯キャリアのモバイルデータ通信を利用して本アプリケーションを利用することができます。	初期値は「利用しない」が設定されていますが、必要に応じて設定を変更してください。 ※本設定は「社外利用ON/OFF」設定と同期します。【本アプリケーションバージョン：03-03～】
	主装置ホスト名 【本アプリケーションバージョン：03-01～】	主装置のホスト名を「主装置MACアドレス. 主装置容量.hoshunet.jp」の形式で設定してください。	どこでもでんわおよび外出先からのログアウトを利用する場合に必要な設定です。初期値は空欄となっています。
	主装置IPアドレス	主装置側のデータ設定に従って、接続する主装置のIPアドレスを正しく設定してください。	初期値は「192.168.1.100」が設定されていますが、必要に応じて設定を変更してください。
	主装置TCPポート番号	主装置側のデータ設定に従って、接続する主装置のTCPポート番号を正しく設定してください。	初期値は「50000」が設定されていますが、必要に応じて設定を変更してください。
	内線番号	主装置側のデータ設定に従って、接続する収容位置の内線番号を正しく設定してください。	初期値は空欄となっています。
	音声パケットQoS	音声パケットの優先度が設定可能です。	初期値は「46」が設定されていますので、必要に応じて「0(低)～63(高)」の範囲で設定を変更してください。 ※本アプリケーション：～02-XXは初期値が「40」になります。
	画像パケットQoS	画像パケットの優先度が設定可能です。	初期値は「0」が設定されていますので、必要に応じて「0(低)～63(高)」の範囲で設定を変更してください。
	端末IPアドレス表示	現在接続されている無線LANアクセスポイントのIPアドレスまたは携帯キャリアから割り振られたIPアドレスを取得して自動で表示します。 ※手動での設定は不可です。	IPアドレスを正しく取得できなかった場合は、「取得失敗」と表示されますので、無線LANアクセスポイントやモバイルデータ通信の接続状況をご確認ください。

設定区分	設定名称	設定内容	補足説明
ネットワーク 接続条件設定	活性化リトライ	本アプリケーションが主装置と接続されていないとき、本アプリケーションが活性化時に主装置へ接続要求を再送する回数が設定可能です。	初期値は「3」が設定されていますので、必要に応じて「0~10」の範囲で設定を変更してください。
主装置 連携設定	特番・内線番号の可変桁	主装置側のデータ設定により、特番・内線番号を可変桁で運用する場合の設定が可能です。	初期値は「なし」が設定されていますので、主装置側のデータ設定の変更によっては「あり」へ設定を変更してください。
プッシュ通知 ※「基本情報の設定- その他」より移動【本 アプリケーションバ ージョン：03-04~】	-	プッシュ通知機能を使用するかしないかの設定が可能です。	初期値は「使用する」が設定されていますので、「5. アプリケーションの操作方法（便利な使い方）- プッシュ通知機能を利用する」へ記載の操作を行う場合は、そのままの設定としてください。 主装置がインターネット未接続のシステム環境でプッシュ通知機能を利用しない場合は、「使用しない」に設定を変更してプッシュ通知を受けない状態としてください。
画像サーバ 設定	画像サーバ使用	画像関連機能利用時の画像サーバ有無を設定します。設定値は以下の通りです。 ・画像サーバを使用する ・IPCAMDH2のみを使用する ・端末間のテレビ電話のみを使用する ・主装置指示 【本アプリケーションバージョン： 02-02~】	初期値は「端末間のテレビ電話のみを使用する」に設定されていますので、必要に応じて設定を変更してください。
	画像サーバIPアドレス ※「画像サーバを使用する」または 「主装置指示」設定にしている場合 のみ有効となります。	接続する主装置に挿入されている画像サーバユニットのIPアドレスを正しく設定してください。	初期値は「192.168.1.210」が設定されていますが、必要に応じて設定を変更してください。

設定区分	設定名称	設定内容	補足説明
画像サーバ 設定	画像サーバTCP ポート番号 ※「画像サーバを使用する」または 「主装置指示」設定にしている場合 のみ有効となります。	接続する主装置に挿入されている画像 サーバユニットのTCPポート番号を正 しく設定してください。	初期値は「51000」が設定されて いますが、必要に応じて設定を 変更してください。
	画像サーバユーザ名 ※「画像サーバを使用する」または 「主装置指示」設定にしている場合 のみ有効となります。	接続する主装置に挿入されている画像 サーバユニットへ接続するために必要 なユーザ名を設定します。	初期値で「casv」が設定されて いますので、基本的に初期値の ままとしてください。
	画像サーバパスワード ※1:「画像サーバを使用する」また は「主装置指示」設定にしている場 合のみ有効となります。 ※2: パスワードはデータ設定のエ クスポート及びインポート時に対象 外となります。	接続する主装置に挿入されている画像 サーバユニットへ接続するために必要 なパスワードを設定します。	初期値で「casv」が設定されて いますので、基本的に初期値の ままとしてください。
	サーバ接続時ダイヤル ボタンの用途 ※「画像サーバを使用する」または 「主装置指示」設定にしている場合 のみ有効となります。	画像サーバ接続時のダイヤルボタンの 用途が設定可能です。	初期値は「通常のダイヤルボタン」 が設定されていますので、必要に 応じて「サーバボタン(カメラ操作 キー)」へ設定を変更してください。 ※「画像サーバを使用する」また は「主装置指示」設定以外の場合 は、必ず事前に「通常のダイヤル ボタン」を設定してください。
	画像配信用HTTP ポート番号 ※「画像サーバを使用する」または 「主装置指示」設定にしている場合 のみ有効となります。	画像サーバから画像配信要求を行う ときのHTTPポート番号の設定が 可能です。	初期値は「60010」が設定され ていますので、必要に応じて設定 を変更してください。 ただし、設定を変更する場合は 主装置側のデータ設定及び本アプ リケーションで既に設定されてい る他のポート番号と重複しないよ うにご注意ください。 ポート番号が重複した場合、動作 保証外となります。

設定区分	設定名称	設定内容	補足説明
画像サーバ 設定	サーバボタンの 設定内容	画像サーバ側の「画像表示端末設定」 でサーバボタンA～Dに割り付けた 機能の選択が可能です。 本設定により、画像サーバボタンの 文字表示を変更できます。	初期値は以下の通りです。 必要に応じて設定を変更して ください。 ・画像サーバ側サーバボタンA： ズームイン ・画像サーバ側サーバボタンB： ズームアウト ・画像サーバ側サーバボタンC： ポジション→ ・画像サーバ側サーバボタンD： カメラ切替→
	画像サーバへの 接続方法	画像サーバへの接続方法の設定が 可能です。	初期値は「常時起動」が設定され ていますので、必要に応じて「呼 毎起動」へ設定を変更してくださ い。また、「画像サーバを使用する」 設定で拠点間画像通信の各機能(簡 易ビデオ会議/テレビ電話/IPカメ ラドアホン接続等)を利用する場 合、必ず「呼毎起動」の設定とし てください。 「常時起動」に設定した場合、動 作保証外とします。「画像サーバ使 用」で「主装置指示」設定として いる場合、本設定値に関わらず、 呼毎起動の動作となります。
	IPCAMDH2接続設定 ※「IPCAMDH2のみを使用する」 または「主装置指示」設定にしてい る場合のみ有効となります。	主装置から送信されるカメラIDに対応 するIPカメラドアホンのIPアドレスと IPカメラドアホンの表示名称が4台分 設定可能です。	初期値で「設定1」がデフォルト カメラに設定されています。 また、4台分の設定全てにおいて、 ・カメラID：000 ・IPアドレス：0.0.0.0 ・表示名称： カメラドアホン1～4 に設定されていますので、必要に 応じて設定を変更してください。
	IPCAMDH2 TCPポート番号 ※「IPCAMDH2のみを使用する」 または「主装置指示」設定にしてい る場合のみ有効となります。	使用するIPカメラドアホンのTCPポー ト番号の設定が可能です。	初期値は「51000」が設定されて いますので、必要に応じて設定を 変更してください。

設定区分	設定名称	設定内容	補足説明
画像サーバ 設定	IPCAMDH2解像度 ※「IPCAMDH2のみを使用する」 または「主装置指示」設定にしてい る場合のみ有効となります。	使用するIPカメラドアホンの画像の画 素数を設定することが可能です。	初期値は「QVGA」が設定されて いますので、必要に応じて「VGA」 へ設定を変更してください。 また、画像サーバを使用せずにIP カメラドアホンを利用する場合や 主装置指示設定でIPカメラドアホ ンを利用する場合、IPカメラドアホ ン側の解像度の設定と本設定を必 ず同一値に設定してください。異 なる値に設定した場合、動作保証 外とします。
	映像パケットMTU値 【本アプリケーションバージョン： 02-02～】	映像パケット送信時のパケットサイズ を設定することが可能です。	初期値は「1500」が設定されて いますので、拠点間画像通信の各 機能(簡易ビデオ会議/テレビ電話 /IPカメラドアホン接続等)を利用 する場合は、使用しているルータ によって設定を変更（以下の設定 値へ変更）してください。 ・ヤマハ製ルータ：1200 ・Siシリーズ、Xシリーズ用IP電話 インタフェース (IPCOI) のルー タ機能を使用している場合： 1400
外部アプリ 連携設定	ログインID	TELNET接続時のログインIDの設定 が可能です。	初期値は空欄となっています。
	ログインパスワード ※パスワードはデータ設定のエク スポート及びインポート時に対象外 となります。	TELNET接続時のログインパスワー ドの設定が可能です。	初期値は「system_mgr」が設定 されていますので、必要に応じて 設定を変更してください。
	外部アプリ用 ポート番号	外部アプリケーションとの接続時に 使用するポート番号の設定が可能 です。	初期値は「12345」が設定され ていますので、必要に応じて設定 を変更してください。 ただし、設定を変更する場合は 主装置側のデータ設定及び本アプ リケーションで既に設定されてい る他のポート番号と重複しないよ うにご注意ください。 ポート番号が重複した場合、動作 保証外となります。

設定区分	設定名称	設定内容	補足説明
外部アプリ 連携設定	アプリ表示設定	着信時やオフフック操作時にバックグラウンド状態のアプリケーションを表示させるかどうかの設定が可能です。	初期値は「表示する」が設定されていますので、必要に応じて「表示しない」へ設定を変更してください。
	外線発信方法の選択	外部アプリケーションから外線発信操作を行う場合の発信方法の選択が可能です。	初期値は「プリセットダイヤル発信」が設定されていますので、必要に応じて「外線自動発信」へ設定を変更してください。
	発信特番自動付加の有無 ※外線発信方法の選択設定が「外線自動発信」の場合のみ有効となります。	外線自動発信時に外線発信特番を付加するかどうかの設定が可能です。	初期値は「付加する」が設定されていますので、必要に応じて「付加しない」へ設定を変更してください。
	外線自動発信時の外線発信特番 ※外線発信方法の選択設定が「外線自動発信」の場合のみ有効となります。	外線自動発信時に付加する外線発信特番の設定が可能です。	初期値は「0」が設定されていますので、必要に応じて設定を変更してください。
	先頭ダイヤル判定の有無 ※外線発信方法の選択設定が「外線自動発信」の場合のみ有効となります。	外線自動発信時に先頭ダイヤル判定を行うかどうかの設定が可能です。	初期値は「先頭ダイヤル判定する」が設定されていますので、必要に応じて「先頭ダイヤル判定しない」へ設定を変更してください。
音量設定	エコーキャンセラ設定 【本アプリケーションバージョン：02-02～】	本アプリケーションで通話時のエコーキャンセラを設定することが可能です。	必要に応じてエコーキャンセラを解除する場合は、本設定を「OFF」としてください。 ※推奨値が設定されていない機種 の初期値は「ON」です。既に推奨値として「OFF」が設定されている一部機種については、そのままご利用いただくことを推奨します。

設定区分	設定名称	設定内容	補足説明
音量設定	送話レベル調整 【本アプリケーションバージョン： 02-02～】	<ul style="list-style-type: none"> • 通話/ヘッドセット通話の送話レベル →本アプリケーションで通常の通話 またはヘッドセットを利用した通話を行う際の送話レベル（音量）を調整することが可能です。 ※推奨値が設定されていない機種 の初期値は「10」です。 【本アプリケーション バージョン：02-03～】 • Bluetooth通話の送話レベル →本アプリケーションで Bluetooth ヘッドセットを利用した通話を行う際の送話レベル（音量）を調整することが可能です。 ※推奨値が設定されていない機種 の初期値は「0」です。 	<p>必要に応じて送話レベルを調整する場合は、「-40～20（dB）」の範囲で設定を行ってください。</p> <p>※既に推奨値として値が設定されている一部機種については、そのままご利用いただくことを推奨します。</p>
	受話レベル調整 【本アプリケーションバージョン： 02-02～】	<ul style="list-style-type: none"> • 通話/ヘッドセット通話の受話レベル →本アプリケーションで通常の通話 またはヘッドセットを利用した通話を行う際の受話レベル（音量）を調整することが可能です。 • Bluetooth通話の受話レベル →本アプリケーションで Bluetooth ヘッドセットを利用した通話を行う際の受話レベル（音量）を調整することが可能です。 	<p>必要に応じて受話レベルを調整する場合は、「-40～20（dB）」の範囲で設定を行ってください。</p> <p>※推奨値が設定されていない機種の初期値は「0」です。既に推奨値として値が設定されている一部機種については、そのままご利用いただくことを推奨します。</p>
	音量設定初期化 【本アプリケーションバージョン： 02-02～】	<p>誤って本設定をタップした場合や設定内容の初期化を中止する場合は「初期化しない」をタップしてください。</p> <p>音量設定の設定内容を全て初期化する場合は、「初期化する」をタップしてください。</p>	<p>「初期化する」をタップした場合、初期化後にアプリケーションは自動で再起動します。</p>
システム管理	保守情報設定 パスワード ※パスワードはデータ設定のエクスポート及びインポート時に対象外となります。	<p>保守情報設定時、設定画面に入る前に入力するパスワードの設定が可能です。</p>	<p>初期値は「0000」となっていますので、必要に応じて設定を変更してください。</p>

設定区分	設定名称	設定内容	補足説明
システム管理	アプリケーションのバージョン	現在インストールされているアプリケーションのバージョンを確認することができます。	-
	データ設定のエクスポート	本アプリケーションのデータ設定をエクスポートすることができます。 ※本アプリケーションのアンインストール時、エクスポートしたファイルは削除されますので、ご注意ください（本アプリケーションバージョン：02-05～）。	エクスポートしたデータ設定は端末内の「/Android/data/jp.co.nyc.mftap2/files/setting/」フォルダ（本アプリケーションバージョン：02-05～）へ「datファイル」として保存されます。 → 例：TELAP230101.dat ※ファイル名はエクスポート時に「TELAP」の文字列の後に日付が入って自動で表示されますが、必要に応じて変更することが可能です。
	データ設定のインポート	端末内へ保存されている本アプリケーションのデータ設定をインポートすることができます。 ※本アプリケーションをバージョンアップした場合、現バージョンより前のバージョンでエクスポートしたファイルについてもインポートすることが可能です（現バージョンと前のバージョンの両方に存在する設定項目については、そのまま引き継がれます）。 ただし、Ver.02-04以下でエクスポートしたファイルをVer.02-05以上でインポートする場合は、事前に端末内の「/Download/」フォルダから「/Android/data/jp.co.nyc.mftap2/files/setting/」フォルダへファイルを手動で移動しておく必要があります（本アプリケーションバージョン：02-05～）。	端末内の「/Android/data/jp.co.nyc.mftap2/files/setting/」フォルダ（本アプリケーションバージョン：02-05～）へ「datファイル」が複数存在する場合は、任意のファイルを選択することが可能です。 ※1:インポート後、アプリケーションは自動で再起動します。 ※2:PCで、インポートするファイルの編集が必要な場合、「&、'、`、<、>」の記号は登録しないように、ご注意ください（編集によって上記記号を登録した場合、インポートが行われません。上記記号をご利用の場合は、アプリケーション側の各設定項目にて登録してください）。

設定区分	設定名称	設定内容	補足説明
システム管理	プッシュ通知レジスト情報	プッシュ通知機能を利用するために必要なレジスト情報を取得し、表示することができます。	「ファイル保存」ボタンをタップすると、端末内の「/Android/data/jp.co.nyc.mftap2/files/RegistID/」フォルダ（本アプリケーションバージョン：02-05～）へ「RegistID.txt」のファイルとして保存することが可能です。
保守情報の設定内容初期化	初期化しない	誤って本設定をタップした場合や設定内容の初期化を中止する場合は「初期化しない」をタップしてください。	-
	初期化する	保守情報の設定内容を全て初期化する場合は、「初期化する」をタップしてください。	初期化後にアプリケーションは自動で再起動します。
全初期化	初期化しない	誤って本設定をタップした場合や全初期化を中止する場合は「初期化しない」をタップしてください。	-
	初期化する	アプリケーションの基本情報や保守情報を全て初期化する場合は「初期化する」をタップしてください。	初期化後にアプリケーションは自動で再起動します。
ログ表示 【本アプリケーションバージョン：03-04～】	-	本アプリケーションのログを表示することができます。	-
ログ送信 【本アプリケーションバージョン：03-04～】	-	本アプリケーションのログおよびデータ設定をメールで送信することができます。	事前に利用可能なメールアプリケーションをスマートフォンのデフォルトメールアプリケーションとして登録しておきます。

3. アプリケーションの設定

プライバシーポリシー

開発元のプライバシーポリシーが掲載されたWebページを表示します。

1 タババーの「設定」を
タップします。



2 「プライバシーポリシー」
をタップします。
端末にインストールされて
いるブラウザアプリが起動し、
プライバシーポリシーが掲載され
た Web ページの画面へ表示が切り替わ
ります。



【補足説明】

- 本アプリケーションを接続している無線LANアクセスポイントがインターネット経由で設置されていない環境の場合や、ネットワーク環境・Webページのリンク先の状況等が不安定である場合、画面が切り替わらないことがあります。
 - 端末にブラウザアプリが複数インストールされている場合は、「プライバシーポリシー」をタップ後に起動するブラウザアプリを選択する必要があります。
- また、起動できるブラウザアプリが無い場合は、エラーダイアログが表示され、Webページの画面を表示することができません。

3. アプリケーションの設定

Q&A

本アプリケーションに関するQ&Aが掲載されたWebページを表示します。

1 タブバーの「設定」を
タップします。



2 「Q&A」をタップします。
端末にインストールされて
いるブラウザアプリが起動
し、Q&Aが掲載された
Webページの画面へ表示
が切り替わります。



【補足説明】

- 本アプリケーションを接続している無線LANアクセスポイントがインターネット経由で設置されていない環境の場合や、ネットワーク環境・Webページのリンク先の状況等が不安定である場合、画面が切り替わらないことがあります。
- 端末にブラウザアプリが複数インストールされている場合は、「Q&A」をタップ後に起動するブラウザアプリを選択する必要があります。
また、起動できるブラウザアプリが無い場合は、エラーダイアログが表示され、Webページの画面を表示することができません。
- Webページへ掲載されているQ&Aは、pdf形式のファイルとなっています。Webページからダウンロード後にファイルを閲覧できない場合は、pdf形式のファイル閲覧を行うためのアプリケーションを別途インストールしてください。

3. アプリケーションの設定

著作権情報表示

本アプリケーションで使用しているライブラリの著作権情報を表示します。

1 タブバーの「設定」を
タップします。



2 「著作権情報表示」をタッ
プします。
著作権情報が記載された画
面へ表示が切り替わります。



3. アプリケーションの設定

ログアウト

プッシュ通知機能を利用している場合、一時的にプッシュ通知を受けないようにするため、必要に応じて主装置からのログアウト操作を行います。

※外出先（主装置のローカルネットワーク外）でもログアウトの操作が可能です（「本アプリケーションバージョン：03-01～」、「Xi主装置ソフトウェアバージョン2-1版～」）。

1 タバーの「設定」をタップします。

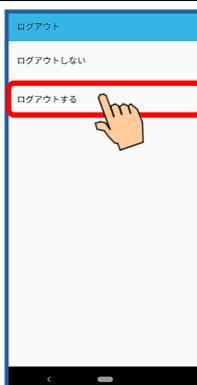


2 「ログアウト」をタップします。



3 「ログアウトする」をタップします。

※ログアウトを中止する場合は、「ログアウトしない」をタップします。



【補足説明】

- 以下のような場合にログアウト操作を行ってください。
 - ① 外出等でプッシュ通知を受ける必要が無く、外出前に主装置との接続を一時的に解除する場合
※主装置へ接続している状態でログアウト操作を行ってください。
 - ② Wi-Fiのネットワーク設定から、本アプリケーションを主装置へ接続するためのIPアドレス設定を変更する場合
※設定を変更する前にログアウト操作を行ってください。

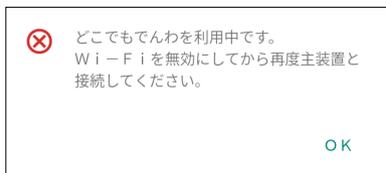
4

確認のダイアログが表示されるので、「OK」ボタンをタップします。
その後、ログアウトが実行されます。
ログアウト後はアプリケーションを終了してください。
※ログアウトを中止する場合は、「キャンセル」ボタンをタップします。



補足説明

- どこでもんわ機能を利用しない構成で外出先からログアウト操作を行う場合も、主装置のDDNSサーバ登録および本アプリケーションの「保守情報の設定 - ネットワーク接続条件設定 - 主装置ホスト名」の設定が必要となります。
- どこでもんわ機能を利用する設定でログアウト操作時に下記のエラー画面が表示される場合は、スマートフォンのWi-Fi機能をOFFにしてください。



3. アプリケーションの設定

アプリの終了

アプリケーションを終了します。

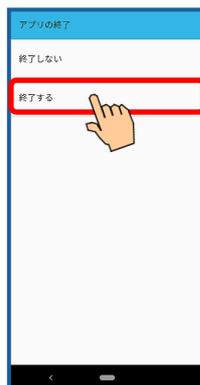
1 タバーの「設定」を
タップします。



2 「アプリの終了」をタップ
します。



3 「終了する」をタップ
します。
※終了を中止する場合は、
「終了しない」をタップします。



4

確認のダイアログが表示されるので、「OK」ボタンをタップします。その後、アプリケーションが終了します。

※終了を中止する場合は、「キャンセル」ボタンをタップします。



4. アプリケーションの操作方法（基本的な使い方）

外線に電話をかける

アプリケーションから外線に電話をかけます。

※操作方法は一例です。外線発信方法はいくつかの方法がありますので、本取扱説明書の記載以外の操作方法については、主装置へ添付の取扱説明書をご参照ください。

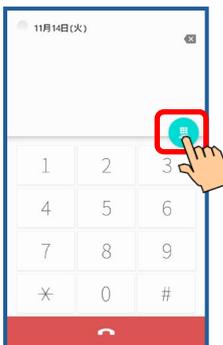
- 1 ダイヤル画面の「発話ボタン」をタップします。



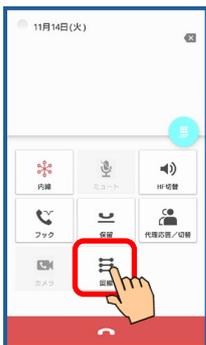
【補足説明】

- 内線発信音（ツツツ…）が聞こえます。

- 2 「入力操作切替ボタン」をタップします。



- 3 「回線ボタン」をタップします。



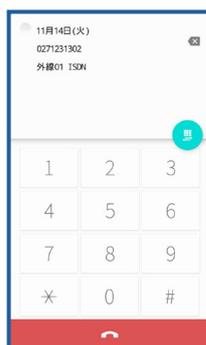
4

空いている外線ボタンをタップし、ランプが緑色で周期的に点滅しているのを確認してから「通話に戻るボタン」をタップします。



5

ダイヤルボタンをタップして、相手の方の電話番号を入力します。



【補足説明】

- 電話機LCD表示部に電話番号が表示されます。

6

相手の方が応答したら、通話します。



【補足説明】

- 電話機LCD表示部に通話時間、通話料金が表示されます。
- 受話音量やスピーカ音量は端末側の設定に依存します。受話音量やスピーカ音量の調節が必要な場合は、端末側の設定を変更してください。
- 通話中に「HF切替ボタン」をタップすると（ランプが点灯します）、マイクとスピーカを利用したハンズフリー通話へ切り替えることができます。

ハンズフリー通話に関する詳細は、「5. アプリケーションの操作方法（便利な使い方）-ハンズフリー通話をする」のページをご参照ください。

7

通話が終わったら、「終話ボタン」をタップします。



4. アプリケーションの操作方法（基本的な使い方）

外線からの電話を受ける

アプリケーションで外線からの電話を受けます。

※操作方法是一例です。外線応答方法はいくつかの方法がありますので、本取扱説明書の記載以外の操作方法については、主装置へ添付の取扱説明書をご参照ください。

1

着信音が聞こえ、
着信中画面が表示されますので、
「着信オフフックボタン」
をタップします。

※本アプリケーションの設定で「基本情報の設定-着信設定-外線着信時回線画面表示」が「あり」となっている場合の着信中画面は、回線画面が表示されます（本アプリケーションバージョン：02-04～）。

着信中の外線ボタンをご確認のうえ、
「着信オフフックボタン」をタップ
してください。



【補足説明】

- 本アプリケーションがバックグラウンド状態(画面消灯時を含む)や未起動の場合に着信を受けると、プッシュ通知機能によってアプリケーションが自動で起動して主装置へ接続します。起動後は着信中画面が表示されます。
- 着信音量は端末側の設定に依存します。着信音量の調節が必要な場合は、端末側の設定を変更してください。
- 本アプリケーションの設定で着信時のフォントサイズを拡大表示することができます（本アプリケーションバージョン：02-06～）。

2

相手の方と通話します。



【補足説明】

- 受話音量やスピーカ音量は端末側の設定に依存します。受話音量やスピーカ音量の調節が必要な場合は、端末側の設定を変更してください。
- 通話中に「HF切替ボタン」をタップすると（ランプが点灯します）、マイクとスピーカを利用したハンズフリー通話へ切り替えることができます。
ハンズフリー通話に関する詳細は、「5. アプリケーションの操作方法（便利な使い方）-ハンズフリー通話をする」のページをご参照ください。

3

通話が終わったら、
「終話ボタン」をタップ
します。



4. アプリケーションの操作方法（基本的な使い方）

外線通話を保留する

アプリケーションで外線通話を保留します。

※操作方法は一例です。保留方法はいくつかの方法がありますので、本取扱説明書の記載以外の操作方法については、主装置へ添付の取扱説明書をご参照ください。

1

外線通話中に「保留ボタン」をタップします。



4. アプリケーションの操作方法（基本的な使い方）

保留した外線に応答する

他電話機が保留した外線に本アプリケーションで応答します。

※操作方は一例です。保留応答方法はいくつかの方法がありますので、本取扱説明書の記載以外の操作方法については、主装置へ添付の取扱説明書をご参照ください。

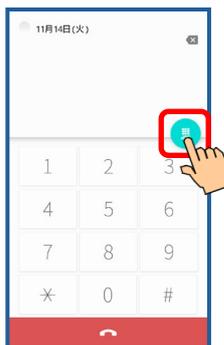
1 ダイヤル画面の
「発話ボタン」をタップ
します。



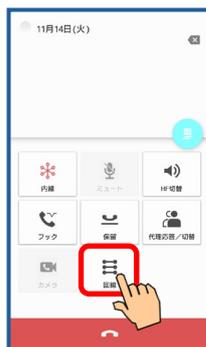
【補足説明】

- 内線発信音（ツツツ…）が聞こえます。

2 「入力操作切替ボタン」
をタップします。



3 「回線ボタン」をタップ
します。



4

他電話機が保留した
「外線ボタン(周期的に
点滅しています)」を
タップします。



【補足説明】

- 他電話機が保留した相手の方と通話できます。

4. アプリケーションの操作方法（基本的な使い方）

内線に電話をかける

アプリケーションから内線に電話をかけます。

※操作方法は一例です。内線発信方法はいくつかの方法がありますので、本取扱説明書の記載以外の操作方法については、主装置へ添付の取扱説明書をご参照ください。

また、IPカメラドアホンへ電話をかける場合も本手順で操作してください。

1

ダイヤル画面の「発話ボタン」をタップします。

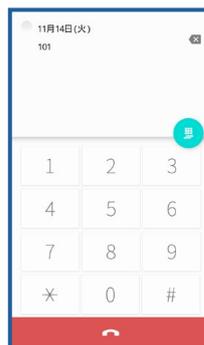


【補足説明】

- 内線発信音（ツツツ…）が聞こえます。
- 「内線ボタン」をタップした場合、ハンズフリー通話の動作となります。詳細は、「5. アプリケーションの操作方法（便利な使い方）-ハンズフリー通話をする」のページをご参照ください。

2

相手の内線番号をタップします。



3

相手の方が応答したら、通話します。
通話が終わったら、「終話ボタン」をタップします。



【補足説明】

- 受話音量やスピーカ音量は端末側の設定に依存します。受話音量やスピーカ音量の調節が必要な場合は、端末側の設定を変更してください。
- 通話中に「HF切替ボタン」をタップすると（ランプが点灯します）、マイクとスピーカを利用したハンズフリー通話へ切り替えることができます。ハンズフリー通話に関する詳細は、「5. アプリケーションの操作方法（便利な使い方）-ハンズフリー通話をする」のページをご参照ください。

4. アプリケーションの操作方法（基本的な使い方）

内線からの電話を受ける

アプリケーションで内線からの電話を受けます。

※操作方法は一例です。内線応答方法はいくつかの方法がありますので、本取扱説明書の記載以外の操作方法については、主装置へ添付の取扱説明書をご参照ください。

また、IPカメラドアホンからの着信も本手順で受けることができます。

1

着信音が聞こえ、
着信中画面が表示されますので、
「着信オフフックボタン」
をタップします。



【補足説明】

- 本アプリケーションがバックグラウンド状態(画面消灯時を含む) や未起動の場合に着信を受けると、プッシュ通知機能によってアプリケーションが自動で起動して主装置へ接続します。起動後は着信中画面が表示されます。
- 着信音量は端末側の設定に依存します。着信音量の調節が必要な場合は、端末側の設定を変更してください。
- 本アプリケーションの設定で着信時のフォントサイズを拡大表示することができます(本アプリケーションバージョン：02-06～)。

2

相手の方と通話します。



【補足説明】

- 受話音量やスピーカ音量は端末側の設定に依存します。受話音量やスピーカ音量の調節が必要な場合は、端末側の設定を変更してください。
- 通話中に「HF切替ボタン」をタップすると(ランプが点灯します)、マイクとスピーカを利用したハンズフリー通話へ切り替えることができます。ハンズフリー通話に関する詳細は、「5. アプリケーションの操作方法(便利な使い方)-ハンズフリー通話をする」のページをご参照ください。

3

通話が終わったら、
「終話ボタン」をタップ
します。



4. アプリケーションの操作方法（基本的な使い方）

内線通話を保留する

アプリケーションで内線通話を保留します。

※操作方法は一例です。保留方法はいくつかの方法がありますので、本取扱説明書の記載以外の操作方法については、主装置へ添付の取扱説明書をご参照ください。

また、IPカメラドアホンとの通話も保留が可能です。

1

内線通話中に「保留ボタン」をタップします。



4. アプリケーションの操作方法（基本的な使い方）

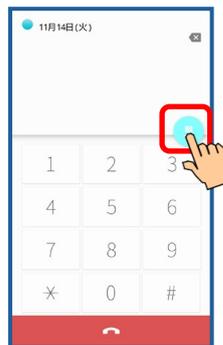
保留した内線に応答する

保留した内線にアプリケーションで応答します。

※操作方法は一例です。保留応答方法はいくつかの方法がありますので、本取扱説明書の記載以外の操作方法については、主装置へ添付の取扱説明書をご参照ください。

1

保留状態で「入力操作切替ボタン」をタップします。



2

「保留ボタン」をタップして通話に応答します。



5. アプリケーションの操作方法（便利な使い方）

ハンズフリー通話をする

アプリケーションでの外線または内線通話時、マイクとスピーカでハンズフリー通話をすることができます。

※1：事前に主装置側の設定で本アプリケーションを接続する収容位置のプログラマブルキー-36に「マイク」の登録が必要です（回線画面では「ミュート」と表示されます）。登録方法は主装置へ添付の取扱説明書をご参照ください。

※2：周囲の騒音が大きい場所や音が反響しやすい場所で使用する場合や、相手の方がハンズフリー通話をしている場合、ドアホンと通話する場合などは通話が困難になることがありますので、通常の通話を行ってください。一部機種については、エコーが発生する可能性がありますので、通常の通話を行っていたことを推奨とします。詳細は、サポートページの動作確認済み機種一覧をご参照ください。

• 外線に電話をかける場合

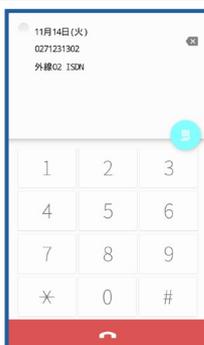
1 タバーの「回線」をタップします。



2 空いている外線ボタンをタップします。



3 相手の電話番号をタップします。



4

相手の方が応答したら、
マイクとスピーカでハンズ
フリー通話ができます。



【補足説明】

- 「マイク・スピーカON」及び「ミュートボタン」が有効の状態となります。
「ミュートボタン」をタップすると、一時的に相手の方への送話をカットすることができます（ランプが点灯します）。送話カットの状態を解除する場合は、再度「ミュートボタン」をタップしてください（ランプが消灯します）。プログラマブルキーの自動オフフック設定が「設定する」の場合は、ハンズフリー通話になりません（本アプリケーションバージョン：03-01～）。
- スピーカ音量は端末側の設定に依存します。
スピーカ音量の調節が必要な場合は、端末側の設定を変更してください。

5

電話を切るときは、
「終話ボタン」をタップ
します。



・外線着信に反応する場合

1

着信音が聞こえ、
着信中画面が表示され
ますので、
「着信オフフックボタン」
をタップします。

※本アプリケーションの設定で「基本
情報の設定-着信設定-外線着信時回
線画面表示」が「あり」となってい
る場合の着信中画面は、回線画面が
表示されます（本アプリケーション
バージョン：02-04~）。
着信中の外線ボタンをご確認のうえ、
「着信オフフックボタン」をタップ
してください。

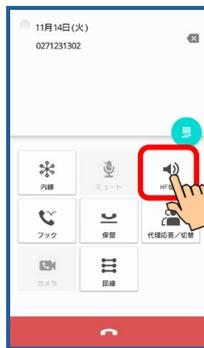


【補足説明】

- ・本アプリケーションがバックグラウンド状態（画面消灯時を含む）や未起動の場合に着信を受けると、プッシュ通知機能によってアプリケーションが自動で起動して主装置へ接続します。起動後は着信中画面が表示されます。
- ・着信音量は端末側の設定に依存します。着信音量の調節が必要な場合は、端末側の設定を変更してください。
- ・本アプリケーションの設定で着信時のフォントサイズを拡大表示することができます（本アプリケーションバージョン：02-06~）。

2

「HF切替ボタン」をタッ
プします。



【補足説明】

- ・「マイク・スピーカON」及び「ミュートボタン」が有効の状態となります。

3

相手の声が聞こえ、マイク
とスピーカでハンズフリー
通話ができます。



【補足説明】

- ・「ミュートボタン」をタップすると、一時的に相手の方への送話をカットすることができます（ランプが点灯します）。送話カットの状態を解除する場合は、再度「ミュートボタン」をタップしてください（ランプが消灯します）。
- ・スピーカ音量は端末側の設定に依存します。スピーカ音量の調節が必要な場合は、端末側の設定を変更してください。

4

電話を切るときは、
「終話ボタン」をタップ
します。



・内線に電話をかける場合

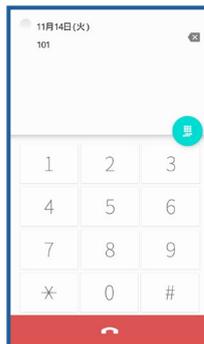
1

ダイヤル画面で
「内線ボタン」をタップ
します。



2

相手の内線番号をタップ
します。



3

相手の方が応答したら、
マイクとスピーカでハンズ
フリー通話ができます。



【補足説明】

- ・「マイク・スピーカON」及び「ミュートボタン」が有効の状態となります。
「ミュートボタン」をタップすると、一時的に相手の方への送話をカットすることができます（ランプが点灯します）。送話カットの状態を解除する場合は、再度「ミュートボタン」をタップしてください（ランプが消灯します）。
- ・スピーカ音量は端末側の設定に依存します。
スピーカ音量の調節が必要な場合は、端末側の設定を変更してください。

4

電話を切るときは、
「終話ボタン」をタップ
します。



・内線着信に応答する場合

1

着信音が聞こえ、
着信中画面が表示され
ますので、
「着信オフフックボタン」
をタップします。

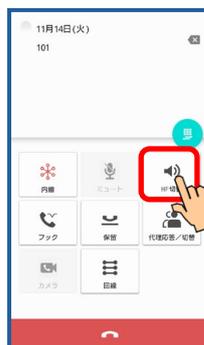


【補足説明】

- 本アプリケーションがバックグラウンド状態(画面消灯時を含む)や未起動の場合に着信を受けると、プッシュ通知機能によってアプリケーションが自動で起動して主装置へ接続します。起動後は着信中画面が表示されます。
- 着信音量は端末側の設定に依存します。着信音量の調節が必要な場合は、端末側の設定を変更してください。
- 本アプリケーションの設定で着信時のフォントサイズを拡大表示することができます(本アプリケーションバージョン：02-06~)。

2

「HF切替ボタン」をタッ
プします。



【補足説明】

- 「マイク・スピーカON」及び「ミュートボタン」が有効の状態となります。

3

相手の声が聞こえ、マイク
とスピーカでハンズフリー
通話ができます。



【補足説明】

- 「ミュートボタン」をタップすると、一時的に相手の方への送話をカットすることができます(ランプが点灯します)。送話カットの状態を解除する場合は、再度「ミュートボタン」をタップしてください(ランプが消灯します)。
- スピーカ音量は端末側の設定に依存します。スピーカ音量の調節が必要な場合は、端末側の設定を変更してください。

4

電話を切るときは、
「終話ボタン」をタップ
します。



5. アプリケーションの操作方法（便利な使い方）

主装置の電話帳を利用して電話をかける

アプリケーションから主装置の電話帳を利用して電話をかけます。

※1：事前にアプリケーション側の「主装置電話帳/履歴設定」へ主装置接続用のIDとパスワードを正しく設定する必要があります。

また、共通電話帳を利用した外線発信を行う場合は、主装置側のデータ設定（電話機毎のプリセットダイヤル可否）で本アプリケーションを接続する収容位置の設定を「可能」にしておく必要があります。主装置側のデータ設定の詳細については、販売店へご確認ください。

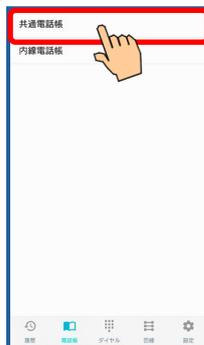
※2：本アプリケーションでは、「マイ電話帳」の機能はご利用いただけません。

・主装置の共通電話帳を利用して外線発信を行う場合

1 タバーの「電話帳」をタップします。

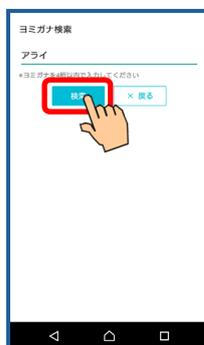


2 「共通電話帳」をタップします。



3 「ヨミガナ検索画面」が表示されるので、検索するヨミガナを4文字以内で入力して「検索」ボタンをタップします。

※検索を中止する場合は、「× 戻る」ボタンをタップします。

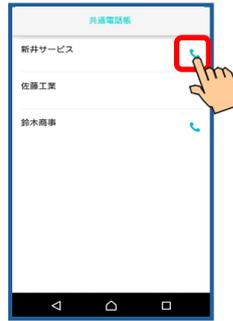


【補足説明】

【本アプリケーションバージョン：03-04～】、【Xi 主装置ソフトウェアバージョン 3-1 版～】の組み合わせで利用する場合はカタカナおよびひらがなでの検索が可能です。それ以外の組み合わせではカタカナ検索のみとなります。

4

検索結果が表示されます。
即時発信をする場合は、
リストの右にある
「電話アイコン」をタップ
します。
その後、自動で空いている
外線を捕捉して即時発信
します。



【補足説明】

- 検索結果は20件ごとに表示されます。画面の更新を行う場合は、上下左右いずれかにフリック操作を行ってください。
- タップした電話帳データに複数の電話番号が登録されている場合、「電話番号1」へ登録されている電話番号に即時発信します。

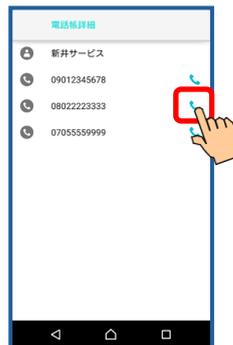
5

検索結果の表示後、電話帳
詳細画面を確認する場合は、
リストをタップします。



6

電話帳詳細画面が表示され
ます。発信したい電話番号
へ即時発信をする場合は、
リストの右にある
「電話アイコン」をタップ
します。
その後、自動で空いている
外線を捕捉して即時発信
します。



7

電話帳詳細画面の表示後、
発信前に電話番号を再度
確認したい場合や捕捉する
外線を選択する場合は、
リストをタップします。



8

ダイヤル画面が表示されるので、プリセットされた電話番号を確認して「発話ボタン」をタップまたは、タブバーの「回線」をタップして空いている外線ボタンをタップします。その後、選択した電話番号へ外線発信をします。



【補足説明】

- タブバーの「回線」をタップして空いている外線ボタンをタップした場合、外線発信後にハンズフリー通話の状態となります。通常の通話状態へ切り替える場合は、「HF切替ボタン」をタップしてください（ランプが消灯します）。プログラマブルキーの自動オフフック設定が「設定する」の場合は、ハンズフリー通話になりません（本アプリケーションバージョン：03-01～）。

ご注意

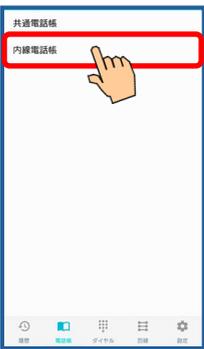
- 共通電話帳を利用して非通知発信を行う場合は、事前に本アプリケーションを接続する収容位置に「番号非通知」のプログラマブルキーを登録し（登録方法は主装置へ添付の取扱説明書をご参照ください）、回線画面で「番号非通知」のボタンをタップ後に手順1～8の操作を行ってください。

• 主装置の内線電話帳を利用して内線発信を行う場合

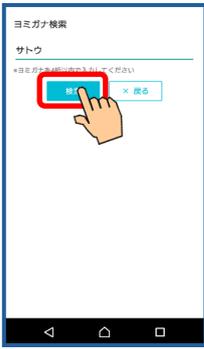
1 タブバーの「電話帳」をタップします。



2 「内線電話帳」をタップします。



3 「ヨミガナ検索画面」が表示されるので、検索するヨミガナを4文字以内で入力して「検索」ボタンをタップします。
 ※検索を中止する場合は、「X 戻る」ボタンをタップします。



【補足説明】
 【本アプリケーションバージョン：03-04～】、【Xi 主装置ソフトウェアバージョン 3-1 版～】の組み合わせで利用する場合はカタカナおよびひらがなでの検索が可能です。それ以外の組み合わせではカタカナ検索のみとなります。

4 検索結果が表示されます。即時発信をする場合は、リストの右にある「電話アイコン」をタップします。その後、自動で発信中画面が表示され、即時発信します。



【補足説明】

- 内線電話帳で検索結果に表示される番号は以下の通りです。
 - ①内線番号（実収容位置・仮想収容位置）
 - ②仮想内線番号
 - ③特番
 ※主装置側のデータ設定により、特番・内線番号を可変桁で運用している場合は、事前に本アプリケーションの下記設定を「あり」としてください。
 本アプリケーションの設定
 →保守情報の設定-主装置連携設定-特番・内線番号の可変桁
- 検索結果は20件ごとに表示されます。画面の更新を行う場合は、上下左右いずれかにフリック操作を行ってください。

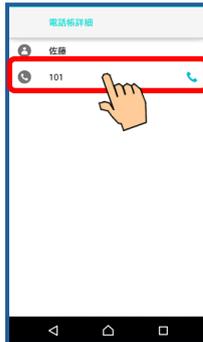
5

検索結果の表示後、電話帳詳細画面を確認する場合は、リストをタップします。



6

電話帳詳細画面が表示されます。番号を確認後、リストまたは「電話アイコン」をタップします。その後、自動で発信中画面が表示され、内線発信をします。



5. アプリケーションの操作方法（便利な使い方）

主装置の各種履歴を利用して電話をかける

アプリケーションから主装置の各種履歴を利用して電話をかけます。

※事前にアプリケーション側の「主装置電話帳/履歴設定」へ主装置接続用のIDとパスワードを正しく設定する必要があります。

また、発信履歴または外線関連の各種着信履歴から外線発信を行う場合は、主装置側のデータ設定（電話機毎のプリセットダイヤル可否）で本アプリケーションを接続する収容位置の設定を「可能」にしておく必要があります。

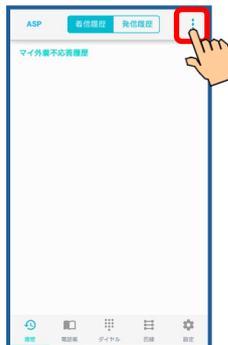
主装置側のデータ設定の詳細については、販売店へご確認ください。

• 外線関連の各種着信履歴を利用して外線発信を行う場合

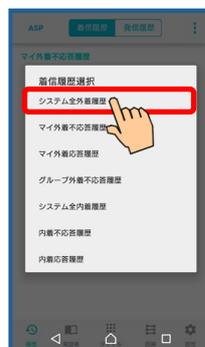
1 タバーの「履歴」をタップします。



2 「着信履歴画面」を表示して、「メニューボタン」をタップします。



3 表示する外線着信履歴の種別をタップします。



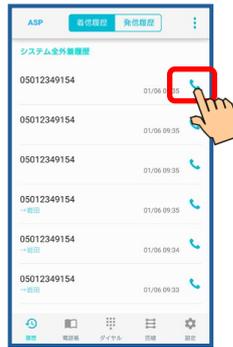
【補足説明】

• 表示可能な外線着信履歴の種別は以下の通りです。

- ①システム全外線履歴
- ②マイ外線不応答履歴
- ③マイ外線応答履歴
- ④グループ外線不応答履歴

4

選択した履歴種別が表示されるので、即時発信をする場合は、リストの右にある「電話アイコン」をタップします。その後、自動で発信中画面が表示され、即時発信します。

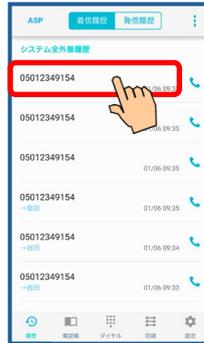


【補足説明】

- 履歴は10件ごとに表示されます。画面の更新を行う場合は、上下いずれかにフリック操作を行ってください。

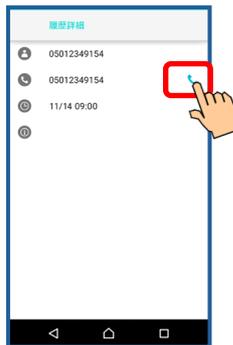
5

履歴種別の表示後、履歴詳細画面を確認する場合は、リストをタップします。



6

履歴詳細画面が表示されます。発信したい電話番号へ即時発信をする場合は、リストの右にある「電話アイコン」をタップします。その後、自動で空いている外線を捕捉して即時発信します。



7

履歴詳細画面の表示後、発信前に電話番号を再度確認したい場合や捕捉する外線を選択する場合は、リストをタップします。



ダイヤル画面が表示されるので、プリセットされた電話番号を確認して「発話ボタン」をタップまたは、タブバーの「回線」をタップして空いている外線ボタンをタップします。その後、選択した履歴の電話番号へ外線発信をします。



【補足説明】

- タブバーの「回線」をタップして空いている外線ボタンをタップした場合、外線発信後にハンズフリー通話の状態となります。通常の通話状態へ切り替える場合は、「HF切替ボタン」をタップしてください（ランプが消灯します）。プログラマブルキーの自動オフフック設定が「設定する」の場合は、ハンズフリー通話になりません（本アプリケーションバージョン：03-01～）。

• 発信履歴を利用して外線発信を行う場合

1

タブバーの「履歴」を
タップします。



2

「マイ外線履歴画面」を表示
します。
即時発信をする場合は、
リストの右にある
「電話アイコン」をタップ
します。
その後、自動で発信中画面
が表示され、即時発信
します。



【補足説明】

- 履歴は10件ごとに表示されます。画面の更新を行う場合は、上下いずれかにフリック操作を行ってください。
- 内発履歴が表示される場合は、メニューボタン→マイ外線履歴を選択します。

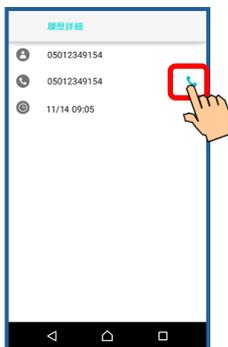
3

履歴画面の表示後、履歴
詳細画面を確認する場合は、
リストをタップします。



4

履歴詳細画面が表示され
ます。発信したい電話番号
へ即時発信をする場合は、
リストの右にある
「電話アイコン」をタップ
します。
その後、自動で空いている
外線を捕捉して即時発信
します。



5

履歴詳細画面の表示後、発信前に電話番号を再度確認したい場合や捕捉する外線を選択する場合は、リストをタップします。



6

ダイヤル画面が表示されるので、プリセットされた電話番号を確認して「発話ボタン」をタップまたは、タブバーの「回線」をタップして空いている外線ボタンをタップします。その後、選択した履歴の電話番号へ外線発信をします。



【補足説明】

- タブバーの「回線」をタップして空いている外線ボタンをタップした場合、外線発信後にハンズフリー通話の状態となります。通常の通話状態へ切り替える場合は、「HF切替ボタン」をタップしてください（ランプが消灯します）。プログラマブルキーの自動オフフック設定が「設定する」の場合は、ハンズフリー通話になりません（本アプリケーションバージョン：03-01～）。

• 内線関連の各種着信履歴を利用して内線発信を行う場合

1

タブバーの「履歴」を
タップします。



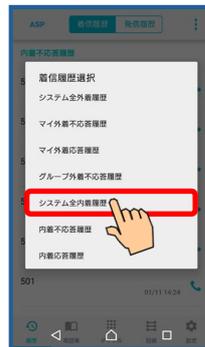
2

「着信履歴画面」を表示
して、「メニューボタン」を
タップします。



3

表示する内線着信履歴の
種別をタップします。



【補足説明】

- 表示可能な内線着信履歴の種別は以下の通りです。
 - ①システム全内着履歴
 - ②内着不応答履歴
 - ③内着応答履歴

4

選択した履歴種別が表示
されるので、即時発信を
する場合は、リストの右に
ある「電話アイコン」を
タップします。
その後、自動で発信中画面
が表示され、即時発信
します。



【補足説明】

- 履歴は10件ごとに表示されます。画面の更新を行う場合は、上下いずれかにフリック操作を行ってください。

5

履歴種別の表示後、履歴詳細画面を確認する場合は、リストをタップします。



6

履歴詳細画面が表示されます。番号を確認後、リストまたは「電話アイコン」をタップします。その後、自動で発信中画面が表示され、選択した履歴の番号へ内線発信をします。



- 発信履歴を利用して内線発信を行う場合（「Xi 主装置ソフトウェアバージョン 3-1 版～」および「本アプリケーションバージョン：03-04～」）

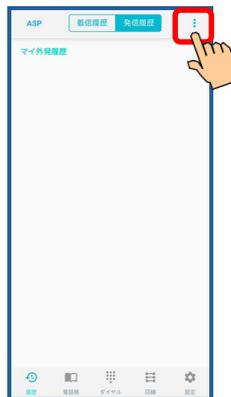
1

タブバーの「履歴」をタップします。



2

「発信履歴画面」を表示して、「メニューボタン」をタップします。



3

内発履歴をタップします。



4

「内発履歴画面」を表示します。即時発信をする場合は、リストの右にある「電話アイコン」をタップします。その後、自動で発信中画面が表示され、即時発信します。



【補足説明】

- 履歴は最大 5 件表示されます。

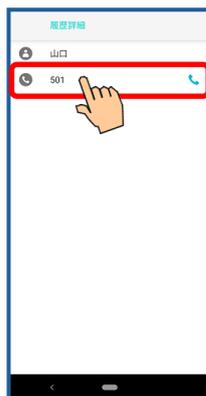
5

履歴画面の表示後、履歴詳細画面を確認する場合は、リストをタップします。



6

履歴詳細画面が表示されます。番号を確認後、リストまたは「電話アイコン」をタップします。その後、自動で発信中画面が表示され、選択した履歴の番号へ内線発信をします。



5. アプリケーションの操作方法（便利な使い方）

クリック・ツー・コールを利用して外線に電話をかける

ブラウザや外部アプリケーション（※本アプリケーションに対応している外部アプリケーションのみ）からクリック・ツー・コールで本アプリケーションを利用し、主装置経由で外線に電話をかけます。

※事前に主装置側のデータ設定（電話機毎のプリセットダイヤル可否）で本アプリケーションを接続する収容位置の設定を「可能」にしておく必要があります。

主装置側のデータ設定の詳細については、販売店へご確認ください。

また、クリック・ツー・コールの機能は、本アプリケーションをバックグラウンドで起動及び主装置へ接続させた状態で利用してください。

1

ブラウザや外部アプリケーションに表示されている電話番号のリンクをタップするとアプリの選択画面が表示されるので、本アプリケーションを選択する。

※画面は一部機種の場合の例です。

実際は若干異なることもあります。



【補足説明】

- 使用している外部アプリケーションによっては、外部アプリケーション側の制約などでクリック・ツー・コールの機能を利用できないことがあります。

2

ダイヤル画面に電話番号がプリセットされた状態で本アプリケーションが表示されます。

その後、「発話ボタン」をタップまたは、タブバーの「回線」をタップして空いている外線ボタンをタップすることで、外線発信をします。



【補足説明】

- タブバーの「回線」をタップして空いている外線ボタンをタップした場合、外線発信後にハンズフリー通話の状態となります。通常の通話状態へ切り替える場合は、「HF切替ボタン」をタップしてください（ランプが消灯します）。プログラマブルキーの自動オフフック設定が「設定する」の場合は、ハンズフリー通話になりません（本アプリケーションバージョン：03-01～）。

5. アプリケーションの操作方法（便利な使い方）

カメラを使う（拠点内で画像サーバを使用する場合）

本アプリケーションを拠点内で画像サーバを経由して使用する場合、カメラを利用して自拠点におけるネットワークカメラの画像の表示や自拠点の端末とテレビ電話の通話が可能です。

※事前に以下の主装置側のデータ設定を行っておく必要があります。詳細については、販売店へご確認ください。

- 端末毎のカメラID：「本アプリケーションを接続する収容位置のカメラID」を設定
- テレビ電話時の画像サーバ使用有無：「あり」を設定

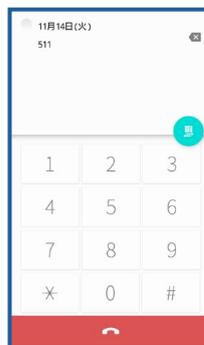
また、本アプリケーションの下記設定を必ずご確認くださいのうえ、操作を行ってください。
（詳細は、「3. アプリケーションの設定」に関するページの記載をご参照ください）

- コーデック→「H.264」に設定
- 解像度→「QVGA」に設定
- 画像サーバ使用→「画像サーバを使用する」に設定

• テレビ電話で通話する

1

電話機・ネットワークカメラ連動機能を設定している端末へ内線発信をします。



2

相手の方が応答すると、自動でカメラ連動画面に切り替わります。



【補足説明】

- 相手の方の端末から自画像の送信が無い場合、画像は「画像送信を停止中です」の文字が表示されたブルーバック表示となります。

相手の方の端末が自画像の送信を開始後、本アプリケーションの電話機LCD表示部に相手の端末の画像を表示します。

3

カメラ連動画面の「自画像送信ボタン」が無効になっている場合は、「自画像送信ボタン」をタップして有効にします。相手の方の端末へ自画像の送信が開始されます。



【補足説明】

- 本アプリケーションの設定でテレビ電話開始時に自動で自画像の送信を行うようにすることが可能です。
→基本情報の設定-テレビ電話/カメラ連動設定-自画像自動送信
- 「自画像送信ボタン」が無効になっている場合、相手の方の端末の画像は「画像送信を停止中です」の文字が表示されたブルーバック表示となります。

4

相手の方とテレビ電話で通話します。



【補足説明】

- 通話中に「HF切替ボタン」をタップすると（ランプが点灯します）、マイクとスピーカを利用したハンズフリー通話へ切り替えることができます。
ハンズフリー通話に関する詳細は、「5. アプリケーションの操作方法（便利な使い方）-ハンズフリー通話をする」のページをご参照ください。
- テレビ電話での通話中は、他のカメラの画像を見ること（「カメラボタン」のタップ）や画像のズームイン/ズームアウト、他の画像表示端末への一時的なカメラ切替、端末のメイン/フロントカメラの切替などが可能です。
- テレビ電話での通話中は、画面の左下に画像サーバ側で設定したカメラ名称が表示されます。
また、「文字情報表示ボタン」のタップや本アプリケーションの設定（下記参照）で日付や内線番号・内線名称の文字を表示したり消したりすることが可能です。
本アプリケーションの設定
→基本情報の設定-テレビ電話/カメラ連動設定-画像表示開始時の文字表示
- 映像画面全体を薄暗く表示し、日付や内線番号・内線名称の文字表示を見やすくすることが可能です（本アプリケーションバージョン：02-02～）。
本アプリケーションの設定
→基本情報の設定-テレビ電話/カメラ連動設定-映像文字強調表示
- 端末側における画面自動回転の設定が「ON」の状態となっている場合のみ、端末を横向きにすると、映像画面のみを拡大して横向きに表示することが可能です（本アプリケーションバージョン：02-02～）。
端末を再度縦向きにすると、元の表示に戻ります。

5

通話が終わったら、「終話ボタン」をタップします。



補足説明

- 本アプリケーションで、基本情報の設定-テレビ電話/カメラ連動設定-自画像表示の設定を「あり」にしている場合、「自画像送信ボタン」が有効であれば、テレビ電話での通話時に電話機LCD表示部の右下に自画像を表示します。
 - ※1：相手の方がボタン電話機とネットワークカメラの連動で通話している場合等は、自画像表示の設定を「あり」にしている場合でも自画像は表示されません。
 - ※2：端末側における画面自動回転の設定が「ON」の状態で映像画面のみを拡大して横向きに表示した場合、画面右下に自画像も表示されます（本アプリケーションバージョン：02-02～）。
- 相手の方の画面は自画像の上下を切り取った画像が表示されます（映像画面のみを拡大して横向きに表示している場合、機種によって、相手の方の画面は自画像の左右を切り取った画像が表示されることがあります）。また、電話機LCD表示部の右下へ表示している自画像について、相手の方の画面に表示されている範囲が枠で示されます（本アプリケーションバージョン：02-02～）。



ご注意

- 利用しているネットワーク環境などの影響により、画像が完全に表示されるまでに時間がかかることがあります。
- カメラの性能や利用しているネットワーク環境などの影響により、動きが激しいときは画像が乱れることがあります。
- カメラ連動画面を表示していると、まれに画像表示が途切れることがありますが、機器の異常ではありません。利用しているネットワーク環境や端末の負荷状態により、画像データが正常に受信できなかった場合にリフレッシュ機能が動作するためです。
- リフレッシュ機能や画像の乱れが頻繁に発生する場合、無線LAN環境の変化が考えられます。無線LANアクセスポイントの設置場所や設置環境に変化が無いかご確認のうえ、販売店にご相談ください。
- 端末の圏外状態時は画像サーバとの接続が切断され、機能を利用することができません（本アプリケーションはダイヤル画面を表示します）。端末の圏内復旧・本アプリケーションの主装置再接続後に画像サーバとも再接続し、再度機能の利用が可能となります。
- テレビ電話での通話中に他のカメラの画像を見る場合、表示される画面（カメラモニタ画面）とカメラ連動画面が切り替わる際にネットワーク環境などの影響により、自画像が一瞬表示されることがあります。
- 画像の表示が異常になった場合、「カメラボタン」を2回タップすることで元の画面を表示します。

・カメラの画像を見る

1

待機状態のダイヤル画面で「カメラボタン」をタップします。

※画像サーバへ正常に接続できている場合のみ「カメラボタン」が有効となります。

無効になっている場合は、タップすることができません。



2

カメラモニタ画面に切り替わり、カメラの画像が表示されます。

もう一度「カメラボタン」をタップすると、ダイヤル画面に表示が戻ります。



【補足説明】

- 複数のカメラがある場合、最初に表示するカメラは画像サーバの設定に従います。
- カメラの画像の表示中は、画像のズームイン/ズームアウト、他のカメラへのカメラ切替などが可能です。
- カメラの画像を表示時、画面の左下に画像サーバ側で設定したカメラ名称が表示されます。
また、「文字情報表示ボタン」のタップや本アプリケーションの設定(下記参照)で日付や内線番号・内線名称の文字情報を表示したり消したりすることが可能です。
本アプリケーションの設定
→基本情報の設定-テレビ電話/カメラ連動設定-画像表示開始時の文字表示
- 1つのカメラの画像を複数の端末で表示することが可能です。
- 映像画面全体を薄暗く表示し、日付や内線番号・内線名称の文字表示を見やすくすることが可能です(本アプリケーションバージョン：02-02～)。
本アプリケーションの設定
→基本情報の設定-テレビ電話/カメラ連動設定-映像文字強調表示
- 端末側における画面自動回転の設定が「ON」の状態となっている場合のみ、端末を横向きにすると、映像画面のみを拡大して横向きに表示することが可能です(本アプリケーションバージョン：02-02～)。
端末を再度縦向きにすると、元の表示に戻ります。

ご注意

- カメラの画像を表示する端末が増えると、画像のフレームレートが低下し、動きが滑らかに表示されないことがあります。
- 利用しているネットワーク環境などの影響により、画像が完全に表示されるまでに時間がかかることがあります。
- カメラの性能や利用しているネットワーク環境などの影響により、動きが激しいときは画像が乱れることがあります。
- カメラモニタ画面を表示中であっても、カメラモニタ画面を表示したまま本アプリケーションで着信を受けることが可能です。ただし、通話後に保留操作をする場合は、「カメラボタン」のタップで通話画面に戻ってください。また、文字情報を消している状態で着信を受けた場合、文字情報は表示されません。文字情報を確認したい場合は、カメラモニタ画面で「文字情報表示ボタン」をタップしてください。
- カメラモニタ画面を表示していると、まれに画像表示が途切れることがありますが、機器の異常ではありません。利用しているネットワーク環境や端末の負荷状態により、画像データが正常に受信できなかった場合にリフレッシュ機能が動作するためです。
- リフレッシュ機能や画像の乱れが頻繁に発生する場合、無線LAN環境の変化が考えられます。無線LANアクセスポイントの設置場所や設置環境に変化が無いかご確認のうえ、販売店にご相談ください。
- 端末の圏外状態時は画像サーバとの接続が切断され、機能を利用することができません（本アプリケーションはダイヤル画面を表示します）。端末の圏内復旧・本アプリケーションの主装置再接続後に画像サーバとも再接続し、再度機能の利用が可能となります。
- カメラモニタ画面の表示中にテレビ電話での通話を行う場合、通話画面（カメラ連動画面）とカメラモニタ画面が切り替わる際にネットワーク環境などの影響により、自画像が一瞬表示されることがあります。

5. アプリケーションの操作方法（便利な使い方）

カメラを使う（拠点間で画像サーバを使用する場合）

本アプリケーションを拠点間で画像サーバを経由して使用する場合、他拠点の本アプリケーションまたはIPLD電話機とテレビ電話の通話が可能です。

【本アプリケーションバージョン：02-02～】

※本機能は「Si主装置ソフトバージョン3-1版～」もしくは「Xi主装置ソフトバージョン1-1版～」で利用可能となります。

事前に以下の主装置側のデータ設定を行っておく必要があります。詳細については、販売店へご確認ください。

- 特番：「他拠点呼出」の番号を設定
※初期値は「なし」になります。番号の設定を行ってください。
 - VOIPUのチャンネル（収容位置）毎の用途：
最大8つの収容位置に対して「拠点間ビデオ会議/テレビ電話用」が設定可能
※「簡易ビデオ会議の利用有無」のデータ設定を「あり」に設定している場合、5つ～8つの収容位置に「拠点間ビデオ会議/テレビ電話用」を設定してください。
 - 端末毎のカメラID：「本アプリケーションを接続する収容位置のカメラID」を設定
 - テレビ電話時の画像サーバ使用有無：「あり」を設定
※自拠点と他拠点の設定を共に「あり」にしてください。
 - 拠点間画像通信の利用有無：「あり」を設定
 - 自拠点番号（拠点間画像通信用）：「自拠点番号」を設定
 - 各拠点のIPアドレス（拠点間画像通信用）：「各拠点の主装置IPアドレス」を設定
- また、本アプリケーションの下記設定を必ずご確認のうえ、操作を行ってください。
（詳細は、「3. アプリケーションの設定」に関するページの記載をご参照ください）
- コーデック→「H.264」に設定
 - 解像度→「QVGA」に設定
 - 画像サーバ使用→「画像サーバを使用する」に設定
 - 画像サーバへの接続方法→「呼毎起動」に設定

• テレビ電話で通話する

※本アプリケーション（ET-MFTAPA2またはET-MFTAPI2のバージョンが02-02以上のみ）がインストールされている端末またはIPLD電話機（APLバージョンが0202以上のみ）とテレビ電話の通話が可能です。

IPLD電話機に関する詳細は、IPLD電話機側の取扱説明書をご参照ください。

1

ダイヤル画面の
「発話ボタン」をタップ
します。



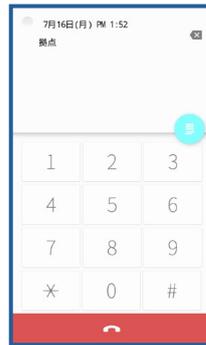
【補足説明】

- 内線発信音（ツツツ…）が聞こえます。

2

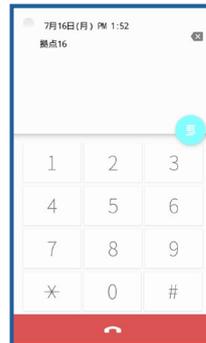
「他拠点呼出番号」を
ダイヤルします。

※「他拠点呼出番号」は、主装置側のデータ設定で設定している番号をダイヤルしてください。
また、主装置側のデータ設定で特番を可変桁設定にしている場合、番号に続けて「#」をダイヤルしてください。



3

拠点番号をダイヤルします。



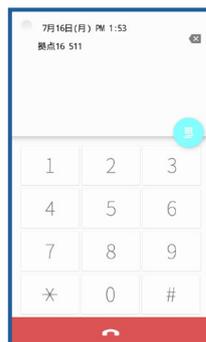
【補足説明】

- 手順2の後に約5秒経過すると、ダイヤル不可の状態となりますので、事前に拠点番号をご確認のうえ、ダイヤルしてください。
ダイヤル不可の状態となった場合は、「終話ボタン」をタップ後に再度手順1から順に操作を行ってください。

4

本アプリケーションがインストールされている端末またはIPLD電話機の内線番号をダイヤルして、発信します。

※内線番号を4桁ダイヤルした時点またはダイヤル後の無操作が5秒続いた時点で発信します。
内線番号が3桁以下の場合、番号に続けて「#」をダイヤルすると、即時発信します。



【補足説明】

- 手順3の後に約5秒経過すると、ダイヤル不可の状態となりますので、事前に内線番号をご確認のうえ、ダイヤルしてください。
ダイヤル不可の状態となった場合は、「終話ボタン」をタップ後に再度手順1から順に操作を行ってください。

5

相手の方が応答すると、
自動でカメラ連動画面に
切り替わります。



【補足説明】

- 相手の方の端末から自画像の送信が無い場合、画像は「画像送信を停止中です」の文字が表示されたブルーバック表示となります。
相手の方の端末が自画像の送信を開始後、本アプリケーションの電話機LCD表示部に相手の端末の画像を表示します。

6

カメラ連動画面の「自画像送信ボタン」が無効になっている場合は、「自画像送信ボタン」をタップして有効にします。相手の方の端末へ自画像の送信が開始されます。



【補足説明】

- 本アプリケーションの設定でテレビ電話開始時に自動で自画像の送信を行うようにすることが可能です。
→基本情報の設定-テレビ電話/カメラ連動設定-自画像自動送信
- 「自画像送信ボタン」が無効になっている場合、相手の方の端末の画像は「画像送信を停止中です」の文字が表示されたブルーバック表示となります。

7

相手の方とテレビ電話で通話します。



【補足説明】

- 通話中に「HF切替ボタン」をタップすると（ランプが点灯します）、マイクとスピーカを利用したハンズフリー通話へ切り替えることができます。
ハンズフリー通話に関する詳細は、「5. アプリケーションの操作方法（便利な使い方）-ハンズフリー通話をする」のページをご参照ください。
- テレビ電話での通話中は、他のカメラの画像を見ること（「カメラボタン」のタップ）や画像のズームイン/ズームアウト、端末のメイン/フロントカメラの切替などが可能です。
- テレビ電話での通話中は、画面の左下に画像サーバ側で設定したカメラ名称が表示されます。
また、「文字情報表示ボタン」のタップや本アプリケーションの設定（下記参照）で日付や内線番号・内線名称の文字を表示したり消したりすることが可能です。
本アプリケーションの設定
→基本情報の設定-テレビ電話/カメラ連動設定-画像表示開始時の文字表示
- 映像画面全体を薄暗く表示し、日付や内線番号・内線名称の文字表示を見やすくすることが可能です。
本アプリケーションの設定
→基本情報の設定-テレビ電話/カメラ連動設定-映像文字強調表示
- 端末側における画面自動回転の設定が「ON」の状態となっている場合のみ、端末を横向きにすると、映像画面のみを拡大して横向きに表示することが可能です。
端末を再度縦向きにすると、元の表示に戻ります。
- 本アプリケーションで通話の保留を行った場合、保留を解除するまで本アプリケーション側の音声が無音となり、通話の転送はできません。

8

通話が終わったら、
「終話ボタン」をタップ
します。



補足説明

- 本アプリケーションで、基本情報の設定-テレビ電話/カメラ連動設定-自画像表示の設定を「あり」にしている場合、「自画像送信ボタン」が有効であれば、テレビ電話での通話時に電話機LCD表示部の右下に自画像を表示します。
※端末側における画面自動回転の設定が「ON」の状態映像画面のみを拡大して横向きに表示した場合、画面右下に自画像も表示されます。相手の方の画面は自画像の上下を切り取った画像が表示されます（映像画面のみを拡大して横向きに表示している場合、機種によって、相手の方の画面は自画像の左右を切り取った画像が表示されることがあります）。また、電話機LCD表示部の右下へ表示している自画像について、相手の方の画面に表示されている範囲が枠で示されます。



ご注意

- 利用しているネットワーク環境などの影響により、画像が完全に表示されるまでに時間がかかることがあります。
- カメラの性能や利用しているネットワーク環境などの影響により、動きが激しいときは画像が乱れることがあります。
- カメラ連動画面を表示していると、まれに画像表示が途切れることがありますが、機器の異常ではありません。利用しているネットワーク環境や端末の負荷状態により、画像データが正常に受信できなかった場合にリフレッシュ機能が動作するためです。
- リフレッシュ機能や画像の乱れが頻繁に発生する場合、無線LAN環境の変化が考えられます。無線LANアクセスポイントの設置場所や設置環境に変化が無いかご確認のうえ、販売店にご相談ください。
- 端末の圏外状態時は画像サーバとの接続が切断され、機能を利用することができません（本アプリケーションはダイヤル画面を表示します）。端末の圏内復旧・本アプリケーションの主装置再接続後に画像サーバとも再接続し、再度機能の利用が可能となります。
- テレビ電話での通話中に他のカメラの画像を見る場合、表示される画面（カメラモニタ画面）とカメラ連動画面が切り替わる際にネットワーク環境などの影響により、自画像が一瞬表示されることがあります。
- 画像の表示が異常になった場合、「カメラボタン」を2回タップすることで元の画面を表示します。
- テレビ電話での通話中にカメラ切替の操作を行った場合、通話相手の方の拠点におけるカメラへの切替動作となります。

5. アプリケーションの操作方法（便利な使い方）

カメラを使う（拠点内で画像サーバを使用せずにIPカメラドアホンを利用する）

本アプリケーションで画像サーバを使用せずに、自拠点におけるIPカメラドアホンのカメラを利用して画像の表示や通話が可能です。

※事前に以下の主装置側のデータ設定を行っておく必要があります。詳細については、販売店へご確認ください。

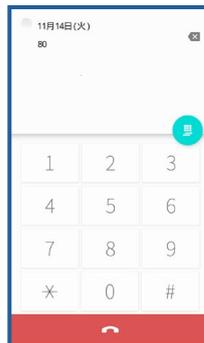
- 端末毎のカメラID：「本アプリケーション、IPカメラドアホンを接続する収容位置のカメラID」を設定
- テレビ電話時の画像サーバ使用有無：「なし（IPCAMDH2のみを利用）」を設定
※「なし（IPCAMDH2のみを利用）」は、「Si主装置ソフトバージョン7-2版～」もしくは「Xi主装置ソフトバージョン1-1版～」で設定可能です。

また、本アプリケーションの下記設定を必ずご確認ください。操作を行ってください。（詳細は、「3. アプリケーションの設定」に関するページの記載をご参照ください）

- コーデック→「MPEG4」に設定
 - 画像サーバ使用→「IPCAMDH2のみを使用する」に設定
 - IPCAMDH2接続設定→IPカメラドアホンのカメラID（主装置側のデータ設定（端末毎のカメラID）の値と同一値）、IPアドレス、表示名称
 - IPCAMDH2解像度→IPカメラドアホン側の解像度の設定と同一値に設定
- IPカメラドアホンと通話する
※本機能は、主装置にIPカメラドアホンが接続されている場合のみ利用可能です。

1

IPカメラドアホンへ内線
発信をします。



2

IPカメラドアホンが応答
すると、自動でカメラ連動
画面に切り替わります。



【補足説明】

- IPカメラドアホンから画像の送信が無い場合、画像はブルーバック状態となり、数秒後にエラーダイアログが表示されます。IPカメラドアホンが画像の送信を開始後、本アプリケーションの電話機LCD表示部にIPカメラドアホンの画像を表示します。

3

IPカメラドアホンと通話
します。

【補足説明】

- 通話中に「HF切替ボタン」をタップすると（ランプが点灯します）、マイクとスピーカを利用したハンズフリー通話へ切り替えることができます。
ハンズフリー通話に関する詳細は、「5. アプリケーションの操作方法（便利な使い方）-ハンズフリー通話をする」のページをご参照ください。
- 通話中は、一時的に他のIPカメラドアホンの画像を見ること（「カメラボタン」や「カメラ切替ボタン」のタップ）などが可能です。
- 通話中は、画面の左下に本アプリケーションで設定したカメラ名称が表示されます。
また、「文字情報表示ボタン」のタップや本アプリケーションの設定(下記参照)で日付や内線番号・内線名称の文字を表示したり消したりすることが可能です。
本アプリケーションの設定
→基本情報の設定-テレビ電話/カメラ連動設定-画像表示開始時の文字表示
- 映像画面全体を薄暗く表示し、日付や内線番号・内線名称の文字表示を見やすくすることが可能です（本アプリケーションバージョン：02-02～）。
本アプリケーションの設定
→基本情報の設定-テレビ電話/カメラ連動設定-映像文字強調表示
- 端末側における画面自動回転の設定が「ON」の状態となっている場合のみ、端末を横向きにすると、映像画面のみを拡大して横向きに表示することが可能です（本アプリケーションバージョン：02-02～）。
端末を再度縦向きにすると、元の表示に戻ります。

4

通話が終わったら、
「終話ボタン」をタップ
します。

ご注意

- 利用しているネットワーク環境などの影響により、画像が完全に表示されるまでに時間がかかることがあります。
- カメラの性能や利用しているネットワーク環境などの影響により、動きが激しいときは画像が乱れることがあります。
- カメラ連動画面を表示していると、まれに画像表示が途切れることがありますが、機器の異常ではありません。利用しているネットワーク環境や端末の負荷状態により、画像データが正常に受信できなかった場合にリフレッシュ機能が動作するためです。
- リフレッシュ機能や画像の乱れが頻繁に発生する場合、無線LAN環境の変化が考えられます。無線LANアクセスポイントの設置場所や設置環境に変化が無いかご確認のうえ、販売店にご相談ください。

- IPカメラドアホンのカメラの画像を見る
※本機能は、主装置にIPカメラドアホンが接続されている場合のみ利用可能です。

1

待機状態のダイヤル画面で「カメラボタン」をタップします。



2

カメラモニタ画面に切り替わり、カメラの画像が表示されます。
もう一度「カメラボタン」をタップすると、ダイヤル画面に表示が戻ります。
※IPカメラドアホンが正常に接続できている場合のみカメラの画像が表示されます。



【補足説明】

- 複数のIPカメラドアホンがある場合、最初に表示するカメラ（デフォルトカメラ）は本アプリケーションの設定に従います。
- カメラの画像の表示中は、他のIPカメラドアホン（カメラ）へのカメラ切替などが可能です。
- カメラの画像を表示時、画面の左下に本アプリケーションで設定したカメラ名称が表示されます。
また、「文字情報表示ボタン」のタップや本アプリケーションの設定(下記参照)で日付や内線番号・内線名称の文字情報を表示したり消したりすることが可能です。
本アプリケーションの設定
→基本情報の設定-テレビ電話/カメラ連動設定-画像表示開始時の文字表示
- 1つのIPカメラドアホンのカメラ画像を複数の端末で表示することが可能です。
- 映像画面全体を薄暗く表示し、日付や内線番号・内線名称の文字表示を見やすくすることが可能です（本アプリケーションバージョン：02-02～）。
本アプリケーションの設定
→基本情報の設定-テレビ電話/カメラ連動設定-映像文字強調表示
- 端末側における画面自動回転の設定が「ON」の状態となっている場合のみ、端末を横向きにすると、映像画面のみを拡大して横向きに表示することが可能です（本アプリケーションバージョン：02-02～）。
端末を再度縦向きにすると、元の表示に戻ります。

ご注意

- IPカメラドアホンのカメラ以外の画像をモニタすることはできません。
- カメラの画像を表示する端末が増えると、画像のフレームレートが低下し、動きが滑らかに表示されないことがあります。
- 利用しているネットワーク環境などの影響により、画像が完全に表示されるまでに時間がかかることがあります。
- カメラの性能や利用しているネットワーク環境などの影響により、動きが激しいときは画像が乱れることがあります。
- カメラモニタ画面を表示中であっても、カメラモニタ画面を表示したまま本アプリケーションで着信を受けることが可能です。ただし、通話後に保留操作をする場合は、「カメラボタン」のタップで通話画面に戻ってください。また、文字情報を消している状態で着信を受けた場合、文字情報は表示されません。文字情報を確認したい場合は、カメラモニタ画面で「文字情報表示ボタン」をタップしてください。
- カメラモニタ画面を表示していると、まれに画像表示が途切れることがありますが、機器の異常ではありません。利用しているネットワーク環境や端末の負荷状態により、画像データが正常に受信できなかった場合にリフレッシュ機能が動作するためです。
- リフレッシュ機能や画像の乱れが頻繁に発生する場合、無線LAN環境の変化が考えられます。無線LANアクセスポイントの設置場所や設置環境に変化が無いかご確認のうえ、販売店にご相談ください。

5. アプリケーションの操作方法（便利な使い方）

カメラを使う（拠点間で画像サーバを使用せずにIPカメラドアホンを利用する）

本アプリケーションで画像サーバを使用せずに、他拠点におけるIPカメラドアホンのカメラを利用して通話が可能です。

【本アプリケーションバージョン：02-02～】

※本機能は「Si主装置ソフトバージョン3-1版～」もしくは「Xi主装置ソフトバージョン1-1版～」で利用可能となります。

事前に以下の主装置側のデータ設定を行っておく必要があります。詳細については、販売店へご確認ください。

- 特番：「他拠点呼出」の番号を設定
※初期値は「なし」になります。番号の設定を行ってください。
 - VOIPUのチャンネル（収容位置）毎の用途：
最大8つの収容位置に対して「拠点間ビデオ会議/テレビ電話用」が設定可能
※「簡易ビデオ会議の利用有無」のデータ設定を「あり」に設定している場合、5つ～8つの収容位置に「拠点間ビデオ会議/テレビ電話用」を設定してください。
 - 端末毎のカメラID：「本アプリケーション、IPカメラドアホンを接続する収容位置のカメラID」を設定
 - テレビ電話時の画像サーバ使用有無：「なし（IPCAMDH2のみを利用）」を設定
※自拠点と他拠点の設定を共に「なし（IPCAMDH2のみを利用）」にしてください。
※「なし（IPCAMDH2のみを利用）」は、「Si主装置ソフトバージョン7-2版～」、「Xi主装置ソフトバージョン1-1版～」で設定可能です。
 - 拠点間画像通信の利用有無：「あり」を設定
 - 自拠点番号（拠点間画像通信用）：「自拠点番号」を設定
 - 各拠点のIPアドレス（拠点間画像通信用）：「各拠点の主装置IPアドレス」を設定
- また、本アプリケーションの下記設定を必ずご確認くださいのうえ、操作を行ってください。
（詳細は、「3. アプリケーションの設定」に関するページの記載をご参照ください）
- コーデック→「MPEG4」に設定
 - 画像サーバ使用→「IPCAMDH2のみを使用する」に設定
 - IPCAMDH2接続設定→IPカメラドアホンのIPアドレス、表示名称を設定（カメラIDの設定は不要）
 - IPCAMDH2解像度→IPカメラドアホン側の解像度の設定と同一値に設定

• IPカメラドアホンと通話する

※本機能は、他拠点の主装置にIPカメラドアホンが接続されている場合のみ利用可能です。

1

ダイヤル画面の「発話ボタン」をタップします。



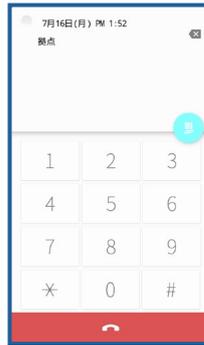
【補足説明】

- 内線発信音（ツツツ…）が聞こえます。

2

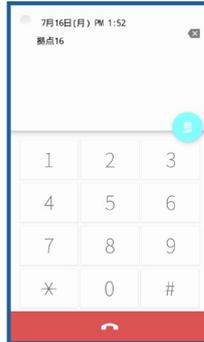
「他拠点呼出番号」を
ダイヤルします。

※「他拠点呼出番号」は、主装置側のデータ設定で設定している番号をダイヤルしてください。
また、主装置側のデータ設定で特番を可変桁設定にしている場合、番号に続けて「#」をダイヤルしてください。



3

拠点番号をダイヤルします。



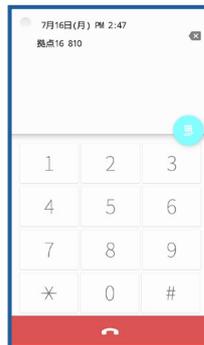
【補足説明】

- 手順2の後に約5秒経過すると、ダイヤル不可の状態となりますので、事前に拠点番号をご確認のうえ、ダイヤルしてください。
ダイヤル不可の状態となった場合は、「終話ボタン」をタップ後に再度手順1から順に操作を行ってください。

4

他拠点のIPカメラドアホンの
内線番号をダイヤルして、
発信します。

※内線番号を4桁ダイヤルした時点
またはダイヤル後の無操作が5秒
続いた時点で発信します。
内線番号が3桁以下の場合、
番号に続けて「#」をダイヤル
すると、即時発信します。



【補足説明】

- 手順3の後に約5秒経過すると、ダイヤル不可の状態となりますので、事前に内線番号をご確認のうえ、ダイヤルしてください。
ダイヤル不可の状態となった場合は、「終話ボタン」をタップ後に再度手順1から順に操作を行ってください。

5

IPカメラドアホンが応答
すると、自動でカメラ連動
画面に切り替わります。



【補足説明】

- IPカメラドアホンから画像の送信が無い場合、画像はブルーバック状態となり、数秒後にエラーダイアログが表示されます。
IPカメラドアホンが画像の送信を開始後、本アプリケーションの電話機LCD表示部にIPカメラドアホンの画像を表示します。

6

IPカメラドアホンと通話
します。

【補足説明】

- 通話中に「HF切替ボタン」をタップすると（ランプが点灯します）、マイクとスピーカを利用したハンズフリー通話へ切り替えることができます。
ハンズフリー通話に関する詳細は、「5. アプリケーションの操作方法（便利な使い方）-ハンズフリー通話をする」のページをご参照ください。
- 通話中は、一時的に他のIPカメラドアホンの画像を見ること（「カメラボタン」のタップ）などが可能です。
- 通話中は、「文字情報表示ボタン」のタップや本アプリケーションの設定（下記参照）で日付や内線番号・内線名称の文字を表示したり消したりすることが可能です。
本アプリケーションの設定
→基本情報の設定-テレビ電話/カメラ連動設定-画像表示開始時の文字表示
- 映像画面全体を薄暗く表示し、日付や内線番号・内線名称の文字表示を見やすくすることが可能です。
本アプリケーションの設定
→基本情報の設定-テレビ電話/カメラ連動設定-映像文字強調表示
- 端末側における画面自動回転の設定が「ON」の状態となっている場合のみ、端末を横向きにすると、映像画面のみを拡大して横向きに表示することが可能です。
端末を再度縦向きにすると、元の表示に戻ります。
- 本アプリケーションで通話の保留を行った場合、保留を解除するまで本アプリケーション側の音声が無音となり、通話の転送はできません。

7

通話が終わったら、
「終話ボタン」をタップ
します。

ご注意

- 利用しているネットワーク環境などの影響により、画像が完全に表示されるまでに時間がかかることがあります。
- カメラの性能や利用しているネットワーク環境などの影響により、動きが激しいときは画像が乱れることがあります。
- カメラ連動画面を表示していると、まれに画像表示が途切れることがありますが、機器の異常ではありません。利用しているネットワーク環境や端末の負荷状態により、画像データが正常に受信できなかった場合にリフレッシュ機能が動作するためです。
- リフレッシュ機能や画像の乱れが頻繁に発生する場合、無線LAN環境の変化が考えられます。無線LANアクセスポイントの設置場所や設置環境に変化が無いかご確認のうえ、販売店にご相談ください。

5. アプリケーションの操作方法（便利な使い方）

カメラを使う（拠点内で画像サーバを使用せずに端末の内蔵カメラを利用する）

本アプリケーションで画像サーバを使用せずに、端末の内蔵カメラを利用して自拠点の画像表示端末間でテレビ電話の通話が可能です。

※事前に主装置側のデータ設定（テレビ電話時の画像サーバ使用有無）を「なし（端末間のテレビ電話のみを利用）」にしておく必要があります。

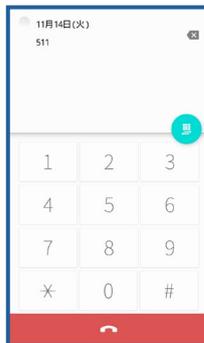
主装置側のデータ設定の詳細については、販売店へご確認ください。

また、本アプリケーションの下記設定を必ずご確認ください。操作を行ってください。

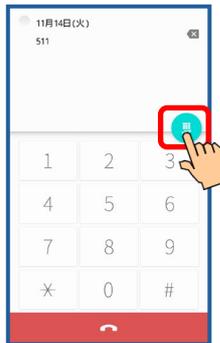
（詳細は、「3. アプリケーションの設定」に関するページの記載をご参照ください）

- コーデック→「H.264」に設定
 - 解像度→相手の方の端末における解像度の設定と同一値に設定
 - 画像サーバ使用→「端末間のテレビ電話のみを使用する」に設定
- 端末の内蔵カメラを利用し、画像表示端末間(※)でテレビ電話の通話をする
※本アプリケーションがインストールされている端末またはIPLD電話機とテレビ電話の通話が可能です。
IPLD電話機に関する詳細は、IPLD電話機側の取扱説明書をご参照ください。

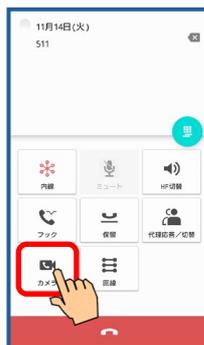
- 1 本アプリケーションがインストールされている端末またはIPLD電話機へ内線発信をします。



- 2 「入力操作切替ボタン」をタップします。



- 3 「カメラボタン」をタップし、テレビ電話画面に切り替えます。



【補足説明】

- 本アプリケーションの設定で、内線発信の直後に自動でテレビ電話画面に切り替えることも可能です。
→基本情報の設定-テレビ電話/カメラ連動設定-テレビ電話画面自動切替
- 相手の方の端末がテレビ電話画面を表示中で自画像の送信が無い場合、「画像送信を停止中です」の文字が表示されたブルーバック表示となります。
相手の方の端末が自画像の送信を開始後、本アプリケーションの電話機LCD表示部に相手の端末の画像を表示します。

4

テレビ電話画面の「自画像送信ボタン」が無効になっている場合は、「自画像送信ボタン」をタップして有効にします。相手の方の端末へ自画像の送信が開始されます。



【補足説明】

- 本アプリケーションの設定でテレビ電話開始時に自動で自画像の送信を行うようにすることが可能です。
→基本情報の設定-テレビ電話/カメラ連動設定-自画像自動送信
- 「自画像送信ボタン」が無効になっている場合、相手の方の端末の画像は「画像送信を停止中です」の文字が表示されたブルーバック表示となります。

5

相手の方が応答したら、テレビ電話で通話します。

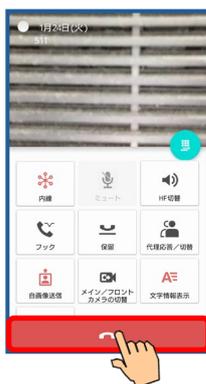


【補足説明】

- 通話中に「HF切替ボタン」をタップすると（ランプが点灯します）、マイクとスピーカを利用したハンズフリー通話へ切り替えることができます。
ハンズフリー通話に関する詳細は、「5. アプリケーションの操作方法（便利な使い方）-ハンズフリー通話をする」のページをご参照ください。
- テレビ電話での通話中は、端末のメイン/フロントカメラの切替などが可能です。
- テレビ電話での通話中は、「文字情報表示ボタン」のタップや本アプリケーションの設定(下記参照)で日付や内線番号・内線名称の文字を表示したり消したりすることが可能です。
本アプリケーションの設定
→基本情報の設定-テレビ電話/カメラ連動設定-画像表示開始時の文字表示
- 映像画面全体を薄暗く表示し、日付や内線番号・内線名称の文字表示を見やすくすることが可能です（本アプリケーションバージョン：02-02～）。
本アプリケーションの設定
→基本情報の設定-テレビ電話/カメラ連動設定-映像文字強調表示
- 端末側における画面自動回転の設定が「ON」の状態となっている場合のみ、端末を横向きにすると、映像画面のみを拡大して横向きに表示することが可能です（本アプリケーションバージョン：02-02～）。
端末を再度縦向きにすると、元の表示に戻ります。

6

通話が終わったら、「終話ボタン」をタップします。



補足説明

- 本アプリケーションで、基本情報の設定-テレビ電話/カメラ連動設定-自画像表示の設定を「あり」にしている場合、「自画像送信ボタン」が有効であれば、テレビ電話での通話時に電話機LCD表示部の右下に自画像を表示します。
※端末側における画面自動回転の設定が「ON」の状態で映像画面のみを拡大して横向きに表示した場合、画面右下に自画像も表示されます（本アプリケーションバージョン：02-02～）。
相手の方の画面は自画像の上下を切り取った画像が表示されます（映像画面のみを拡大して横向きに表示している場合、機種によって、相手の方の画面は自画像の左右を切り取った画像が表示されることがあります）。また、電話機LCD表示部の右下へ表示している自画像について、相手の方の画面に表示されている範囲が枠で示されます（本アプリケーションバージョン：02-02～）。



ご注意

- 利用しているネットワーク環境などの影響により、画像が完全に表示されるまでに時間がかかることがあります。
- カメラの性能や利用しているネットワーク環境などの影響により、動きが激しいときは画像が乱れることがあります。
- テレビ電話画面を表示していると、まれに画像表示が途切れることがありますが、機器の異常ではありません。利用しているネットワーク環境や端末の負荷状態により、画像データが正常に受信できなかった場合にリフレッシュ機能が動作するためです。
- リフレッシュ機能や画像の乱れが頻繁に発生する場合、無線LAN環境の変化が考えられます。無線LANアクセスポイントの設置場所や設置環境に変化が無いをご確認のうえ、販売店にご相談ください。
- 3G/LTE回線を利用した発着信中や通話中に本アプリケーションへテレビ電話の着信が入った場合、「テレビ電話画面自動切替」の設定に関わらずテレビ電話画面への切替が行われません。
3G/LTE回線のご利用終了後に本アプリケーションでテレビ電話の着信に回答した際、テレビ電話画面へ切り替わります。

5. アプリケーションの操作方法（便利な使い方）

カメラを使う（拠点間で画像サーバを使用せずに端末の内蔵カメラを利用する）

本アプリケーションで画像サーバを使用せずに、端末の内蔵カメラを利用して他拠点の画像表示端末間でテレビ電話の通話が可能です。

【本アプリケーションバージョン：02-02～】

※本機能は「Si主装置ソフトバージョン3-1版～」および「Xi主装置ソフトバージョン1-1版～」で利用可能となります。

事前に以下の主装置側のデータ設定を行っておく必要があります。詳細については、販売店へご確認ください。

- 特番：「他拠点呼出」の番号を設定
※初期値は「なし」になります。番号の設定を行ってください。
- VOIPUのチャンネル（収容位置）毎の用途：
最大8つの収容位置に対して「拠点間ビデオ会議/テレビ電話用」が設定可能
※「簡易ビデオ会議の利用有無」のデータ設定を「あり」に設定している場合、5つ～8つの収容位置に「拠点間ビデオ会議/テレビ電話用」を設定してください。
- テレビ電話時の画像サーバ使用有無：「なし（端末間のテレビ電話のみを利用）」を設定
※自拠点と他拠点の設定を共に「なし（端末間のテレビ電話のみを利用）」にしてください。

• 拠点間画像通信の利用有無：「あり」を設定

• 自拠点番号（拠点間画像通信用）：「自拠点番号」を設定

• 各拠点のIPアドレス（拠点間画像通信用）：「各拠点の主装置IPアドレス」を設定

また、本アプリケーションの下記設定を必ずご確認くださいのうえ、操作を行ってください。

（詳細は、「3. アプリケーションの設定」に関するページの記載をご参照ください）

• コーデック→「H.264」に設定

• 解像度→相手の方の端末における解像度の設定と同一値に設定

• 画像サーバ使用→「端末間のテレビ電話のみを使用する」に設定

- 端末の内蔵カメラを利用し、画像表示端末間(※)でテレビ電話の通話をする

※本アプリケーション（ET-MFTAPA2またはET-MFTAPI2のバージョンが02-02以上のみ）がインストールされている端末またはIPLD電話機（APLバージョンが0202以上のみ）とテレビ電話の通話が可能です。

IPLD電話機に関する詳細は、IPLD電話機側の取扱説明書をご参照ください。

1

ダイヤル画面の「発話ボタン」をタップします。



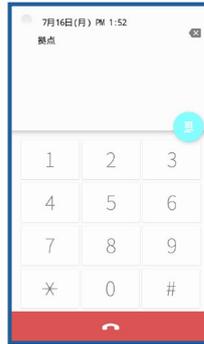
【補足説明】

- 内線発信音（ツツツ…）が聞こえます。

2

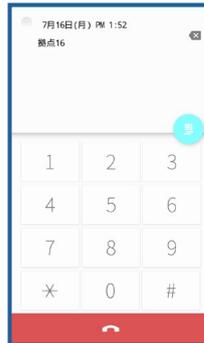
「他拠点呼出番号」を
ダイヤルします。

※「他拠点呼出番号」は、主装置側のデータ設定で設定している番号をダイヤルしてください。
また、主装置側のデータ設定で特番を可変桁設定にしている場合、番号に続けて「#」をダイヤルしてください。



3

拠点番号をダイヤルします。



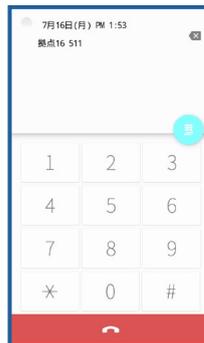
【補足説明】

- 手順2の後に約5秒経過すると、ダイヤル不可の状態となりますので、事前に拠点番号をご確認のうえ、ダイヤルしてください。
ダイヤル不可の状態となった場合は、「終話ボタン」をタップ後に再度手順1から順に操作を行ってください。

4

本アプリケーションがインストールされている端末またはIPLD電話機の内線番号をダイヤルして、
発信します。

※内線番号を4桁ダイヤルした時点またはダイヤル後の無操作が5秒続いた時点で発信します。
内線番号が3桁以下の場合、番号に続けて「#」をダイヤルすると、即時発信します。



【補足説明】

- 手順3の後に約5秒経過すると、ダイヤル不可の状態となりますので、事前に内線番号をご確認のうえ、ダイヤルしてください。
ダイヤル不可の状態となった場合は、「終話ボタン」をタップ後に再度手順1から順に操作を行ってください。

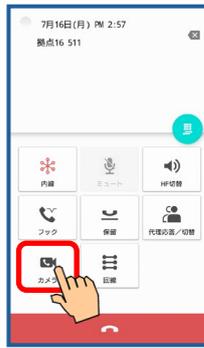
5

「入力操作切替ボタン」を
タップします。



6

「カメラボタン」をタップし、テレビ電話画面に切り替えます。



【補足説明】

- 本アプリケーションの設定で、内線発信の直後に自動でテレビ電話画面に切り替えることも可能です。
→基本情報の設定-テレビ電話/カメラ連動設定-テレビ電話画面自動切替
- 相手の方の端末がテレビ電話画面を表示中で自画像の送信が無い場合、「画像送信を停止中です」の文字が表示されたブルーバック表示となります。
相手の方の端末が自画像の送信を開始後、本アプリケーションの電話機LCD表示部に相手の端末の画像を表示します。

7

テレビ電話画面の「自画像送信ボタン」が無効になっている場合は、「自画像送信ボタン」をタップして有効にします。相手の方の端末へ自画像の送信が開始されます。



【補足説明】

- 本アプリケーションの設定でテレビ電話開始時に自動で自画像の送信を行うようにすることが可能です。
→基本情報の設定-テレビ電話/カメラ連動設定-自画像自動送信
- 「自画像送信ボタン」が無効になっている場合、相手の方の端末の画像は「画像送信を停止中です」の文字が表示されたブルーバック表示となります。

8

相手の方が応答したら、テレビ電話で通話します。



【補足説明】

- 通話中に「HF切替ボタン」をタップすると（ランプが点灯します）、マイクとスピーカを利用したハンズフリー通話へ切り替えることができます。
ハンズフリー通話に関する詳細は、「5. アプリケーションの操作方法（便利な使い方）-ハンズフリー通話をする」のページをご参照ください。
- テレビ電話での通話中は、端末のメイン/フロントカメラの切替などが可能です。
- テレビ電話での通話中は、「文字情報表示ボタン」のタップや本アプリケーションの設定(下記参照)で日付や内線番号・内線名称の文字を表示したり消したりすることが可能です。
本アプリケーションの設定
→基本情報の設定-テレビ電話/カメラ連動設定-画像表示開始時の文字表示
- 映像画面全体を薄暗く表示し、日付や内線番号・内線名称の文字表示を見やすくすることが可能です。
本アプリケーションの設定
→基本情報の設定-テレビ電話/カメラ連動設定-映像文字強調表示
- 端末側における画面自動回転の設定が「ON」の状態となっている場合のみ、端末を横向きにすると、映像画面のみを拡大して横向きに表示することが可能です。
端末を再度縦向きにすると、元の表示に戻ります。
- 本アプリケーションで通話の保留を行った場合、保留を解除するまで本アプリケーション側の音声が無音となり、通話の転送はできません。

9

通話が終わったら、
「終話ボタン」をタップ
します。



補足説明

- 本アプリケーションで、基本情報の設定-テレビ電話/カメラ連動設定-自画像表示の設定を「あり」にしている場合、「自画像送信ボタン」が有効であれば、テレビ電話での通話時に電話機LCD表示部の右下に自画像を表示します。
※端末側における画面自動回転の設定が「ON」の状態映像画面のみを拡大して横向きに表示した場合、画面右下に自画像も表示されます。
相手の方の画面は自画像の上下を切り取った画像が表示されます（映像画面のみを拡大して横向きに表示している場合、機種によって、相手の方の画面は自画像の左右を切り取った画像が表示されることがあります）。また、電話機LCD表示部の右下へ表示している自画像について、相手の方の画面に表示されている範囲が枠で示されます。



ご注意

- 利用しているネットワーク環境などの影響により、画像が完全に表示されるまでに時間がかかることがあります。
- カメラの性能や利用しているネットワーク環境などの影響により、動きが激しいときは画像が乱れることがあります。
- テレビ電話画面を表示していると、まれに画像表示が途切れることがありますが、機器の異常ではありません。利用しているネットワーク環境や端末の負荷状態により、画像データが正常に受信できなかった場合にリフレッシュ機能が動作するためです。
- リフレッシュ機能や画像の乱れが頻繁に発生する場合、無線LAN環境の変化が考えられます。無線LANアクセスポイントの設置場所や設置環境に変化が無いかご確認のうえ、販売店にご相談ください。
- 3G/LTE回線を利用した発着信中や通話中に本アプリケーションへテレビ電話の着信が入った場合、「テレビ電話画面自動切替」の設定に関わらずテレビ電話画面への切替が行われません。
3G/LTE回線のご利用終了後に本アプリケーションでテレビ電話の着信に回答した際、テレビ電話画面へ切り替わります。

5. アプリケーションの操作方法（便利な使い方）

カメラを使う（主装置指示設定で拠点内の画像関連機能を利用する場合）

本アプリケーションで「画像サーバ使用」の設定を「主装置指示」とした場合、自拠点におけるネットワークカメラの画像等の表示は画像サーバ経由で、自拠点の本アプリケーションまたはIPLD電話機とのテレビ電話は画像サーバを経由せずに端末の内蔵カメラを利用して通話することが可能です。また、画像サーバを経由せずに自拠点のIPカメラドアホンと通話することが可能です。

【本アプリケーションバージョン：02-02～】

※本機能は「Si主装置ソフトバージョン3-1版～」もしくは「Xi主装置ソフトバージョン1-1版～」で利用可能となります。

事前に以下の主装置側のデータ設定を行っておく必要があります。詳細については、販売店へご確認ください。

- 端末毎のカメラID：「本アプリケーション、IPカメラドアホンを接続する収容位置のカメラID」を設定
- テレビ電話時の画像サーバ使用有無：「自動切替」を設定

また、本アプリケーションの下記設定を必ずご確認ください。操作を行ってください。

（詳細は、「3. アプリケーションの設定」に関するページの記載をご参照ください）

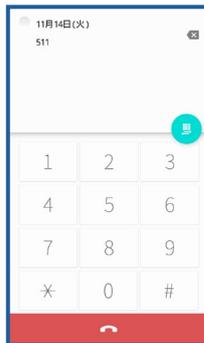
- 解像度→「QVGA」に設定
- 画像サーバ使用→「主装置指示」に設定
- IPCAMDH2接続設定→IPカメラドアホンのカメラID（主装置側のデータ設定（端末毎のカメラID）の値と同一値）、IPアドレス、表示名称を設定
※IPカメラドアホンを利用する場合、設定を行ってください。
- IPCAMDH2解像度→「QVGA」に設定（IPカメラドアホン側の解像度の設定も同一値に設定）
※IPカメラドアホンを利用する場合、設定を行ってください。

- 端末の内蔵カメラを利用し、本アプリケーションがインストールされている端末またはIPLD電話機とテレビ電話で通話する

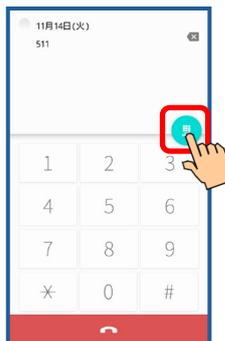
※本アプリケーション（ET-MFTAPA2またはET-MFTAPI2のバージョンが02-02以上のみ）がインストールされている端末またはIPLD電話機（APLバージョンが0202以上のみ）とテレビ電話の通話が可能です。

IPLD電話機に関する詳細は、IPLD電話機側の取扱説明書をご参照ください。

- 1 本アプリケーションがインストールされている端末またはIPLD電話機へ内線発信をします。

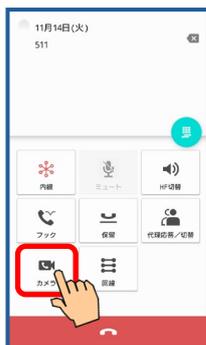


- 2 「入力操作切替ボタン」をタップします。



3

「カメラボタン」をタップし、テレビ電話画面に切り替えます。

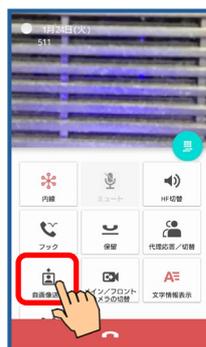


【補足説明】

- 本アプリケーションの設定で、内線発信の直後に自動でテレビ電話画面に切り替えることも可能です。
→基本情報の設定-テレビ電話/カメラ連動設定-テレビ電話画面自動切替
- 相手の方の端末がテレビ電話画面を表示中で自画像の送信が無い場合、「画像送信を停止中です」の文字が表示されたブルーバック表示となります。
相手の方の端末が自画像の送信を開始後、本アプリケーションの電話機LCD表示部に相手の端末の画像を表示します。

4

テレビ電話画面の「自画像送信ボタン」が無効になっている場合は、「自画像送信ボタン」をタップして有効にします。相手の方の端末へ自画像の送信が開始されます。



【補足説明】

- 本アプリケーションの設定でテレビ電話開始時に自動で自画像の送信を行うようにすることが可能です。
→基本情報の設定-テレビ電話/カメラ連動設定-自画像自動送信
- 「自画像送信ボタン」が無効になっている場合、相手の方の端末の画像は「画像送信を停止中です」の文字が表示されたブルーバック表示となります。

5

相手の方が応答したら、テレビ電話で通話します。



【補足説明】

- 通話中に「HF切替ボタン」をタップすると（ランプが点灯します）、マイクとスピーカを利用したハンズフリー通話へ切り替えることができます。
ハンズフリー通話に関する詳細は、「5. アプリケーションの操作方法（便利な使い方）-ハンズフリー通話をする」のページをご参照ください。
- テレビ電話での通話中は、端末のメイン/フロントカメラの切替などが可能です。
- テレビ電話での通話中は、「文字情報表示ボタン」のタップや本アプリケーションの設定(下記参照)で日付や内線番号・内線名称の文字を表示したり消したりすることが可能です。
本アプリケーションの設定
→基本情報の設定-テレビ電話/カメラ連動設定-画像表示開始時の文字表示
- 映像画面全体を薄暗く表示し、日付や内線番号・内線名称の文字表示を見やすくすることが可能です。
本アプリケーションの設定
→基本情報の設定-テレビ電話/カメラ連動設定-映像文字強調表示
- 端末側における画面自動回転の設定が「ON」の状態となっている場合のみ、端末を横向きにすると、映像画面のみを拡大して横向きに表示することが可能です。
端末を再度縦向きにすると、元の表示に戻ります。

6

通話が終わったら、
「終話ボタン」をタップ
します。



補足説明

- 本アプリケーションで、基本情報の設定-テレビ電話/カメラ連動設定-自画像表示の設定を「あり」にしている場合、「自画像送信ボタン」が有効であれば、テレビ電話での通話時に電話機LCD表示部の右下に自画像を表示します。
※端末側における画面自動回転の設定が「ON」の状態で映像画面のみを拡大して横向きに表示した場合、画面右下に自画像も表示されます。
相手の方の画面は自画像の上下を切り取った画像が表示されます（映像画面のみを拡大して横向きに表示している場合、機種によって、相手の方の画面は自画像の左右を切り取った画像が表示されることがあります）。また、電話機LCD表示部の右下へ表示している自画像について、相手の方の画面に表示されている範囲が枠で示されます。



ご注意

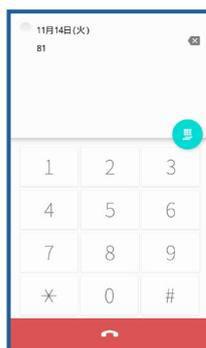
- 利用しているネットワーク環境などの影響により、画像が完全に表示されるまでに時間がかかることがあります。
- カメラの性能や利用しているネットワーク環境などの影響により、動きが激しいときは画像が乱れることがあります。
- テレビ電話画面を表示していると、まれに画像表示が途切れることがありますが、機器の異常ではありません。利用しているネットワーク環境や端末の負荷状態により、画像データが正常に受信できなかった場合にリフレッシュ機能が動作するためです。
- リフレッシュ機能や画像の乱れが頻繁に発生する場合、無線LAN環境の変化が考えられます。無線LANアクセスポイントの設置場所や設置環境に変化が無いかご確認のうえ、販売店にご相談ください。
- 3G/LTE回線を利用した発着信中や通話中に本アプリケーションへテレビ電話の着信が入った場合、「テレビ電話画面自動切替」の設定に関わらずテレビ電話画面への切替が行われません。
3G/LTE回線のご利用終了後に本アプリケーションでテレビ電話の着信に応答した際、テレビ電話画面へ切り替わります。

• IPカメラドアホンと通話する

※本機能は、主装置にIPカメラドアホンが接続されている場合のみ利用可能です。

1

IPカメラドアホンへ内線発信をします。



2

IPカメラドアホンが応答すると、自動でカメラ連動画面に切り替わります。



【補足説明】

- IPカメラドアホンから画像の送信が無い場合、画像はブルーバック状態となり、数秒後にエラーダイアログが表示されます。
IPカメラドアホンが画像の送信を開始後、本アプリケーションの電話機LCD表示部にIPカメラドアホンの画像を表示します。

3

IPカメラドアホンと通話します。



【補足説明】

- 通話中に「HF切替ボタン」をタップすると（ランプが点灯します）、マイクとスピーカを利用したハンズフリー通話へ切り替えることができます。
ハンズフリー通話に関する詳細は、「5. アプリケーションの操作方法（便利な使い方）-ハンズフリー通話をする」のページをご参照ください。
- 通話中は、画面の左下に本アプリケーションで設定したカメラ名称が表示されます。
また、「文字情報表示ボタン」のタップや本アプリケーションの設定(下記参照)で日付や内線番号・内線名称の文字を表示したり消したりすることが可能です。
本アプリケーションの設定
→基本情報の設定-テレビ電話/カメラ連動設定-画像表示開始時の文字表示
- 映像画面全体を薄暗く表示し、日付や内線番号・内線名称の文字表示を見やすくすることが可能です。
本アプリケーションの設定
→基本情報の設定-テレビ電話/カメラ連動設定-映像文字強調表示
- 端末側における画面自動回転の設定が「ON」の状態となっている場合のみ、端末を横向きにすると、映像画面のみを拡大して横向きに表示することが可能です。
端末を再度縦向きにすると、元の表示に戻ります。

4

通話が終わったら、
「終話ボタン」をタップ
します。



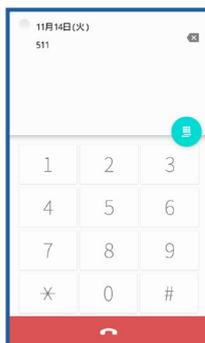
ご注意

- 利用しているネットワーク環境などの影響により、画像が完全に表示されるまでに時間がかかることがあります。
- カメラの性能や利用しているネットワーク環境などの影響により、動きが激しいときは画像が乱れることがあります。
- カメラ連動画面を表示していると、まれに画像表示が途切れることがありますが、機器の異常ではありません。利用しているネットワーク環境や端末の負荷状態により、画像データが正常に受信できなかった場合にリフレッシュ機能が動作するためです。
- リフレッシュ機能や画像の乱れが頻繁に発生する場合、無線LAN環境の変化が考えられます。無線LANアクセスポイントの設置場所や設置環境に変化が無いをご確認のうえ、販売店にご相談ください。

- 本アプリケーションがインストールされている端末/IPLD電話機/IPカメラドアホン以外の電話機・ネットワークカメラ連動機能を設定している端末とテレビ電話で通話する

1

電話機・ネットワークカメラ連動機能を設定している端末へ内線発信をします。



2

相手の方が応答すると、自動でカメラ連動画面に切り替わります。



【補足説明】

- 相手の方の端末から自画像の送信が無い場合、画像は「画像送信を停止中です」の文字が表示されたブルーバック表示となります。
- 相手の方の端末が自画像の送信を開始後、本アプリケーションの電話機LCD表示部に相手の端末の画像を表示します。

3

カメラ連動画面の「自画像送信ボタン」が無効になっている場合は、「自画像送信ボタン」をタップして有効にします。相手の方の端末へ自画像の送信が開始されます。



【補足説明】

- 本アプリケーションの設定でテレビ電話開始時に自動で自画像の送信を行うようにすることが可能です。
→基本情報の設定-テレビ電話/カメラ連動設定-自画像自動送信
- 「自画像送信ボタン」が無効になっている場合、相手の方の端末の画像は「画像送信を停止中です」の文字が表示されたブルーバック表示となります。

4

相手の方とテレビ電話で通話します。



【補足説明】

- 通話中に「HF切替ボタン」をタップすると（ランプが点灯します）、マイクとスピーカを利用したハンズフリー通話へ切り替えることができます。
ハンズフリー通話に関する詳細は、「5. アプリケーションの操作方法（便利な使い方）-ハンズフリー通話をする」のページをご参照ください。
- テレビ電話での通話中は、他のカメラの画像を見ること（「カメラボタン」のタップ）や画像のズームイン/ズームアウト、他の画像表示端末への一時的なカメラ切替、端末のメイン/フロントカメラの切替などが可能です。
- テレビ電話での通話中は、画面の左下に画像サーバ側で設定したカメラ名称が表示されます。
また、「文字情報表示ボタン」のタップや本アプリケーションの設定（下記参照）で日付や内線番号・内線名称の文字を表示したり消したりすることが可能です。
本アプリケーションの設定
→基本情報の設定-テレビ電話/カメラ連動設定-画像表示開始時の文字表示
- 映像画面全体を薄暗く表示し、日付や内線番号・内線名称の文字表示を見やすくすることが可能です。
本アプリケーションの設定
→基本情報の設定-テレビ電話/カメラ連動設定-映像文字強調表示
- 端末側における画面自動回転の設定が「ON」の状態となっている場合のみ、端末を横向きにすると、映像画面のみを拡大して横向きに表示することが可能です。
端末を再度縦向きにすると、元の表示に戻ります。

5

通話が終わったら、「終話ボタン」をタップします。



補足説明

- 本アプリケーションで、基本情報の設定-テレビ電話/カメラ連動設定-自画像表示の設定を「あり」にしている場合、「自画像送信ボタン」が有効であれば、テレビ電話での通話時に電話機LCD表示部の右下に自画像を表示します。
 - ※1：相手の方がボタン電話機とネットワークカメラの連動で通話している場合等は、自画像表示の設定を「あり」にしている場合でも自画像は表示されません。
 - ※2：端末側における画面自動回転の設定が「ON」の状態で映像画面のみを拡大して横向きに表示した場合、画面右下に自画像も表示されます。
- 相手の方の画面は自画像の上下を切り取った画像が表示されます（映像画面のみを拡大して横向きに表示している場合、機種によって、相手の方の画面は自画像の左右を切り取った画像が表示されることがあります）。また、電話機LCD表示部の右下へ表示している自画像について、相手の方の画面に表示されている範囲が枠で示されます。



ご注意

- 利用しているネットワーク環境などの影響により、画像が完全に表示されるまでに時間がかかることがあります。
- カメラの性能や利用しているネットワーク環境などの影響により、動きが激しいときは画像が乱れることがあります。
- カメラ連動画面を表示していると、まれに画像表示が途切れることがありますが、機器の異常ではありません。利用しているネットワーク環境や端末の負荷状態により、画像データが正常に受信できなかった場合にリフレッシュ機能が動作するためです。
- リフレッシュ機能や画像の乱れが頻繁に発生する場合、無線LAN環境の変化が考えられます。無線LANアクセスポイントの設置場所や設置環境に変化が無いかご確認のうえ、販売店にご相談ください。
- 端末の圏外状態時は画像サーバとの接続が切断され、機能を利用することができません（本アプリケーションはダイヤル画面を表示します）。端末の圏内復旧・本アプリケーションの主装置再接続後に画像サーバとも再接続し、再度機能の利用が可能となります。
- テレビ電話での通話中に他のカメラの画像を見る場合、表示される画面（カメラモニタ画面）とカメラ連動画面が切り替わる際にネットワーク環境などの影響により、自画像が一瞬表示されることがあります。
- 画像の表示が異常になった場合、「カメラボタン」を2回タップすることで元の画面を表示します。

• カメラの画像を見る

※主装置指示設定でカメラの画像を見る場合、IPカメラドアホンのカメラの画像を見ることはできません。

1

待機状態のダイヤル画面で「カメラボタン」をタップします。

※画像サーバへ正常に接続できている場合のみ「カメラボタン」が有効となります。

無効になっている場合は、タップすることができません。



2

カメラモニタ画面に切り替わり、カメラの画像が表示されます。もう一度「カメラボタン」をタップすると、ダイヤル画面が表示に戻ります。



【補足説明】

- 複数のカメラがある場合、最初に表示するカメラは画像サーバの設定に従います。
- カメラの画像の表示中は、画像のズームイン/ズームアウト、他のカメラへのカメラ切替などが可能です。
- カメラの画像を表示時、画面の左下に画像サーバ側で設定したカメラ名称が表示されます。
また、「文字情報表示ボタン」のタップや本アプリケーションの設定(下記参照)で日付や内線番号・内線名称の文字情報を表示したり消したりすることが可能です。
本アプリケーションの設定
→基本情報の設定-テレビ電話/カメラ連動設定-画像表示開始時の文字表示
- 1つのカメラの画像を複数の端末で表示することが可能です。
- 映像画面全体を薄暗く表示し、日付や内線番号・内線名称の文字表示を見やすくすることが可能です。
本アプリケーションの設定
→基本情報の設定-テレビ電話/カメラ連動設定-映像文字強調表示
- 端末側における画面自動回転の設定が「ON」の状態となっている場合のみ、端末を横向きにすると、映像画面のみを拡大して横向きに表示することが可能です。
端末を再度縦向きにすると、元の表示に戻ります。

ご注意

- カメラの画像を表示する端末が増えると、画像のフレームレートが低下し、動きが滑らかに表示されないことがあります。
- 利用しているネットワーク環境などの影響により、画像が完全に表示されるまでに時間がかかることがあります。
- カメラの性能や利用しているネットワーク環境などの影響により、動きが激しいときは画像が乱れることがあります。
- 本アプリケーションがインストールされている端末/IPLD電話機/IPカメラドアホン以外の電話機・ネットワークカメラ連動機能を設定している端末とテレビ電話での通話を行う場合、カメラモニタ画面を表示中であっても、カメラモニタ画面を表示したまま本アプリケーションで着信を受けることが可能です。
ただし、通話後に保留操作をする場合は、「カメラボタン」のタップで通話画面に戻ってください。
また、文字情報を消している状態で着信を受けた場合、文字情報は表示されません。文字情報を確認したい場合は、カメラモニタ画面で「文字情報表示ボタン」をタップしてください。
- カメラモニタ画面を表示していると、まれに画像表示が途切れることがありますが、機器の異常ではありません。利用しているネットワーク環境や端末の負荷状態により、画像データが正常に受信できなかった場合にリフレッシュ機能が動作するためです。
- リフレッシュ機能や画像の乱れが頻繁に発生する場合、無線LAN環境の変化が考えられます。無線LANアクセスポイントの設置場所や設置環境に変化が無いかご確認のうえ、販売店にご相談ください。
- 端末の圏外状態時は画像サーバとの接続が切断され、機能を利用することができません（本アプリケーションはダイヤル画面を表示します）。端末の圏内復旧・本アプリケーションの主装置再接続後に画像サーバとも再接続し、再度機能の利用が可能となります。
- カメラモニタ画面の表示中に本アプリケーションがインストールされている端末/IPLD電話機/IPカメラドアホン以外の電話機・ネットワークカメラ連動機能を設定している端末とテレビ電話での通話を行う場合、通話画面（カメラ連動画面）とカメラモニタ画面が切り替わる際にネットワーク環境などの影響により、自画像が一瞬表示されることがあります。

5. アプリケーションの操作方法（便利な使い方）

カメラを使う（主装置指示設定で拠点間の画像関連機能を利用する場合）

本アプリケーションで「画像サーバ使用」の設定を「主装置指示」とした場合、他拠点の本アプリケーションまたはIPLD電話機とのテレビ電話は画像サーバを経由せずに端末の内蔵カメラを利用して通話することが可能です。また、画像サーバを経由せずに他拠点のIPカメラドアホンと通話することが可能です。
【本アプリケーションバージョン：02-02～】

※本機能は「Si主装置ソフトウェアバージョン3-1版～」もしくは「Xi主装置ソフトウェアバージョン1-1版～」で利用可能となります。

事前に以下の主装置側のデータ設定を行っておく必要があります。詳細については、販売店へご確認ください。

- 特番：「他拠点呼出」の番号を設定
※初期値は「なし」になります。番号の設定を行ってください。
- VOIPUのチャンネル（収容位置）毎の用途：
最大8つの収容位置に対して「拠点間ビデオ会議/テレビ電話用」が設定可能
※「簡易ビデオ会議の利用有無」のデータ設定を「あり」に設定している場合、5つ～8つの収容位置に「拠点間ビデオ会議/テレビ電話用」を設定してください。
- 端末毎のカメラID：「本アプリケーション、IPカメラドアホンを接続する収容位置のカメラID」を設定
- テレビ電話時の画像サーバ使用有無：「自動切替」を設定
※自拠点と他拠点の設定を共に「自動切替」にしてください。
- 拠点間画像通信の利用有無：「あり」を設定
- 自拠点番号（拠点間画像通信用）：「自拠点番号」を設定
- 各拠点のIPアドレス（拠点間画像通信用）：「各拠点の主装置IPアドレス」を設定

また、本アプリケーションの下記設定を必ずご確認くださいのうえ、操作を行ってください。
（詳細は、「3. アプリケーションの設定」に関するページの記載をご参照ください）

- 解像度→「QVGA」に設定
- 画像サーバ使用→「主装置指示」に設定
- IPCAMDH2接続設定→IPカメラドアホンのIPアドレス、表示名称を設定（カメラIDの設定は不要）
※IPカメラドアホンを利用する場合、設定を行ってください。
- IPCAMDH2解像度→「QVGA」に設定（IPカメラドアホン側の解像度の設定も同一値に設定）
※IPカメラドアホンを利用する場合、設定を行ってください。

- 端末の内蔵カメラを利用し、本アプリケーションがインストールされている端末またはIPLD電話機とテレビ電話で通話する

※本アプリケーション（ET-MFTAPA2またはET-MFTAPI2のバージョンが02-02以上のみ）がインストールされている端末またはIPLD電話機（APLバージョンが0202以上のみ）とテレビ電話の通話が可能です。

IPLD電話機に関する詳細は、IPLD電話機側の取扱説明書をご参照ください。

1

ダイヤル画面の
「発話ボタン」をタップ
します。



【補足説明】

- 内線発信音（ツツツ…）が聞こえます。

2

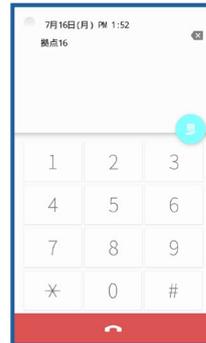
「他拠点呼出番号」を
ダイヤルします。

※「他拠点呼出番号」は、主装置側のデータ設定で設定している番号をダイヤルしてください。
また、主装置側のデータ設定で特番を可変桁設定にしている場合、番号に続けて「#」をダイヤルしてください。



3

拠点番号をダイヤルします。



【補足説明】

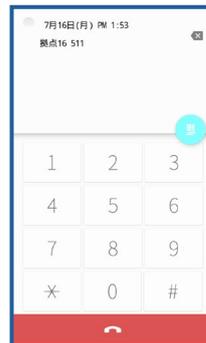
- 手順2の後に約5秒経過すると、ダイヤル不可の状態となりますので、事前に拠点番号をご確認のうえ、ダイヤルしてください。

ダイヤル不可の状態となった場合は、「終話ボタン」をタップ後に再度手順1から順に操作を行ってください。

4

本アプリケーションがインストールされている端末またはIPLD電話機の内線番号をダイヤルして、発信します。

※内線番号を4桁ダイヤルした時点またはダイヤル後の無操作が5秒続いた時点で発信します。
内線番号が3桁以下の場合、番号に続けて「#」をダイヤルすると、即時発信します。



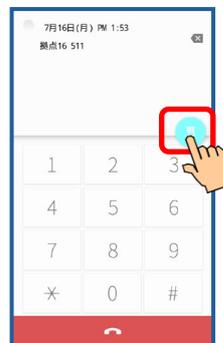
【補足説明】

- 手順3の後に約5秒経過すると、ダイヤル不可の状態となりますので、事前に内線番号をご確認のうえ、ダイヤルしてください。

ダイヤル不可の状態となった場合は、「終話ボタン」をタップ後に再度手順1から順に操作を行ってください。

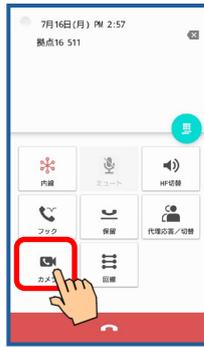
5

「入力操作切替ボタン」を
タップします。



6

「カメラボタン」をタップし、テレビ電話画面に切り替えます。



【補足説明】

- 本アプリケーションの設定で、内線発信の直後に自動でテレビ電話画面に切り替えることも可能です。
→基本情報の設定-テレビ電話/カメラ連動設定-テレビ電話画面自動切替
- 相手の方の端末がテレビ電話画面を表示中で自画像の送信が無い場合、「画像送信を停止中です」の文字が表示されたブルーバック表示となります。
相手の方の端末が自画像の送信を開始後、本アプリケーションの電話機LCD表示部に相手の端末の画像を表示します。

7

テレビ電話画面の「自画像送信ボタン」が無効になっている場合は、「自画像送信ボタン」をタップして有効にします。相手の方の端末へ自画像の送信が開始されます。



【補足説明】

- 本アプリケーションの設定でテレビ電話開始時に自動で自画像の送信を行うようにすることが可能です。
→基本情報の設定-テレビ電話/カメラ連動設定-自画像自動送信
- 「自画像送信ボタン」が無効になっている場合、相手の方の端末の画像は「画像送信を停止中です」の文字が表示されたブルーバック表示となります。

8

相手の方が応答したら、テレビ電話で通話します。



【補足説明】

- 通話中に「HF切替ボタン」をタップすると（ランプが点灯します）、マイクとスピーカを利用したハンズフリー通話へ切り替えることができます。
ハンズフリー通話に関する詳細は、「5. アプリケーションの操作方法（便利な使い方）-ハンズフリー通話をする」のページをご参照ください。
- テレビ電話での通話中は、端末のメイン/フロントカメラの切替などが可能です。
- テレビ電話での通話中は、「文字情報表示ボタン」のタップや本アプリケーションの設定(下記参照)で日付や内線番号・内線名称の文字を表示したり消したりすることが可能です。
本アプリケーションの設定
→基本情報の設定-テレビ電話/カメラ連動設定-画像表示開始時の文字表示
- 映像画面全体を薄暗く表示し、日付や内線番号・内線名称の文字表示を見やすくすることが可能です。
本アプリケーションの設定
→基本情報の設定-テレビ電話/カメラ連動設定-映像文字強調表示
- 端末側における画面自動回転の設定が「ON」の状態となっている場合のみ、端末を横向きにすると、映像画面のみを拡大して横向きに表示することが可能です。
端末を再度縦向きにすると、元の表示に戻ります。
- 本アプリケーションで通話の保留を行った場合、保留を解除するまで本アプリケーション側の音声が無音となり、通話の転送はできません。

9

通話が終わったら、
「終話ボタン」をタップ
します。



補足説明

- 本アプリケーションで、基本情報の設定-テレビ電話/カメラ連動設定-自画像表示の設定を「あり」にしている場合、「自画像送信ボタン」が有効であれば、テレビ電話での通話時に電話機LCD表示部の右下に自画像を表示します。
※端末側における画面自動回転の設定が「ON」の状態映像画面のみを拡大して横向きに表示した場合、画面右下に自画像も表示されます。
相手の方の画面は自画像の上下を切り取った画像が表示されます（映像画面のみを拡大して横向きに表示している場合、機種によって、相手の方の画面は自画像の左右を切り取った画像が表示されることがあります）。また、電話機LCD表示部の右下へ表示している自画像について、相手の方の画面に表示されている範囲が枠で示されます。



ご注意

- 利用しているネットワーク環境などの影響により、画像が完全に表示されるまでに時間がかかることがあります。
- カメラの性能や利用しているネットワーク環境などの影響により、動きが激しいときは画像が乱れることがあります。
- テレビ電話画面を表示していると、まれに画像表示が途切れることがありますが、機器の異常ではありません。利用しているネットワーク環境や端末の負荷状態により、画像データが正常に受信できなかった場合にリフレッシュ機能が動作するためです。
- リフレッシュ機能や画像の乱れが頻繁に発生する場合、無線LAN環境の変化が考えられます。無線LANアクセスポイントの設置場所や設置環境に変化が無いかご確認のうえ、販売店にご相談ください。
- 3G/LTE回線を利用した発着信中や通話中に本アプリケーションへテレビ電話の着信が入った場合、「テレビ電話画面自動切替」の設定に関わらずテレビ電話画面への切替が行われません。
3G/LTE回線のご利用終了後に本アプリケーションでテレビ電話の着信に应答した際、テレビ電話画面へ切り替わります。

・IPカメラドアホンと通話する

※本機能は、他拠点の主装置にIPカメラドアホンが接続されている場合のみ利用可能です。

1

ダイヤル画面の「発話ボタン」をタップします。



【補足説明】

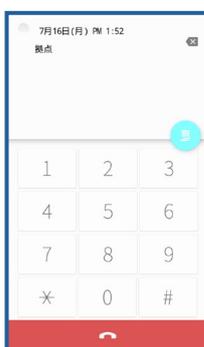
- ・内線発信音（ツツツ…）が聞こえます。

2

「他拠点呼出番号」をダイヤルします。

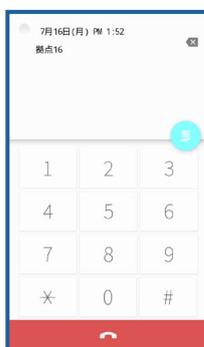
※「他拠点呼出番号」は、主装置側のデータ設定で設定している番号をダイヤルしてください。

また、主装置側のデータ設定で特番を可変桁設定にしている場合、番号に続けて「#」をダイヤルしてください。



3

拠点番号をダイヤルします。



【補足説明】

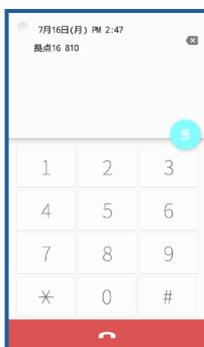
- ・手順2の後に約5秒経過すると、ダイヤル不可の状態となりますので、事前に拠点番号をご確認のうえ、ダイヤルしてください。
ダイヤル不可の状態となった場合は、「終話ボタン」をタップ後に再度手順1から順に操作を行ってください。

4

他拠点のIPカメラドアホンの内線番号をダイヤルして、発信します。

※内線番号を4桁ダイヤルした時点またはダイヤル後の無操作が5秒続いた時点で発信します。

内線番号が3桁以下の場合、番号に続けて「#」をダイヤルすると、即時発信します。



【補足説明】

- ・手順3の後に約5秒経過すると、ダイヤル不可の状態となりますので、事前に内線番号をご確認のうえ、ダイヤルしてください。
ダイヤル不可の状態となった場合は、「終話ボタン」をタップ後に再度手順1から順に操作を行ってください。

5

IPカメラドアホンが応答すると、自動でカメラ連動画面に切り替わります。



【補足説明】

- IPカメラドアホンから画像の送信が無い場合、画像はブルーバック状態となり、数秒後にエラーダイアログが表示されます。
- IPカメラドアホンが画像の送信を開始後、本アプリケーションの電話機LCD表示部にIPカメラドアホンの画像を表示します。

6

IPカメラドアホンと通話します。



【補足説明】

- 通話中に「HF切替ボタン」をタップすると（ランプが点灯します）、マイクとスピーカを利用したハンズフリー通話へ切り替えることができます。
- ハンズフリー通話に関する詳細は、「5. アプリケーションの操作方法（便利な使い方）-ハンズフリー通話をする」のページをご参照ください。
- 通話中は、「文字情報表示ボタン」のタップや本アプリケーションの設定(下記参照)で日付や内線番号・内線名称の文字を表示したり消したりすることが可能です。
本アプリケーションの設定
→基本情報の設定-テレビ電話/カメラ連動設定-画像表示開始時の文字表示
- 映像画面全体を薄暗く表示し、日付や内線番号・内線名称の文字表示を見やすくすることが可能です。
本アプリケーションの設定
→基本情報の設定-テレビ電話/カメラ連動設定-映像文字強調表示
- 端末側における画面自動回転の設定が「ON」の状態となっている場合のみ、端末を横向きにすると、映像画面のみを拡大して横向きに表示することが可能です。
端末を再度縦向きにすると、元の表示に戻ります。
- 本アプリケーションで通話の保留を行った場合、保留を解除するまで本アプリケーション側の音声が無音となり、通話の転送はできません。

7

通話が終わったら、
「終話ボタン」をタップ
します。



ご注意

- 利用しているネットワーク環境などの影響により、画像が完全に表示されるまでに時間がかかることがあります。
- カメラの性能や利用しているネットワーク環境などの影響により、動きが激しいときは画像が乱れることがあります。
- カメラ連動画面を表示していると、まれに画像表示が途切れることがありますが、機器の異常ではありません。利用しているネットワーク環境や端末の負荷状態により、画像データが正常に受信できなかった場合にリフレッシュ機能が動作するためです。
- リフレッシュ機能や画像の乱れが頻繁に発生する場合、無線LAN環境の変化が考えられます。無線LANアクセスポイントの設置場所や設置環境に変化が無いをご確認のうえ、販売店にご相談ください。

5. アプリケーションの操作方法（便利な使い方）

拠点内の簡易ビデオ会議を行う

本アプリケーションを画像サーバ経由で使用し、拠点内で簡易ビデオ会議（最大4者）を行うことが可能です。※事前に以下の主装置側のデータ設定を行っておく必要があります。詳細については、販売店へご確認ください。

- 端末毎のカメラID：「本アプリケーションを接続する収容位置のカメラID」を設定
- テレビ電話時の画像サーバ使用有無：「あり」または「自動切替」を設定
 - ※「自動切替」は、「Si主装置ソフトウェアバージョン3-1版～」もしくは「Xi主装置ソフトウェアバージョン1-1版～」で設定可能です。
- 簡易ビデオ会議の利用有無：「あり」を設定

画像サーバの「ネットワークカメラ設定」については、「No.62：TV会議」に設定しておく必要があります。また、本アプリケーションの下記設定を必ずご確認くださいのうえ、操作を行ってください。（詳細は、「3. アプリケーションの設定」に関するページの記載をご参照ください）

- コーデック→「H.264」に設定
- 解像度→「QVGA」に設定
- 画像サーバ使用→「画像サーバを使用する」または「主装置指示」に設定
 - ※「主装置指示」は、本アプリケーションのバージョンが02-02以上で設定可能です。

• ビデオ会議を開催する

- 1 **ダイヤル画面の「発話ボタン」をタップします。**

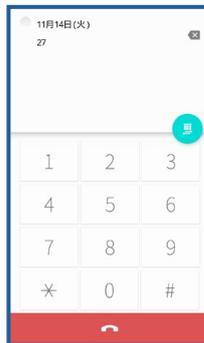


【補足説明】

- 内線発信音（ツツツ…）が聞こえます。

- 2 **「内線ビデオ会議参加番号：279」をダイヤルします。**

※「279」は主装置側のデータ設定が初期値の場合です。設定を変更している場合、変更後の番号をダイヤルしてください。
また、主装置側のデータ設定で特番を可変桁設定にしている場合、番号に続けて「#」をダイヤルしてください。



【補足説明】

- 内線ビデオ会議参加番号の代わりに、主装置側の設定で本アプリケーションを接続する収容位置にプログラマブルキー「内線ビデオ会議」が入っている場合、回線画面で下記ボタンをタップ（手順1の操作は不要）しても会議の開催が可能です。下記ボタンをタップした場合は、タップ後にハンズフリー通話の状態となります。

内線ビデオ会議

他の端末からの参加を待ちます。



【補足説明】

- 「HF切替ボタン」をタップすると（ランプが点灯します）、マイクとスピーカを利用したハンズフリー通話へ切り替えることができます。
ハンズフリー通話に関する詳細は、「5. アプリケーションの操作方法（便利な使い方）-ハンズフリー通話をする」のページをご参照ください。
- 「自画像送信ボタン」が無効になっている場合は、「画像送信を停止中です」の文字が表示されたブルーバック表示となりますので、「自画像送信ボタン」をタップして有効にしてください。
- 映像画面全体を薄暗く表示し、文字情報の表示を見やすくすることが可能です（本アプリケーションバージョン：02-02～）。
本アプリケーションの設定
→基本情報の設定-テレビ電話/カメラ連動設定-映像文字強調表示
- 端末側における画面自動回転の設定が「ON」の状態となっている場合のみ、端末を横向きにすると、映像画面のみを拡大して横向きに表示することが可能です（本アプリケーションバージョン：02-02～）。
端末を再度縦向きにすると、元の表示に戻ります。

・ビデオ会議に参加する

1

ダイヤル画面の「発話ボタン」をタップします。



【補足説明】

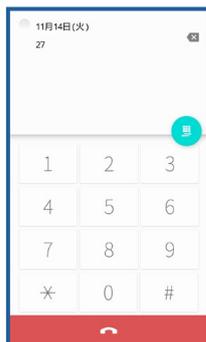
- ・内線発信音（ツツツ…）が聞こえます。

2

「内線ビデオ会議参加番号：279」をダイヤルします。

※「279」は主装置側のデータ設定が初期値の場合です。設定を変更している場合、変更後の番号をダイヤルしてください。

また、主装置側のデータ設定で特番を可変桁設定にしている場合、番号に続けて「#」をダイヤルしてください。



【補足説明】

- ・内線ビデオ会議参加番号の代わりに、主装置側の設定で本アプリケーションを接続する収容位置にプログラマブルキー「内線ビデオ会議」が入っている場合、回線画面で下記ボタンをタップ（手順1の操作は不要）しても会議への参加が可能です。下記ボタンをタップした場合は、タップ後にハンズフリー通話の状態となります。

内線ビデオ会議

3

ビデオ会議で通話します。



【補足説明】

- ・「HF切替ボタン」をタップすると（ランプが点灯します）、マイクとスピーカを利用したハンズフリー通話へ切り替えることができます。ハンズフリー通話に関する詳細は、「5. アプリケーションの操作方法（便利な使い方）-ハンズフリー通話をする」のページをご参照ください。
- ・「自画像送信ボタン」が無効になっている場合、他の参加者から見える画面は「画像送信を停止中です」の文字が表示されたブルーバック表示となりますので、「自画像送信ボタン」をタップして有効にしてください。
- ・各端末からの画像の左下に端末の内線番号が表示されます。
- ・本手順の状態から他の端末も続けて参加することが可能です。
- ・ビデオ会議中は、他のカメラの画像を見ること（「カメラボタン」のタップ）や文字情報の表示/非表示、端末のメイン/フロントカメラの切替などが可能です。
- ・ビデオ会議中の保留操作はできません。
- ・映像画面全体を薄暗く表示し、文字情報の表示を見やすくすることが可能です（本アプリケーションバージョン：02-02～）。本アプリケーションの設定
→基本情報の設定-テレビ電話/カメラ連動設定-映像文字強調表示
- ・端末側における画面自動回転の設定が「ON」の状態となっている場合のみ、端末を横向きにすると、映像画面のみを拡大して横向きに表示することが可能です（本アプリケーションバージョン：02-02～）。端末を再度縦向きにすると、元の表示に戻ります。

4

ビデオ会議から退出する場合は、「終話ボタン」をタップします。

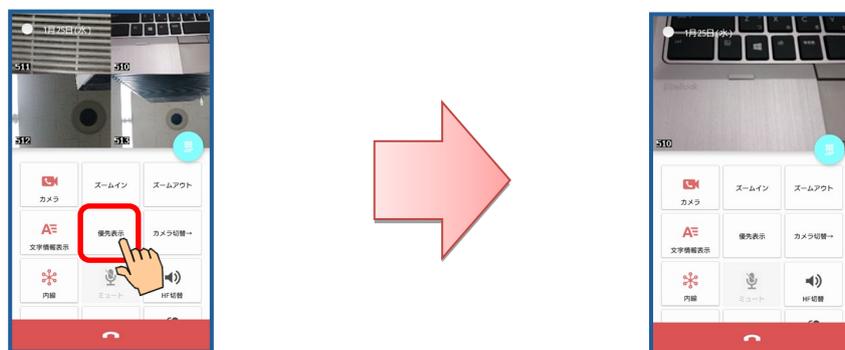


【補足説明】

- 一度退出をしても参加の手順を再操作することで、再び会議に戻ることが可能です。

補足説明

- 最大4者まで会議に参加した場合、画面は以下になります。また、本アプリケーションのカメラ連動画面の表示設定で「優先表示ボタン」をカスタマイズすることで、3者以上の会議の場合に「優先表示ボタン」のタップで自分の端末の画面のみを1画面表示へ拡大することが可能です（「優先表示ボタン」の再タップで元の画面表示へ戻ります）。



- ビデオ会議は、1システムで1会議のみ行うことが可能です。会議に参加する際は、目的の会議が開かれているか確認したうえでご参加ください。
- ビデオ会議機能を利用するにあたって必要な主装置側の設定及び画像サーバの設定に関する操作方法は各種マニュアルをご参照いただくか販売店へご相談ください。

ご注意

- 端末の圏外状態時は画像サーバとの接続が切断され、機能を利用することができません（本アプリケーションはダイヤル画面を表示します）。端末の圏内復旧・本アプリケーションの主装置再接続後に画像サーバとも再接続し、再度機能の利用が可能となります。

5. アプリケーションの操作方法（便利な使い方）

拠点間の簡易ビデオ会議を行う

本アプリケーションを画像サーバ経由で使用し、各拠点間で簡易ビデオ会議(最大4者)を行うことが可能です。
※事前に以下の主装置側のデータ設定を行っておく必要があります。詳細については、販売店へご確認ください。

- VOIPUのチャンネル（収容位置）毎の用途：
少なくとも4つの収容位置に対して「拠点間ビデオ会議/テレビ電話用」を設定
- 端末毎のカメラID：「本アプリケーションを接続する収容位置のカメラID」を設定
- テレビ電話時の画像サーバ使用有無：「あり」または「自動切替」を設定
※「自動切替」は、「Si主装置ソフトウェアバージョン3-1版～」もしくは「Xi主装置ソフトウェアバージョン1-1版～」で設定可能です。
- 簡易ビデオ会議の利用有無：「あり」を設定
- 拠点間画像通信の利用有無：「あり」を設定
- 自拠点番号（拠点間画像通信用）：「自拠点番号」を設定
- 各拠点のIPアドレス（拠点間画像通信用）：「各拠点の主装置IPアドレス」を設定

プログラマブルキーを使用してビデオ会議を行う場合は、上記のデータ設定に加えて本アプリケーションを接続する収容位置に「マルチビデオ会議」のプログラマブルキーを登録する必要があります。登録方法は主装置へ添付の取扱説明書をご参照ください。

画像サーバの「ネットワークカメラ設定」については、「No.62：TV会議」に設定しておく必要があります。また、本アプリケーションの下記設定を必ずご確認くださいのうえ、操作を行ってください。

（詳細は、「3. アプリケーションの設定」に関するページの記載をご参照ください）

- コーデック→「H.264」に設定
- 解像度→「QVGA」に設定
- 画像サーバ使用→「画像サーバを使用する」または「主装置指示」に設定
※「主装置指示」は、本アプリケーションのバージョンが02-02以上で設定可能です。
- 画像サーバへの接続方法→「呼毎起動」に設定

• プログラマブルキー「マルチビデオ会議」を使用してビデオ会議を開催する

1 タブバーの「回線」を
タップします。



2 「マルチビデオ会議」のボタン
をタップします。



3

タブバーの「ダイヤル」をタップします。



4

「拠点間ビデオ会議メニュー」が表示されるので、上下左右ボタンで「空き」状態の会議室（拠点）を選択してセンターキー（決定）をタップします。



【補足説明】

- 「使用×」や「――」の状態となっている会議室（拠点）ではビデオ会議を開催することができません。
- 上下左右ボタンは「入力操作切替ボタン」を2回タップすることで表示します。

5

他の端末からの参加を待ちます。



【補足説明】

- プログラムプキー「マルチビデオ会議」を使用して会議を開催する場合、マイクとスピーカを利用したハンズフリー通話の状態となります。
事前に主装置側の設定で本アプリケーションを接続する収容位置のプログラムプキー-36に「マイク」が登録されていることをご確認ください。
ハンズフリー通話に関する詳細は、「5. アプリケーションの操作方法（便利な使い方）-ハンズフリー通話をする」のページをご参照ください。
- 「自画像送信ボタン」が無効になっている場合は、「画像送信を停止中です」の文字が表示されたブルーバック表示となりますので、「自画像送信ボタン」をタップして有効にしてください。
- 映像画面全体を薄暗く表示し、文字情報の表示を見やすくすることが可能です(本アプリケーションバージョン:02-02~)。本アプリケーションの設定
→基本情報の設定-テレビ電話/カメラ連動設定-映像文字強調表示
端末側における画面自動回転の設定が「ON」の状態となっている場合のみ、端末を横向きにすると、映像画面のみを拡大して横向きに表示することが可能です(本アプリケーションバージョン:02-02~)。
端末を再度縦向きにすると、元の表示に戻ります。

• プログラムブルキー「マルチビデオ会議」を使用してビデオ会議に参加する

1

タブバーの「回線」を
タップします。



2

「マルチビデオ会議」のボタン
をタップします。



3

タブバーの「ダイヤル」を
タップします。



4

「拠点間ビデオ会議メニュー」
が表示されるので、
上下左右ボタンで「入室○」
状態の会議室（拠点）を
選択してセンターキー（決
定）をタップします。



【補足説明】

- 「入室×」や「――」の状態となっている会議室（拠点）ではビデオ会議に参加することができません。
- 上下左右ボタンは「入力操作切替ボタン」を2回タップすることで表示します。

ビデオ会議で通話します。



【補足説明】

- プログラマブルキー「マルチビデオ会議」を使用して会議に参加する場合、マイクとスピーカを利用したハンズフリー通話の状態となります。
事前に主装置側の設定で本アプリケーションを接続する収容位置のプログラマブルキー36に「マイク」が登録されていることをご確認ください。
ハンズフリー通話に関する詳細は、「5. アプリケーションの操作方法（便利な使い方）-ハンズフリー通話をする」のページをご参照ください。
- 「自画像送信ボタン」が無効になっている場合、他の参加者から見える画面は「画像送信を停止中です」の文字が表示されたブルーバック表示となりますので、「自画像送信ボタン」をタップして有効にしてください。
- 各端末からの画像の左下に自拠点番号・端末の内線番号が表示されます。
- 本手順の状態から他の端末も続けて参加することが可能です。
- ビデオ会議中は、他のカメラの画像を見ること（「カメラボタン」のタップ）や文字情報の表示/非表示、端末のメイン/フロントカメラの切替などが可能です。
- ビデオ会議中の保留操作はできません。
- 映像画面全体を薄暗く表示し、文字情報の表示を見やすくすることが可能です（本アプリケーションバージョン：02-02～）。
本アプリケーションの設定
→基本情報の設定-テレビ電話/カメラ連動設定-映像文字強調表示
- 端末側における画面自動回転の設定が「ON」の状態となっている場合のみ、端末を横向きにすると、映像画面のみを拡大して横向きに表示することが可能です（本アプリケーションバージョン：02-02～）。
端末を再度縦向きにすると、元の表示に戻ります。

ビデオ会議から退出する場合は、「終話ボタン」をタップします。



【補足説明】

- 一度退出をしても参加の手順を再操作することで、再び会議に戻ることが可能です。

•「マルチメディア会議番号」を使用してビデオ会議を開催する

1

ダイヤル画面の「発話ボタン」をタップします。



【補足説明】

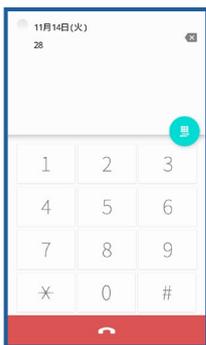
- 内線発信音（ツツツ…）が聞こえます。

2

「マルチメディア会議番号：280」をダイヤルします。

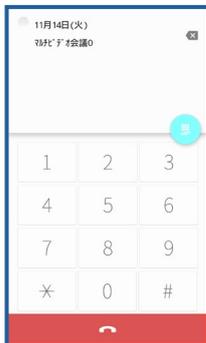
※「280」は主装置側のデータ設定が初期値の場合です。設定を変更している場合、変更後の番号をダイヤルしてください。

また、主装置側のデータ設定で特番を可変桁設定にしている場合、番号に続けて「#」をダイヤルしてください。



3

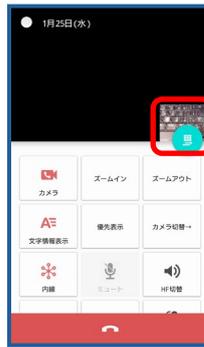
会議室（拠点）の拠点番号をダイヤルします。



【補足説明】

- 手順2の後に約5秒経過すると、ダイヤル不可の状態となりますので、事前に会議室（拠点）の拠点番号をご確認のうえ、ダイヤルしてください。
ダイヤル不可の状態となった場合は、「終話ボタン」をタップ後に再度手順1から順に操作を行ってください。

他の端末からの参加を待ちます。



【補足説明】

- 「HF切替ボタン」をタップすると（ランプが点灯します）、マイクとスピーカを利用したハンズフリー通話へ切り替えることができます。
ハンズフリー通話に関する詳細は、「5. アプリケーションの操作方法（便利な使い方）-ハンズフリー通話をする」のページをご参照ください。
- 「自画像送信ボタン」が無効になっている場合は、「画像送信を停止中です」の文字が表示されたブルーバック表示となりますので、「自画像送信ボタン」をタップして有効にしてください。
- 映像画面全体を薄暗く表示し、文字情報の表示を見やすくすることが可能です（本アプリケーションバージョン：02-02～）。
本アプリケーションの設定
→基本情報の設定-テレビ電話/カメラ連動設定-映像文字強調表示
- 端末側における画面自動回転の設定が「ON」の状態となっている場合のみ、端末を横向きにすると、映像画面のみを拡大して横向きに表示することが可能です（本アプリケーションバージョン：02-02～）。
端末を再度縦向きにすると、元の表示に戻ります。

•「マルチビデオ会議番号」を使用してビデオ会議に参加する

1

ダイヤル画面の
「発話ボタン」をタップ
します。



【補足説明】

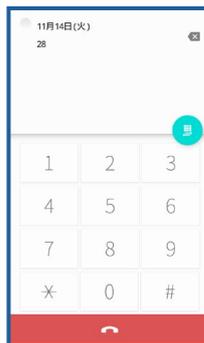
- 内線発信音（ツツツ…）が聞こえます。

2

「マルチビデオ会議番号：
280」をダイヤルします。

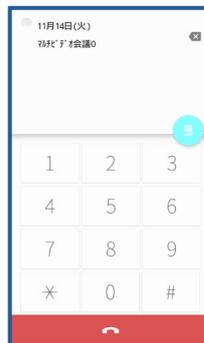
※「280」は主装置側のデータ設定
が初期値の場合です。設定を変更
している場合、変更後の番号を
ダイヤルしてください。

また、主装置側のデータ設定で
特番を可変桁設定にしている場合、
番号に続けて「#」をダイヤル
してください。



3

会議室（拠点）の拠点番号
をダイヤルします。



【補足説明】

- 手順2の後に約5秒経過すると、ダイヤル不可の状態となりますので、事前に会議室（拠点）の拠点番号をご確認のうえ、ダイヤルしてください。
ダイヤル不可の状態となった場合は、「終話ボタン」をタップ後に再度手順1から順に操作を行ってください。

4

ビデオ会議で通話します。



【補足説明】

- 「HF切替ボタン」をタップすると（ランプが点灯します）、マイクとスピーカを利用したハンズフリー通話へ切り替えることができます。
ハンズフリー通話に関する詳細は、「5. アプリケーションの操作方法（便利な使い方）-ハンズフリー通話をする」のページをご参照ください。
- 「自画像送信ボタン」が無効になっている場合、他の参加者から見える画面は「画像送信を停止中です」の文字が表示されたブルーバック表示となりますので、「自画像送信ボタン」をタップして有効にしてください。
- 各端末からの画像の左下に自拠点番号・端末の内線番号が表示されます。
- 本手順の状態から他の端末も続けて参加することが可能です。
- ビデオ会議中は、他のカメラの画像を見ること（「カメラボタン」のタップ）や文字情報の表示/非表示、端末のメイン/フロントカメラの切替などが可能です。
- ビデオ会議中の保留操作はできません。
- 映像画面全体を薄暗く表示し、文字情報の表示を見やすくすることが可能です（本アプリケーションバージョン：02-02～）。
本アプリケーションの設定
→基本情報の設定-テレビ電話/カメラ連動設定-映像文字強調表示
- 端末側における画面自動回転の設定が「ON」の状態となっている場合のみ、端末を横向きにすると、映像画面のみを拡大して横向きに表示することが可能です（本アプリケーションバージョン：02-02～）。
端末を再度縦向きにすると、元の表示に戻ります。

5

ビデオ会議から退出する場合は、「終話ボタン」をタップします。

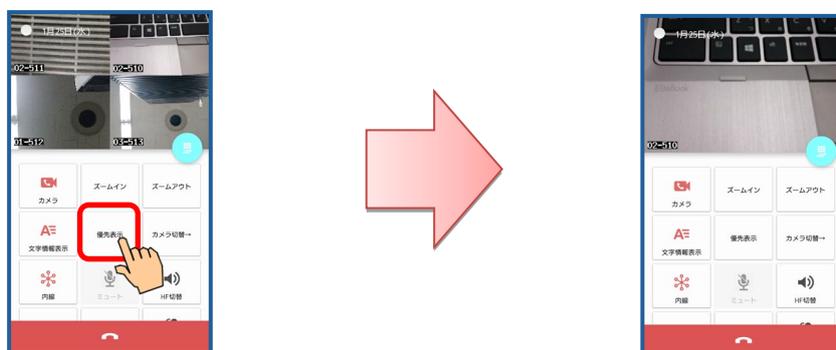


【補足説明】

- 一度退出をしても参加の手順を再操作することで、再び会議に戻ることが可能です。

補足説明

- 最大4者まで会議に参加した場合、画面は以下のようになります。また、本アプリケーションのカメラ連動画面の表示設定で「優先表示ボタン」をカスタマイズすることで、3者以上の会議の場合に「優先表示ボタン」のタップで自分の端末の画面のみを1画面表示へ拡大することが可能です（「優先表示ボタン」の再タップで元の画面表示へ戻ります）。



- ビデオ会議を行う会議室（拠点）は、16会議室（拠点）の中から選択が可能です。会議に参加する際は、目的の会議が開かれているか確認したうえでご参加ください。
- ビデオ会議機能を利用するにあたって必要な主装置側の設定及び画像サーバの設定に関する操作方法は各種マニュアルをご参照いただくか販売店へご相談ください。

ご注意

- 端末の圏外状態時は画像サーバとの接続が切断され、機能を利用することができません（本アプリケーションはダイヤル画面を表示します）。端末の圏内復旧・本アプリケーションの主装置再接続後に画像サーバとも再接続し、再度機能の利用が可能となります。

5. アプリケーションの操作方法（便利な使い方）

プッシュ通知機能を利用する

本アプリケーションがバックグラウンド状態（画面消灯時を含む）や未起動の場合においても、インターネットを経由したプッシュ通知機能を利用して着信時に本アプリケーションを起動させることが可能です。※事前に以下の主装置側のデータ設定を行っておく必要があります。詳細については、販売店にご確認ください。

- 主装置のIPアドレス：「デフォルトゲートウェイ」及び「優先DNSサーバ」の項目にシステム環境に接続しているルータ等のIPアドレスを設定
- プッシュ通知の利用有無：「あり」を設定
- プッシュ通知種別：「VoIPプッシュ通知」設定を推奨
※プッシュ通知種別の設定は「Si主装置ソフトウェアバージョン5-1版～」で利用可能となります（Xi主装置にこの設定項目はありません）。

また、本アプリケーションの下記設定についても必ずご確認ください。

（詳細は、「3. アプリケーションの設定」に関するページの記載をご参照ください）

- プッシュ通知→「使用する」に設定

本機能は「Si主装置ソフトウェアバージョン2-1版～」もしくは「Xi主装置ソフトウェアバージョン1-1版～」で利用可能となります。

また、事前に主装置をインターネットへ接続する必要があります（主装置がインターネットへ接続されていない場合は本機能が利用できません）。インターネットの接続方法については、販売店にご確認いただくか主装置の工事・保守マニュアル「工事マニュアル編-LANケーブルの接続」及び「データ設定マニュアル編-インターネットWeb設定 ■主装置のインターネット接続」の記載（Web設定専用コマンドの設定は不要）をご参照ください。

1

本アプリケーションがバックグラウンド状態や未起動の場合に着信を受けると、プッシュ通知機能によってアプリケーションが自動で起動して主装置へ接続します。起動後は着信中画面が表示されますので、「着信オフフックボタン」をタップして応答してください。



【補足説明】

- 端末の設定アプリで「強制終了」ボタンから本アプリケーションを終了している場合、本機能がご利用できません。
- 「1. 概要-アプリケーション導入上のご注意」へ記載している「電池の最適化」の設定無効化について、設定を無効化していない場合は本機能が正常に動作しない可能性がありますので、必ず設定を無効化してください。
- 本機能によって着信を受けた場合においても通常の着信時と同様に着信音が鳴動します。
- 本機能によって着信を受けた場合、「着信があります」の通知メッセージ(以下の図は一例)が通知ドロワーに表示されます。また、画面左上（ステータスバー）に「」の受話器アイコンが表示されます。本アプリケーションがフォアグラウンド状態で着信を受けた場合においても通知メッセージ及び受話器アイコンは表示されます。



- 通常の内線/外線着信の他、テレビ電話やインカムモードの着信時等においても本機能が利用可能です。
- 本アプリケーションの設定で着信時のフォントサイズを拡大表示することができます（本アプリケーションバージョン：02-06～）。

ご注意

- 本機能はインターネット経由で動作している関係上、ネットワーク環境の負荷状況やルータのネットワーク設定等によっては遅れて動作するもしくはプッシュ通知が届かないことがあります。
また、一度の着信で複数回プッシュ通知を受けることがありますが、ご利用中のサービス機能の動作には問題ありませんので、そのままお使いください。
- 外出等で端末が無線LANアクセスポイントの圏外状態となった場合、プッシュ通知を受けても主装置へ接続することができず、着信に応答することができません。外出等でプッシュ通知を受ける必要が無い場合は、外出前に主装置へ接続している状態で本アプリケーションの設定から「ログアウト」の操作を行い（詳細は、「3. アプリケーションの設定-ログアウト」のページをご参照ください）、主装置との接続を一時的に解除してください。

5. アプリケーションの操作方法（便利な使い方）

ASPサーバ着信機能を利用する

主装置側の「ASPサーバ着信機能」を利用時、本アプリケーションの電話機LCD表示部に受信したメッセージを表示することが可能です。

また、通常の各種履歴と分けてASPサーバ着信時の履歴を最大60件まで保存・表示することも可能です。
※事前に以下の主装置側のデータ設定を行っておく必要があります。詳細については、販売店にご確認ください。

- ASPサーバIPアドレス：「使用するASPサーバのIPアドレス」を設定
- ASPサーバポート番号：「使用するASPサーバのポート番号」を設定

「ASPサーバ着信機能」は主装置側の機能となりますので、詳細については、販売店にご確認ください。

• ASPサーバ着信に応答する

1

着信音が聞こえ、電話機LCD表示部にASPサーバから受信したメッセージを表示した状態で着信中画面が表示されますので、「着信オフックボタン」をタップします。



【補足説明】

- 本アプリケーションがバックグラウンド状態（画面消灯時を含む）や未起動の場合に着信を受けると、プッシュ通知機能によってアプリケーションが自動で起動して主装置へ接続します。起動後は着信中画面が表示されます。
- 着信音量は端末側の設定に依存します。着信音量の調節が必要な場合は、端末側の設定を変更してください。
- 本アプリケーションの設定で着信時のフォントサイズを拡大表示することができます（本アプリケーションバージョン：02-06～）。

2

表示されたメッセージの確認等を行います。



【補足説明】

- 受話音量やスピーカ音量は端末側の設定に依存します。受話音量やスピーカ音量の調節が必要な場合は、端末側の設定を変更してください。
- 「HF切替ボタン」をタップすると（ランプが点灯します）、スピーカを利用したスピーカ受話へ切り替えることができます。
- 左記の画面から以下の操作を行うことでキー情報が送信され、ASPサーバと通信することが可能です。
 - ① 「カーソルキー」のタップ
 - ② 「ダイヤルキー（0～9、*、#）」のタップ
（左記の画面から「入力操作切替ボタン」を2回タップすることで「ダイヤルキー」のタップが可能）

3

メッセージの確認等が終わったら、「終話ボタン」をタップします。



• ASPサーバ着信履歴を表示する

1

タブバーの「履歴」を
タップします。



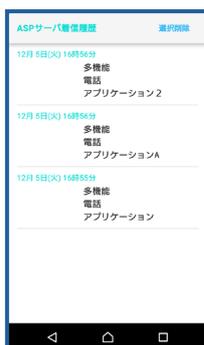
2

画面左上の「ASP履歴ボ
タン」をタップします。



3

ASPサーバ着信履歴一覧
画面が表示されますので、
内容を確認します。



【補足説明】

- 履歴は最大で60件保存されます。保存件数が多い場合は、上下いずれかにスワイプ操作を行ってください。既に履歴が60件保存されている場合、次の履歴保存時は一番古い日時の履歴から順に削除されます。

• ASPサーバ着信履歴を削除する

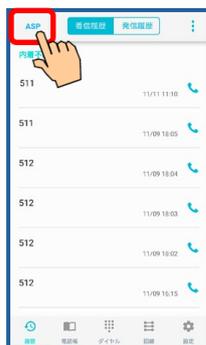
1

タブバーの「履歴」を
タップします。



2

画面左上の「ASP履歴ボ
タン」をタップします。



3

ASPサーバ着信履歴一覧
画面が表示されますので、
画面右上の「選択削除ボタ
ン」をタップします。



4

ASPサーバ着信履歴選択
削除画面が表示されますの
で、削除したい履歴の左横
にあるチェックボックスを
タップします。

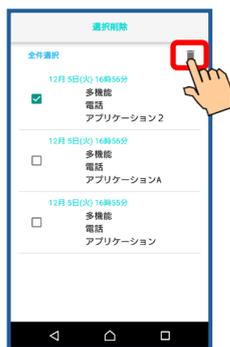


【補足説明】

- 画面左上の「全件選択ボタン」をタップすると、保存されている全ての履歴を選択することができます。
全件の履歴を選択後に選択を解除する場合は、「全件解除ボタン」をタップしてください。
- 端末の戻るボタン（例：◀）をタップすると、ASPサーバ着信履歴一覧画面へ戻ることができます。

5

削除したい履歴が選択された状態で画面右上の「削除ボタン」をタップします。



6

削除確認のダイアログが表示されますので、「OK」ボタンをタップします。画面が更新され、選択した履歴が削除されていることを確認します。

※削除を中止する場合は、「キャンセル」ボタンをタップします。



5. アプリケーションの操作方法（便利な使い方）

インカムモード着信に自動応答する

主装置側の「インカムモード機能」を利用時、ボタン電話機等と同様に本アプリケーションで受けた着信に自動応答します。

※事前に以下の主装置側のデータ設定を行っておく必要があります。詳細については、販売店にご確認ください。

- ・インカムグループの内線数：「本アプリケーションを含めて「インカムモード機能」を利用する内線数」を設定
- ・インカムグループの内線登録：「「インカムモード機能」を利用するグループ番号に本アプリケーションを接続する収容位置」を設定

また、本アプリケーションの下記設定についても必ずご確認ください。

（詳細は、「3. アプリケーションの設定」に関するページの記載をご参照ください）

- ・インカムモード自動応答→「自動応答する」に設定

本機能は「Si主装置ソフトウェアバージョン2-1版～」もしくは「Xi主装置ソフトウェアバージョン1-1版～」で利用可能となります。

また、「インカムモード機能」は主装置側の機能となりますので、本取扱説明書へ記載以外の主装置側のデータ設定や操作方法については、販売店にご確認いただくか主装置の工事・保守マニュアルや取扱説明書をご参照ください。

1

待機状態でインカムグループの招集者から着信を受けると、直後に自動応答してインカムモード通話の画面となります。

※1：インカムモード着信後、自動応答となる前に一瞬着信中画面が表示されます。

※2：自動応答後は、他の方の応答（参加）または主装置側で設定された応答待ち時間の経過を待ちます。

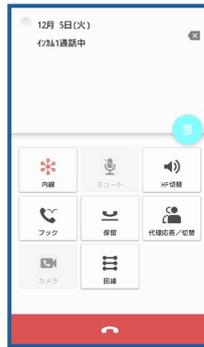


【補足説明】

- ・本アプリケーションの設定で「インカムモード自動応答：自動応答しない」となっている場合、インカムグループの招集者から着信を受けても自動応答せず、着信中画面で手動での応答操作が必要となります。
- ・自動応答後、インカムモード通話が開始されるまでは保留音が聞こえます。
- ・本アプリケーションがバックグラウンド状態（画面消灯時を含む）や未起動の場合にインカムモード着信を受けると、プッシュ通知機能によってアプリケーションが自動で起動して主装置へ接続し、起動直後に自動応答します。
- ・「HF切替ボタン」をタップすると（ランプが点灯します）、マイクとスピーカを利用したハンズフリー通話へ切り替えることができます。

ハンズフリー通話に関する詳細は、「5. アプリケーションの操作方法（便利な使い方）-ハンズフリー通話をする」のページをご参照ください。

インカムグループ内の全ての方が応答（参加）または応答待ち時間経過の後、インカムモード通話が開始されます。



【補足説明】

- インカムモード通話が開始されると、保留音が停止して冒頭音（ブブッ）が聞こえます（タイミングによっては音が途切れることがあります）。
- 通話開始直後、主装置側のデータ設定が初期値の状態では送話ミュートの状態となっていますので、他の方に送話が通りません。「回線ボタン」→主装置側で事前に登録したプログラマブルキー「送話ミュート」の順でタップ（ランプが消灯します）するか、「入力操作切替ボタン」→「*」の順でタップし、送話ミュートの状態を解除してください。通話中に再度送話ミュートの状態とする場合は、プログラマブルキー「送話ミュート」をタップ（ランプが点灯します）するか、「#」をタップしてください。
- インカムモード通話を終了（退出）する場合は、「終話ボタン」をタップしてください。主装置側のデータ設定で「インカムモードの終了条件」の設定を初期値から変更している場合は、「終話ボタン」のタップ以外の操作方法でインカムモード通話を終了（退出）することも可能です。詳細については、販売店にご確認ください。

補足説明

- 送話ミュート機能付きの有線ヘッドセット/Bluetoothヘッドセット等の各機器を使用して本機能を利用することも可能です。操作方法等の詳細については、各機器の取扱説明書をご参照ください。
 - 端末側の3G/LTE通話中にインカムグループの招集者から着信を受けた場合や、インカムモード通話中に3G/LTE着信が入った場合の動作は以下のようになります。
 - 端末側の3G/LTE通話中にインカムグループの招集者から着信を受けた場合：本アプリケーションがフォアグラウンド状態（着信中画面）で起動します。3G/LTE通話終了後に着信が継続している場合は、自動応答してインカムモード通話の画面となります。
 - インカムモード通話中に3G/LTE着信が入った場合：3G/LTE着信が入った場合または3G/LTE着信に応答した場合、インカムモード通話は終了（退出）の状態となります。この場合、ダイヤル画面からインカム()参加番号（主装置側のデータ設定が必要）をダイヤルするか、回線画面から主装置側で事前に登録したプログラマブルキー「インカム()参加」をタップすることで再度インカムモード通話に参加することができます。
- ※()内は、「1～6」のいずれかの数字となります。

5. アプリケーションの操作方法（便利な使い方）

外出先で利用する（どこでもでんわ）

本アプリケーションを4G/LTE、5Gなど携帯キャリアのモバイルデータ通信を利用することで、外出先（主装置のローカルネットワーク外）でも使用することができます。（「Xi主装置ソフトウェアバージョン2-1版～」および「本アプリケーションバージョン：03-01～」）

※本機能を利用するには下記の設定が必要となります。

（詳細は、「3. アプリケーションの設定」に関するページの記載をご参照ください）

【基本情報の設定－主装置電話帳／履歴設定】

- 主装置電話帳／履歴ポート番号
- ID
- パスワード

【保守情報の設定－ネットワーク接続条件設定】

- どこでもでんわ利用有無→「利用する」に設定
- 主装置ホスト名（*）
- 主装置TCPポート番号
- 内線番号

【保守情報の設定－プッシュ通知】（「基本情報の設定-その他」より移動【本アプリケーションバージョン：03-04～】）

- 「使用する」に設定

*：「主装置MACアドレス.主装置容量(xiccus/xiccula/xicculb).hoshunet.jp」の形式で入力します。

※事前に以下の主装置側の設定、ルーター設定を行っておく必要があります。詳細については、販売店にご確認ください。

- 主装置にどこでもでんわ対応のVoIP内線ユニット（VOIPUD）を実装する
- 主装置のDDNSサーバ登録を行う
- 主装置設定の「MFTアプリ2登録時のIPアドレス上書き有無」を「あり」に設定する
- 主装置設定の「サーバ証明書自動更新機能使用有無」を「使用する」に設定する
- 主装置側ネットワークのルーターにどこでもでんわ機能で使用するポートの解放設定、静的NAPT（静的IPマスカレード）設定を行う

ご注意

- ご自宅のWi-Fi接続や公衆Wi-Fi接続ではご利用いただけません。携帯キャリアのモバイルデータ通信をご利用ください。
- 緊急通報番号（110、118、119など）への発信および、#7119（救急相談センター）や#9110（警察への相談）などの「#」ダイヤルのご利用は、主装置に収容された外線からの発信となり、発信場所と異なる地域へ接続されますのでご利用しないでください。これらの番号への発信はスマートフォンの標準電話アプリをご利用ください。
- 本機能を利用する場合、以下の主装置サービス機能が制限されます。
 - 内線音声呼出機能：音声呼出の対象としないでください。
また、「*」ダイヤルによるトーン呼出/音声呼出の切り替えも行わないでください。
 - 内線一斉/グループ呼出機能：内線一斉/グループ呼出の対象としないでください。
 - 内線自動応答機能：内線着信音にメロディ、外部音源、システム応答メッセージを設定しないでください。
 - 外部スピーカ接続機能：外部スピーカ一斉+内線一斉呼出の対象としないでください。
 - チャイムタイマ機能：チャイム音送付の対象としないでください。
 - 地震速報連動機能：呼出対象とする場合は着信警報音を設定してください。
 - 非常警報機能：呼出対象とする場合は着信警報音を設定してください。

5. アプリケーションの操作方法（便利な使い方）

二次元コードで設定を行う

Xシリーズ主装置のデータ設定アプリケーション（バージョン：2.1.0.1～）で作成した二次元コードを読み取ることで本アプリケーションの設定をすることができます。【本アプリケーションバージョン：03-01～】

二次元コードで設定できる項目は下記の通り。

【基本情報の設定－主装置電話帳／履歴設定】

- 主装置電話帳／履歴ポート番号（*1）
- ID
- パスワード（*2）

【保守情報の設定－ネットワーク接続条件設定】

- どこでもでんわ利用有無
- 主装置ホスト名
- 主装置IPアドレス
- 主装置TCPポート番号
- 内線番号

【保守情報の設定－プッシュ通知】（「基本情報の設定-その他」より移動【本アプリケーションバージョン：03-04～】）

*1：二次元コードで主装置電話帳／履歴ポート番号を設定するときは「本アプリケーションバージョン：03-04～」、「Xi主装置ソフトバージョン3-1版～」、「データ設定アプリケーションバージョン：3.1.0.1～」が必要になります。この組み合わせ以外で利用する場合は主装置電話帳／履歴ポート番号が反映されません。主装置WEB設定内の「HTTPSポート番号」を変更した場合は、本設定を同じポート番号に手動で変更してください。

*2：二次元コードでパスワードを設定するときは「本アプリケーションバージョン：03-04～」、「Xi主装置ソフトバージョン3-1版～」、「データ設定アプリケーションバージョン：3.1.0.1～」が必要になります。この組み合わせ以外で利用する場合はパスワードが反映されませんので、二次元コードを読み込み後、手動でパスワードを登録してください。

補足説明

- 二次元コードで設定されない項目は必要に応じて手動で設定してください。
- 二次元コード読み取り後に主装置の設定を変更した場合は、主装置の変更に合わせて本アプリケーションの設定を変更するか、再度二次元コードを作成して本アプリケーションで読み込みを行ってください。